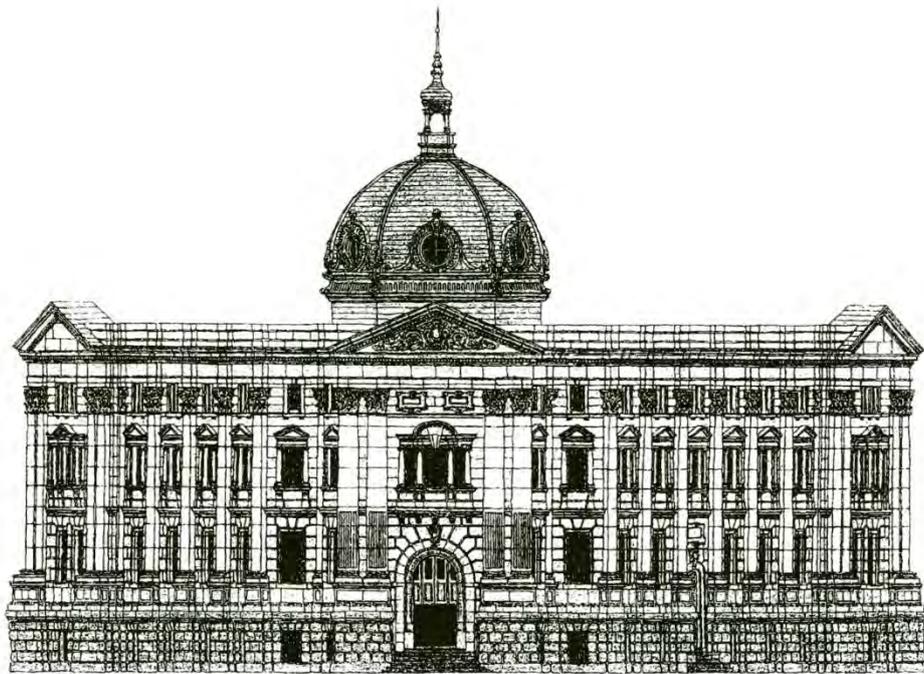


# 神奈川県立歴史博物館年報

平成28年度



神奈川県立歴史博物館

## はじめに

平成 28 年度は、空調設備等改修工事にあたり、5 月 29 日をもって常設展示及び特別展示を終え、休館となりました。

休館前最後の特別展「まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券—横浜正金銀行貨幣紙幣コレクションの全貌—」は、当館所蔵の横浜正金銀行券の全貌を初公開して、発行された経緯、券面に隠された印刷の特徴などを紹介しました。あわせて江戸時代の大判小判、国内外の金貨や銀貨を一堂に展示しました。

休館以後も博物館としての活動を継続してきました。収蔵品は他の博物館等に展示をみとめたうえで預かっていただいたり、民間保管庫に移転し、その後事務室は博物館直近のオフィスビル内に移転しました。10 月以降は県博講座をはじめ、各種講座、体験教室、さらに小中学校等への出張講座などの活動を通じて、県博をより身近に感じてもらうよう企画の充実に努めました。

例年と異なる活動の年となりましたが、より魅力的な博物館として再開できるよういっそう励んでまいります。

神奈川県立歴史博物館

## 目次

### はじめに

### 目次

#### 1 沿革・理念

- (1) 沿革…………… 3
- (2) 神奈川県立歴史博物館の理念…………… 4

#### 2 管理運営

- (1) 組織…………… 5
  - ア 組織及び分掌
  - イ 職員名簿
- (2) 歳入・歳出…………… 6
  - ア 歳入
  - イ 歳出
- (3) 入館者状況…………… 6
  - ア 入館者数
  - イ 有料入館者内訳
  - ウ 無料入館者内訳
  - エ 特別展の入館者状況
- (4) 広報・広聴…………… 7
  - ア 広報実績
- (5) 施設概要…………… 7
  - ア 概要
  - イ 館内施設
  - ウ 外部協力
  - エ 平面図

#### 3 調査・研究

- (1) 館独自の研究事業費によるもの… 11
  - ア 総合研究
  - イ 個別研究
  - ウ グループ研究
  - エ 調査研究成果報告会
- (2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの…………… 13
- (3) 日本海事科学館 海の学びミュージアムサポートによるもの…………… 15
- (4) 個人研究活動…………… 15
  - ア 研究報告書
  - イ 個人研究活動

#### 4 資料収集・修理・保管・利用

- (1) 考古資料…………… 29
- (2) 歴史資料…………… 29
- (3) 美術資料…………… 33
- (4) 民俗資料…………… 39
- (5) 写真資料…………… 40
- (6) 資料の燻蒸等…………… 40
- (7) その他の資料…………… 40
  - ア 図書
  - イ 写真
  - ウ 情報システム

#### 5 展示・教育普及・学習支援

- (1) 常設展…………… 43
- (2) 特別展…………… 43
- (3) その他の展示…………… 48
- (4) 教育普及・学習支援事業…………… 56
  - ア 講座
  - イ 子ども・青少年向け教育普及事業
  - ウ 学校支援事業
- (5) ミュージアムコンサート…………… 77
- (6) ミュージアムライブラリー…………… 78
- (7) 普及印刷物…………… 78
  - ア 図録
  - イ 広報印刷物
  - ウ 神奈川県立歴史博物館だより
- (8) ボランティアの活動…………… 78
  - ア 活動状況及び実績
  - イ 専門研修
  - ウ その他の研修
- (9) 博物館実習生の受け入れ…………… 79
  - ア 見学実習
  - イ 実務実習

#### 6 資料

- (1) 条例・規則…………… 81
  - ア 神奈川県立の博物館条例
  - イ 神奈川県立の博物館組織規則
  - ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則
- (2) 利用案内…………… 85

# 1 沿革・理念

## (1) 沿革

- 昭和 38 年 6 月 教育庁に博物館準備事務室を設置
- 昭和 41 年 11 月 神奈川県立博物館条例の制定により、神奈川県立博物館を設置  
神奈川県立博物館組織規則の制定により、庶務部、学芸部の 2 部を置く
- 昭和 42 年 3 月 神奈川県立博物館開館
- 4 月 附属機関の設置に関する条例の一部改正により神奈川県博物館協議会を設置(委員 20 名)
- 6 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部に庶務課、経理課の 2 課を置く
- 昭和 43 年 4 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部に学芸課、人文課、自然課の 3 課を置く
- 昭和 44 年 3 月 旧館である旧横浜正金銀行本店が国の重要文化財に指定される
- 昭和 44 年 7 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部を管理部に、庶務課を管理課に名称変更
- 昭和 47 年 8 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課の名称を廃し、企画調整課、学芸第一課、学芸第二課及び学芸第三課の 4 課を置く
- 昭和 49 年 8 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部に施設保全課を置く
- 昭和 52 年 5 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課を廃止
- 昭和 53 年 9 月 文部省学術研究機関の指定を受ける
- 昭和 55 年 2 月 入館者数 100 万人達成
- 昭和 62 年 4 月 第 2 次新神奈川計画の重点政策「文化施設 21 世紀構想」の一環として、博物館再編整備事業策定
- 昭和 63 年 12 月 神奈川県立博物館整備構想懇談会が「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」を提出
- 平成 2 年 3 月 人文系博物館の整備計画・展示計画策定
- 平成 3 年 3 月 博物館総合情報システム整備計画、資料収集計画を策定
- 平成 4 年 3 月 展示基本設計
- 平成 5 年 3 月 改修工事基本・実施設計、展示工事実施設計
- 4 月 県立博物館休館(～7 年 3 月)
- 10 月 改修工事及び展示工事開始
- 平成 6 年 11 月 改修工事終了
- 平成 7 年 1 月 神奈川県立博物館条例改正に伴い「神奈川県立博物館」は「神奈川県立歴史博物館」と名称変更、神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、企画情報部に企画普及課及び情報資料課の 1 部 2 課を置き、管理部の施設保全課を廃止
- 3 月 展示工事終了、博物館情報システムの一部稼働開始  
神奈川県立歴史博物館開館(18 日)
- 6 月 国の史跡に指定される
- 平成 9 年 7 月 博物館ボランティアが活動を開始
- 平成 11 年 2 月 金銅装笈・椿彫木朱漆笈・清拙正澄墨跡・石室善玖墨跡・源頼朝袖判下文・源頼家袖判下文が県の重要文化財に指定される  
神奈川の職人の道具(17 職種 1,982 点)が県の有形民俗文化財に指定される
- 平成 11 年 4 月 重要文化財の公開承認施設として文化庁から承認される
- 平成 13 年 1 月 三浦市間口洞窟遺跡出土品(450 点)が県の重要文化財に指定される
- 平成 13 年 3 月 附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を廃止
- 平成 18 年 4 月 神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部管理課と経理課を統合し管理課に改め、企画情報部企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
- 平成 19 年 11 月 旧館である旧横浜正金銀行本店が、経済産業省により近代化産業遺産(横浜港周辺の関連建築物群)に認定される
- 平成 21 年 8 月 入館者数 200 万人達成

平成 28 年 6 月 空調設備等改修工事のため休館  
9 月 事務室を(宇徳ビル 6 階に)移転  
10 月 空調設備等改修工事開始

## (2) 神奈川県立歴史博物館の理念

神奈川県立歴史博物館の前身は昭和 42 年開館の神奈川県立博物館である。昭和 62 年から自然系と人文系が分離分館する再編整備の検討が行なわれ、平成 7 年のリニューアル開館に至るまで、3 回にわたって博物館活動の理念やテーマが検討・提案された。

ア 昭和 63 年 12 月、神奈川県立博物館整備構想懇談会から提出された「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」（以下「提言」という。）

イ 平成 2 年 3 月に策定された「神奈川県立人文系博物館(仮称)整備計画」（以下「整備計画」という。）

ウ 平成 7 年 3 月の再編整備時に作られた「神奈川県立歴史博物館概要説明」（以下「概要」という。）

ア 「提言」における活動理念・テーマ

(ア) 人文系博物館の「意義」（「提言」を要約、抜粋）

- a 文化の視点からの未来の探求
- b 考古、歴史、美術、民俗等を統合化した新しい文化史の創造
- c 歴史的、文化的特色による神奈川のアイデンティティーの探求
- d 振幅の大きな神奈川の歴史にみる人々の生き方の探求
- e 神奈川の文化と内外の文化との交流や相互関係の探求
- f 文化史的意義のある資料の集積と後世への継承

(イ) 「基本テーマ」等の設定

a 基本テーマ：「文化の交流と変容」

上記の意義を踏まえ、また、神奈川の文化と歴史を専門的かつ学際的な観点から総合的にとらえる唯一の博物館として活動していくため、基本テーマが設定された。

b サブテーマ：「神奈川の文化と歴史を考える」「日本・世界の神奈川を考える」

空間的、時間的な広がりのある視点や、先人から受け継がれた地域の固有性をとらえる視点に立って 2 つのサブテーマが設定された。

c 展開の視点

これらの基本テーマ、サブテーマを、展示をはじめとした様々な博物館活動に反映させるため、次のような展開の視点が設けられた。

〔継承〕 各時代の文化と時代を超えて継承される文化を歴史の流れの中でとらえる

〔交流〕 他の国や他の地域との文化交流を空間的、時間的広がりの中でとらえる

〔変容〕 文化の変容をダイナミックにとらえる

〔風土〕 文化の特色を地域風土を通してとらえる

イ 「整備計画」における活動理念・テーマ

上記「提言」を受け、平成 2 年に「整備計画」が策定され、再編整備の具体的な内容がまとめられたが、「提言」における博物館の意義、性格、基本テーマなどは、歴史博物館のあるべき姿を示す目標・指針として継承されることとなった。

ウ 「概要」における活動理念・テーマ

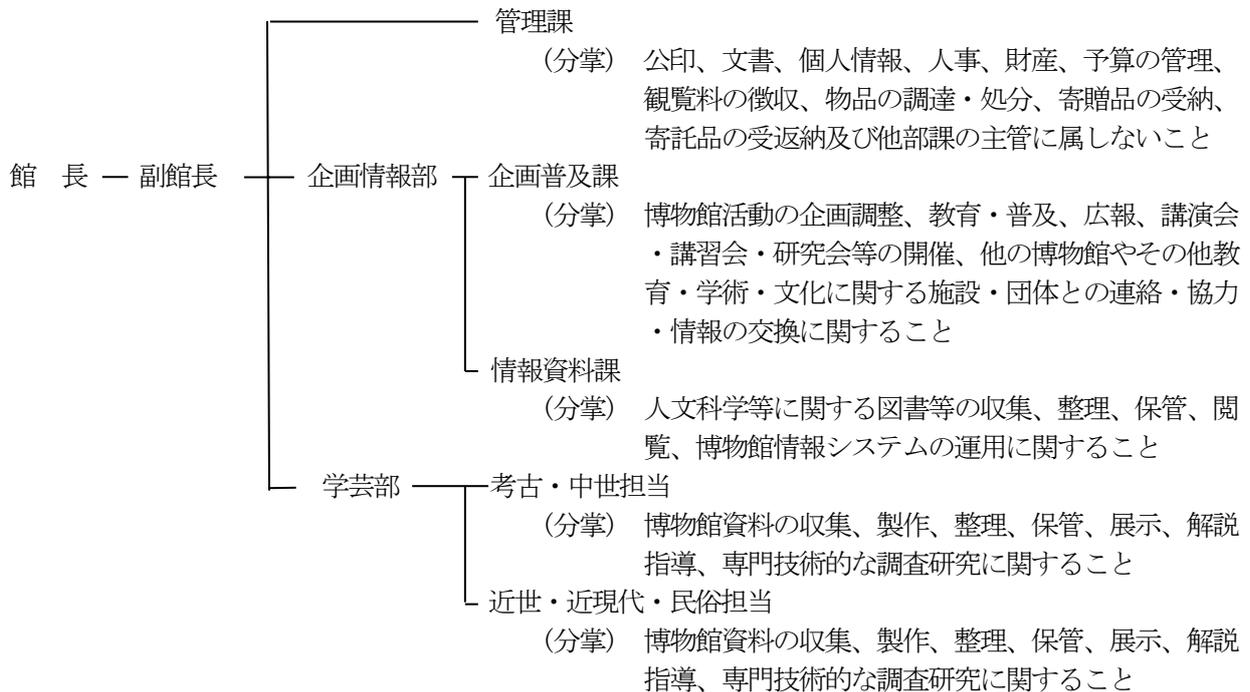
平成 7 年のリニューアル開館に際して作成された「概要」では、当館を「かながわの文化と歴史」を総合的に扱う博物館と位置付けて博物館活動の基本テーマとし、展示テーマを「文化の交流と変容」とすることが示された。

## 2 管理運営

### (1) 組織

(平成 28 年 4 月 1 日現在)

#### ア 組織及び分掌



#### イ 職員名簿

館長(技術)	薄井 和男	副主幹(兼務)	高田 泰子
副館長	竹内 廣一	非常勤司書	鈴木 隆雄
管理課長	勝又 隆	〃	山梨 いずみ
管理課 副主幹	佐藤 好枝	非常勤写真職	岸山 浩之
主査(事務)	細山 富幸	非常勤資料整理員	檜皮 千穂
〃	中山 聖枝	〃	浅井 真里子
主事	村野井 聡	学芸部長(技術)	寺寄 弘康
臨時主事	生澤 恵子	(考古・中世担当)	
専門員(事務)	柴田 健治	主任学芸員	古川 元也
非常勤事務補助員	瀬戸 昇	学芸員	小井川 理
非常勤自動車運転員	大塚 清志	〃	千葉 毅
企画情報部長	天野 勇	〃	神野 祐太
企画普及課長(技術)	永井 晋	〃	橋本 遼太
企画普及課 副主幹	山口 真喜子	専門員(技術)	鳥居 和郎
専門員(事務)	余合 和歌子	(近世・近現代・民俗担当)	
非常勤教育普及員	有村 泰治	主任学芸員	嶋村 元宏
非常勤事務補助員	板倉 桂子	〃	桑山 童奈
非常勤職員	野島 愛子	〃	丹治 雄一
非常勤学芸員	田辺 可奈	〃	角田 拓朗
〃	泉山 花江	学芸員	新井 裕美
〃	濱本 明海	専門員(技術)	古宮 雅明
情報資料課長	中村 喜一	非常勤学芸員	武田 周一郎
情報資料課 主幹(兼務)	篠崎 淑子	〃	根本 佐智子
副主幹	伊藤 友久	〃	三浦 麻緒
専門員(事務)	黒田 博明	〃	小澤 葉菜

非常勤資料整理員  
”

中村 茉貴  
吉澤 智恵子

専門員(事務)  
”

鈴木 尚遠  
小堀 信夫

## (2) 歳入・歳出

### ア 歳入

(単位：千円)

科 目	金 額	内 訳
行政財産使用料	103	ミュージアムショップ等の建物使用料
歴史博物館使用料	2,256	観覧料収入(常設展 1,028、特別展 1,228)
立替収入	575	喫茶室等の電気料・水道料
雑入	863	図録販売収入、ライブラリー複写料金等
教育受講料収入	479	県立機関活用講座受講料
合 計	4,276	

### イ 歳出(人件費含まず)

(単位：千円)

事 業 名	金 額	内 訳
維持運営費	161,596	維持管理・事業運営
博物館事業費	14,032	展示、調査研究、資料整備、学習支援等
施設整備費	10,502	施設改修
情報システム整備費	50,100	システム運用、データ入力等
県立機関活用講座開催事業費	408	講座の開催
教育施設維持修繕費	1,163	施設・設備の修繕
教育施設各所修繕費	999	講座の開催
合 計	238,800	

## (3) 入館者状況 ※空調設備等改修工事による休館のため平成28年6月以降の入館者数実態はなし。

### ア 入館者数

(単位：人)

	展示室入館者			フリーゾーン 利用者	合 計
	有料入館者	無料入館者	小 計		
4月	2,374	1,707	4,081	5,782	9,863
5月	6,413	4,905	11,318	8,663	19,981
合計	8,787	6,612	15,399	14,445	29,844

### イ 有料入館者内訳

(単位：人)

	個人				団体(団体扱い含む)				合計
	20歳 以上	20歳 未満	高校生	65歳 以上	20歳 以上	20歳 未満	高校生	65歳 以上	
4月	907	66	258	803	328	12	0	0	2,374
5月	2,002	183	175	2,633	1,321	99	0	0	6,413
合計	2,909	249	433	3,436	1,649	111	0	0	8,787

ウ 無料入館者内訳

(単位：人)

	条例別表備考欄指定の無料入館者				減免による無料入館者						合計
	未就学 幼児	小学生	中学生	特別 支援 学校	高校生	生徒 引率者	優待券	招待券	障がい者	その他	
4月	25	299	311	0	621	45	6	212	118	70	1,707
5月	35	269	1,124	0	1,366	61	32	1,600	211	207	4,905
合計	60	568	1,435	0	1,987	106	38	1,812	329	277	6,612

エ 特別展の入館者状況(前掲表内数)

(単位：人)

特別展名	有料鑑賞者	無料鑑賞者	合計
まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券 —横浜正金銀行貨幣紙幣コレクションの全貌—	3,930	5,636	9,566

(4) 広報・広聴

ア 広報実績

平成28年度の広報実績は下記の通り(館のPR、特別展・テーマ展、催しもの等)。

(単位：件)

媒体別	紙媒体				電波媒体		インター ネット	計
	新聞	雑誌	単行書	その他	テレビ	ラジオ		
件数	20	37	8	10	10	7	49	141

(5) 施設概要

ア 概要

(ア) 施設の規模

敷地面積 4,160.82 m<sup>2</sup>  
 構造 石・煉瓦造り(一部鉄筋コンクリート造り)地上3階・地下1階  
 延床面積 10,565.47 m<sup>2</sup>  
 部門別面積 展示部門=約3,896 m<sup>2</sup>、学習支援部門=約386 m<sup>2</sup>、収蔵部門=約619 m<sup>2</sup>  
 研究部門=約1,306 m<sup>2</sup>、サービス部門=約438 m<sup>2</sup>、管理部門=約1,251 m<sup>2</sup>  
 その他共用部分=約2,670 m<sup>2</sup>

(イ) 建物の特徴

旧館部分 旧横浜正金銀行本店本館(明治37年(1904)竣工、設計：妻木頼黄)  
 ネオ・バロック様式  
 新館部分 神奈川県立博物館として新築(昭和42年(1967))  
 指定状況 国指定重要文化財(建物旧館部分・昭和44年(1969)3月12日指定)  
 国指定史跡(平成7年(1995)6月27日指定)

(ウ) 施設の状況

- 1 階：【展示室、学習支援関係諸室】  
 特別展示室、コレクション展示室、  
 ミュージアムライブラリー、ミュージアムショップ、喫茶室、情報処理室 等
- 2 階：【展示室、管理課・企画情報部関係諸室】

総合テーマ展示室(近世・近代・現代、民俗)

館長室、管理課、企画情報部、応接室、図書整理室、書庫 等

3 階：【展示室、学芸部関係諸室】

総合テーマ展示室(古代・中世)

学芸部、資料整理室、展示準備工作室、作業室、収蔵庫 等

地下1階：【講堂、バックヤード諸設備】

講堂、収蔵庫、荷捌室、防災センター、写場、暗室、資料整理室、その他機械室等

イ 館内施設

1階のフリーゾーンには来館者のために次の施設がある。

(ア) ミュージアムショップ

博物館の刊行物(展示解説書、特別展図録)をはじめ、神奈川の文化や歴史に関する書籍、所蔵資料の絵はがき、博物館見学の記念になるような品々を販売する。運営は民間の企業が行っている。

(イ) ともしひ喫茶室

来館者に休憩してもらえるように喫茶室がある。軽食、喫茶ができ、店内には県内の福祉施設で作られた品々も販売されている。運営は「社会福祉法人 県央福祉会」が行い、知的障がい者の就業の場ともなっている。

ウ 外部協力

神奈川県立歴史博物館には、県内の博物館の質的向上や文化財に対する普及啓発を行う次の外部団体の事務局が設置されている。

(ア) 神奈川県文化財協会

昭和29年(1954)から活動している任意団体である。現在は会員に対しての講演会、見学会など文化財に関する知識の啓発活動を中心に活動している。協会員数248人(平成28年4月1日現在)。

事務局長	副館長	竹内 廣一
事務局次長	学芸部長	寺寄 弘康
事務局員	企画普及課長	永井 晋
〃	主任学芸員	角田 拓朗
〃	学芸員	千葉 毅
〃	主査	細山 富幸
〃	主事	村野井 聡
〃	専門員(事務)	鈴木 尚遠

(イ) 神奈川県博物館協会

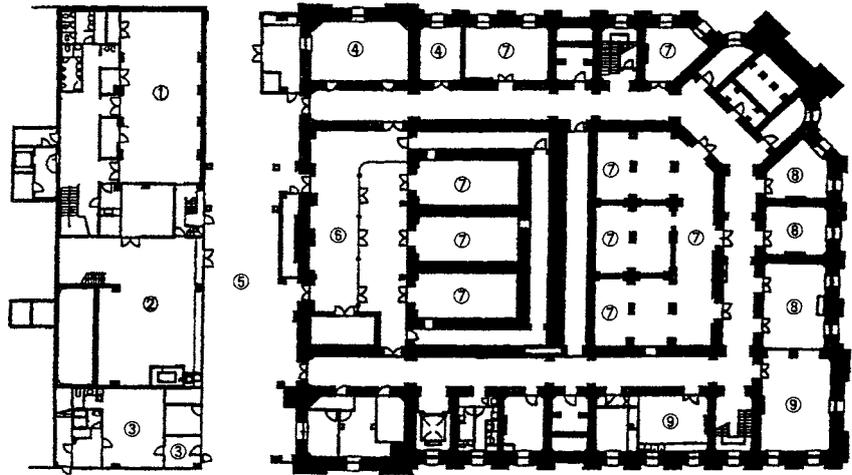
昭和30年(1955)から活動している県内博物館施設の任意団体で、博物館のPR、職員の研修、会報の発行など各種活動を行っている。加盟館園数95館(平成28年4月1日現在)。

会長	館長	薄井 和男
事務局長	副館長	竹内 廣一
事務局次長	学芸部長	寺寄 弘康
60周年記念事業 災害対策部会担当幹事	主任学芸員	角田 拓朗
人文科学部会幹事	学芸員	小井川 理
事務局員	副主幹	佐藤 好枝
〃	専門員(事務)	小堀 信夫

エ 平面図

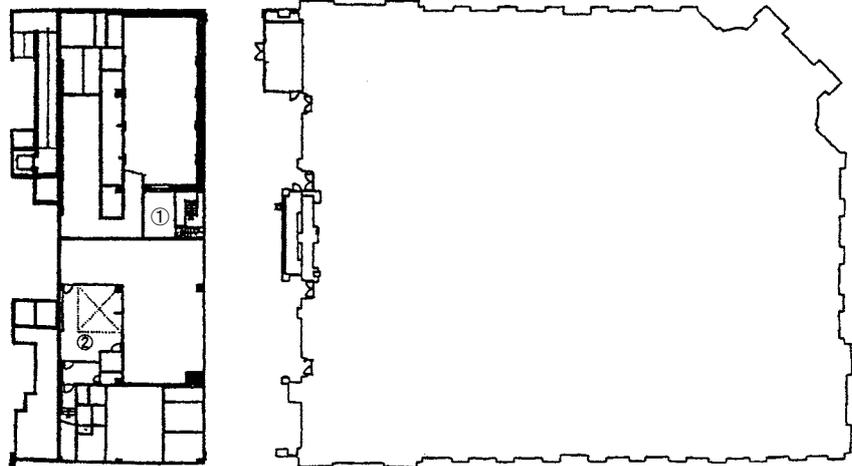
地下平面図

- ①講堂
- ②機械室
- ③防災センター・保安室
- ④電気室
- ⑤サービスヤード
- ⑥荷捌室
- ⑦収蔵庫
- ⑧資料整理室
- ⑨写場・暗室



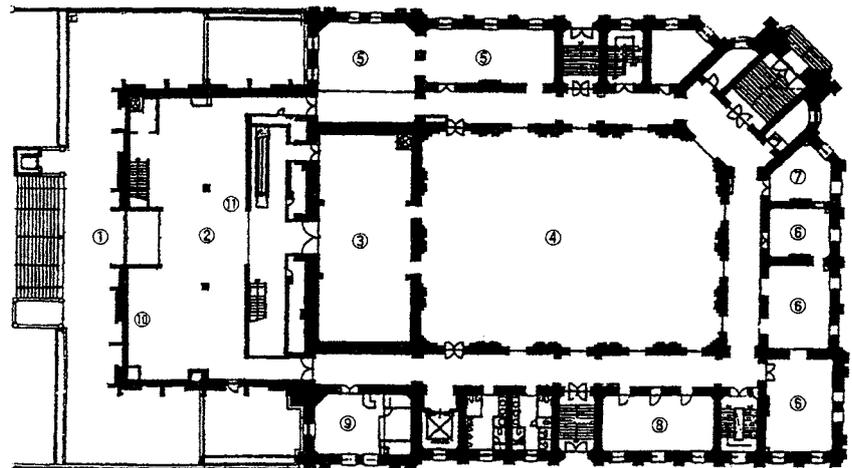
中1階平面図

- ①放送器機・映写室
- ②中央監視室



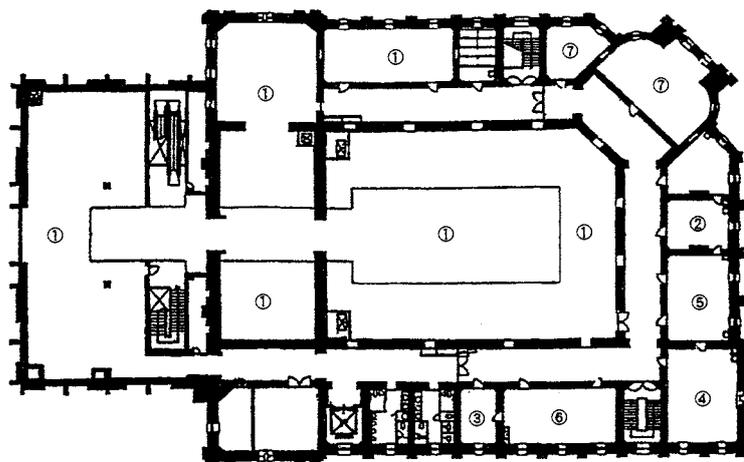
1階平面図

- ①玄関
- ②エントランスホール
- ③導入展示室
- ④特別展示室
- ⑤コレクション展示室
- ⑥ミュージアムライブラリー
- ⑦情報処理室
- ⑧会議室
- ⑨喫茶室
- ⑩ミュージアムショップ
- ⑪総合案内



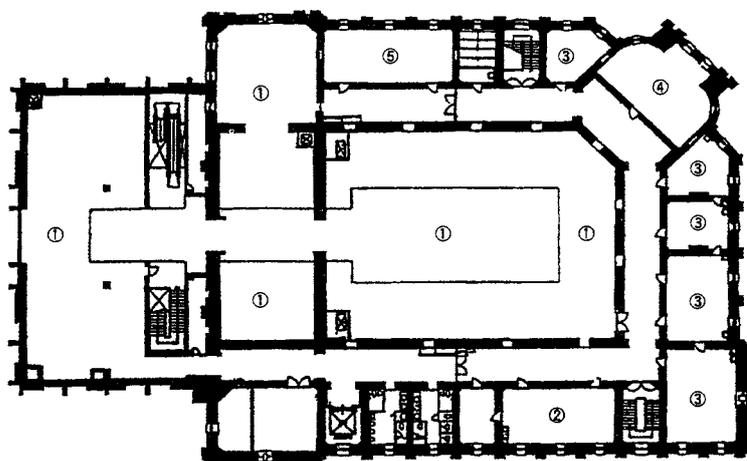
2階平面図

- ①展示室
- ②館長室
- ③第二応接室
- ④管理課
- ⑤応接室
- ⑥企画情報部
- ⑦図書整理室・書庫



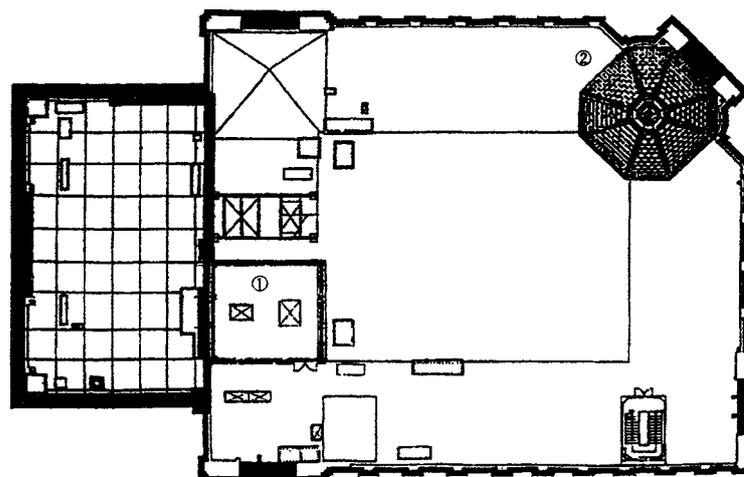
3階平面図

- ①展示室
- ②学芸部
- ③資料整理室
- ④展示機材倉庫
- ⑤收藏庫



屋上平面図

- ①空調機械室
- ②ドーム



### 3 調査・研究

#### (1) 館独自の研究事業費によるもの

##### ア 総合研究

①テーマ：鎌倉彫後藤家資料に見る近代鎌倉彫の受注に関する基礎的研究

担当：学芸員 小井川 理

共同研究者：後藤圭子氏（鎌倉彫後藤家当主、(株)博古堂代表取締役）（平成28年度）

期間：平成26～28年度

概要：鎌倉彫後藤家には、明治時代以降の鎌倉彫の注文制作をめぐる、賣上帳、注文帳と題される記録が残る。それらの帳面には、発注者、品物、値段等が記載され、当時の鎌倉彫の受容層の広がりや意匠に対する志向がよみとれる。本研究は、後藤家資料の読解分析を通して、近代鎌倉彫成立期の受容の様相を明らかにし、鎌倉彫が観光地鎌倉に根ざした工芸として確立されるに至る社会的背景を考察するものである。平成28年度は7点の資料の翻刻作業を行い、報告書原稿を作成した。

また、内容分析により工房経営の実際を直接に伝える資料群として、鎌倉彫後藤家の近代の仕事とともに、神奈川および鎌倉の近代の様相を伝える資料としての可能性に着目した。

②テーマ：岩崎教章・章山に関する総合的研究

担当：主任学芸員 角田 拓朗

共同研究者：銅石版画研究家 森登氏、非常勤学芸員 武田 周一郎

期間：平成26年～29年度

概要：平成28年度は、最終年度の報告書の完成を見据えつつ、テーマの絞り込み等をおこなった。具体的に、角田は岩橋章山の銅版画史研究とその発信に焦点をあて、原稿「日本の銅版」を分析した。『エッチング』誌上における発表時との異同を把握し、西田武雄の関与を推定した。そのほか、武田は地図、森は『正智遺稿』周辺にかかる調査研究を実施した。各人の成果については、年度末の研究会で情報共有を図った。

##### イ 個別研究

テーマ：神奈川県における平安時代彫刻の基礎的研究

担当：学芸員 神野 祐太

期間：平成28年度

概要：神奈川県における平安時代彫刻は、鉦彫り像など特徴的な仏像が注目されるが、鎌倉時代に比べればその注目度は低い。一方で平安時代の県域に関する文字資料はかなり限られており、仏像はその歴史を考察するうえで、最も重要な歴史資料となりうるのである。そこで本研究ではあらためて平安時代の仏像に注目し、東国の平安彫刻史に関する諸問題を考察する基礎資料としたい。

##### ウ グループ研究

次のテーマでグループごとに研究を進めている。

考古：神奈川県内遺跡・遺物調査

中世：宋風文化の研究

近代：横浜の木版印刷に関する基礎的研究

現代：戦後横浜における映画館活動に関する基礎的研究

民俗：民俗社会における贈答慣行

教育普及：小・中学校の見学実習を支援するワークシートの開発と検証

##### エ 調査研究成果報告会

開催日時：平成29年3月6日(月) 13:15～16:55

内容：総合研究および個別研究の成果・報告書の内容について報告した。

(ア) 総合研究

- a 発表者：学芸員 小井川 理  
テーマ：鎌倉彫後藤家資料に見る近代鎌倉彫の受注に関する基礎的研究  
概要：前記「ア 総合研究 ①」を参照
- b 発表者：主任学芸員 角田 拓朗  
テーマ：岩橋教章・章山に関する総合的研究  
概要：前記「ア 総合研究 ②」を参照

(イ) 個別研究

- a 発表者：学芸員 神野 祐太  
テーマ：神奈川県における平安時代彫刻の基礎的研究  
概要：神奈川県内の各市町村がおこなった悉皆調査の報告書等をもとに、県内の平安時代彫刻のリストを作成した。その中には、建久3年(1192)、北条政子産氣加持をおこなった寺社が含まれており、平安時代以来の霊験あらたかな寺社と認識されていたとみられる。特に大山寺に注目し、同寺に安置される平安時代の不動明王坐像について実査をおこなった。
- b 発表者：主任学芸員 古川 元也  
テーマ：日本中世における青磁盤の位置と用法について  
概要：日本中世期に、大陸より舶載され、日本国内で流通した器物に青磁盤がある。これら青磁盤は径一尺前後のものが一つの類型として存在し、16世紀の在地権力者館跡(十三湊、朝倉一乗谷、中条江上館など)からは必ずといっていいほど出土するため、考古学的研究にあつては、当時の特徴的な威信財として見なされている。これら青磁製の盤が本来的にどのように使用されるものであり、日本国内でどのように使用され、継承されたのかといった点については看過されてきた。唐物としての青磁盤はそのものが威信財であるゆえにあえて用法は問われなかったのかもしれないが、とすれば盤であることの意味はどこに求められるか。本報告では、いまだ用法に対する言及の少ない青磁盤について、用法と所有する意味の観点から検討を行った。
- c 発表者：主任学芸員 桑山 童奈  
テーマ：大小暦と浮世絵師  
概要：太陰太陽暦の大の月、小の月を絵画化するなど趣向を凝らしたカレンダーである大小暦は私的な出版物で、錦絵(浮世絵版画)の発展と密接な関係を持つものである。28年度から大小暦の研究を課題とする科学研究費の分担者となり、当館が借用している長谷部コレクションの大小暦の本格的な調査研究をはじめた。
- d 発表者：非常勤学芸員 武田 周一郎  
テーマ：神奈川県鳥瞰図が発信した昭和初期の県域  
概要：関東大震災から復興を遂げた県域を描いた神奈川県鳥瞰図は、1935年の箱根観光博覧会などで展示され、「観光県神奈川」のすがたを内外に発信した。本報告では都市計画の観点から本図を検討し、山県治郎知事が主導した都市計画としての観光政策が反映されていること、またその象徴として本図作成時には未完成であった湘南海岸道路や、未指定であった箱根国立公園が描かれていることを明らかにした。
- e 発表者：非常勤資料整理員 中村 茉貴  
テーマ：生巧館による木口木版の掲載先について—三木楽器関係資料を中心に—  
概要：平成27～28年度共同研究に関する調査報告。国文学研究資料館所蔵の木口木版(校正刷り)約6000点の中に、三木楽器の広告に使用された挿図が数十点含まれていたことから、掲載先の教科書や出版社について言及した。

- f 発表者：非常勤学芸員 田辺 可奈  
 テーマ：常設展示室における観覧者動向について  
 概要：当館ボランティアスタッフへ実施した当館常設展示室の観覧者動向についてのアンケートを基に、当館の来館者が展示室内でどのように活動しているのか、またボランティアとのコミュニケーションによって観覧動向にどのような影響があるのかについて考察した。
- g 発表者：非常勤学芸員 根本 佐智子  
 テーマ：川崎宿復元の試み  
 概要：文久三年二月の將軍上洛に際し、東海道筋の各宿場では宿並に関する詳細な書上げが作成された。川崎宿においても「文久三年將軍御上洛ニ付宿並図書上」（川崎市市民ミュージアム所蔵）が作成され、当時の川崎宿の宿並の様子を詳細に知ることができる。この「文久三年將軍御上洛ニ付宿並図書上」のデータを表にまとめ、さらに一軒ずつを明治初期に作成された「川崎駅全体之図」（同所蔵）の地割に配置をすることで、川崎宿の宿並の推定復元を試みた。
- h 発表者：学芸員 新井 裕美  
 テーマ：石工の活動について—神奈川県内における信州石工の活動—  
 概要：近世以降に神奈川県内で造立された各種石造物の銘から、信濃国一特に伊那郡高遠藩（長野県伊那市）—出身の高遠石工の活動を考察した。高遠石工は、江戸時代前期頃から同国内・甲斐・上野・相模・武蔵・駿河・美濃などへ出稼ぎに行き、滞在先で様々な石造物の制作に従事した。分析した対象は、高遠石工による石造物で、具体的には近世中期以降に庶民信仰の隆盛に伴って制作された地蔵や庚申塔などの信仰に関わる石造物、石段等の建築物、そして高遠石工自身の墓である。

## (2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの

神奈川県立博物館であった昭和53年度から、文部省学術研究機関の指定を受け、科学研究費助成金が交付されるようになった。神奈川県立歴史博物館に機構変更後も継続して指定されている。平成28年度の採択は2件である。

- ア 研究種目名：基盤研究(C)  
 課題番号：26370812  
 研究課題：横浜正金銀行ニューヨーク支店に関する研究  
 研究代表者：学芸部長 寺寄 弘康  
 研究期間：平成26～28年度  
 研究実績概要：研究最終年度となる今年度は、前年度に引き続き、本店公信、ニューヨーク出張所半季実際考課状の翻刻を実施するとともに、横浜正金銀行が作成した行員記録等によりニューヨーク出張所およびニューヨーク支店の全支配人と、大正7年以降昭和16年の支店閉鎖までの支店勤務者の一覧表を作成した。これらを含む本研究全体のとりまとめとして、研究成果報告書を刊行した。
- イ 研究種目名：基盤研究(C)  
 課題番号：16K03032  
 研究課題：中世鎌倉地域における寺院什物帳（文物台帳）と請来遺物（唐物）の発展的研究  
 研究代表者：主任学芸員 古川 元也  
 研究期間：平成28～30年度  
 研究実績概要：本研究では中世東国領域に関係して残された寺院什物帳（文物台帳）にみられる請来遺品の完全把握と史料論的検討、大陸から請来された伝世文物、出土遺物の実体把握、およびその比較検討を行うこととしている。本年度は、中世東国領域の寺院史料調査に

について、県立金沢文庫のほか神奈川県教育委員会文化遺産課、鎌倉市教育委員会文化財部、鎌倉国宝館（鎌倉市）の協力を得て実施された。具体的には各機関所蔵の東国諸寺院の史料群、データ等を検証し、関東近県の寺院資料類と伝世文物との関係を明らかにした。

ウ 研究種目名：研究活動スタート支援

課題番号：16H07488

研究課題：鎌倉～南北朝時代におけるやまと絵の様式展開に関する基礎的研究

研究代表者：学芸員 橋本 遼太

研究期間：平成28～29年度

研究実績概要：本研究は、制作年の明らかな基準作例（おもに絵画）の作品調査により、鎌倉時代～南北朝時代のやまと絵の様式展開について考察するものである。28年度は栃木県立博物館、神奈川県立金沢文庫などで作品調査の機会を得た。

エ 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：15H03502

研究課題：明治図画手工教科書データベース構築に向けた総合的基礎研究

研究代表者：岡山大学院教授 赤木里香子 氏

研究分担者：主任学芸員 角田 拓朗

研究期間：平成27～29年度

研究実績概要：本年度前半は、データベースの基礎となる資料の撮影とその整理を重点的に実施した。そこで得た知見に基づき、年度後半はデータ整理を継続しつつ、教科書群の性格等の把握につとめた。上記の知見については、年度末に実施した研究会で発表し、情報共有を図った。その成果は、最終年度のデータベース構築の基礎となった。

オ 研究種目名：基盤研究(S)

課題番号：26220401

研究課題：宗教テキスト遺産の探査と総合的研究—人文学アーカイブス・ネットワークの構築—

研究代表者：名古屋大学大学院教授 阿部泰郎 氏

研究分担者：主任学芸員 古川 元也

研究期間：平成26～30年度

研究実績概要：本研究では、中世に政権所在地であった鎌倉と、そのゆかりの地域に伝わる芸能と儀礼を検討した。具体的には、鎌倉には毎年7月中旬に行われる山ノ内地区の神輿巡幸、9月18日に行われる御霊神社の面掛行列など、宗教儀礼を中心に調査を進めた。祭りの起源や中央から鎌倉に伝播した関係を考えると、時間的・地域的な広がりを持つテーマであり、信仰の継承や宗教テキスト伝来の視点で残されたモノを見ることの重要性を提起した。また、鎌倉ゆかりの金沢、六浦地域の信仰も考察の対象とした。両地域には、具体的な信仰遺物(モノ)が継承されており、宗教テキスト(史料)とともに残存していることの重要性をも指摘した。

カ 研究種目名：基盤研究(B)

課題番号：16H03378

研究課題：大小摺物(絵曆)の美術史及び文化史に関する総合的研究

研究代表者：東京国立博物館客員研究員 岩崎均史 氏

研究分担者：主任学芸員 桑山 童奈

研究期間：平成28～30年度

研究実績概要：大小曆とは太陰太陽暦の1年の大の月、小の月を絵画化するなど機知を持ってあらわした私的な出版物で、錦絵(浮世絵版画)の発展と密接な関係を持つものである。今年度は当館が借用している大小曆の長谷部コレクションの宝曆(1751～64)以降の大小曆の目録作成をはじめた。

### (3) 日本海事科学振興財団・船の科学館 海の学びミュージアムサポートによるもの

研究課題：開国をテーマとした「海の学び」学習支援プログラムの開発に関する基礎的研究

研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏

研究期間：平成28～29年度

研究実績概要：学校における「海の学び」については、主に理科分野が中心であったことから、神奈川の歴史ならではの「開国」をテーマに、資料を活用した「海の学び」学習支援プログラムを開発することで、博学連携の強化を図ることを目的とした。そこで、博物館を知る教員と学芸員を研究分担者とする研究会を組織し、資料調査や他の博物館の事例研究を行い、2年計画のうち1年目の本年度は、主として小学校教員向けプログラムと児童向けプログラムについて検討した。これにより、これまで「海の学び」のみならず、博物館(資料)の活用に関心を向けてこなかった教員が、積極的に博物館ならびに資料を利用する機会を増すことを目論んだ。

その結果、本年度は以下の成果を得られた。

1. 教員および他館で博学連携にかかわる学芸員とともに研究会を組織し、調査研究テーマについて多角的に議論することにより、多様な学習支援プログラム案をそろえることができた。
2. 他の博物館の博学連携状況を実見する機会を持つことができた。
3. 当館所蔵資料に加え、他機関所蔵資料を調査研究することで、学習支援プログラムの幅を広げることができた。
4. 本調査研究にかかわる資料について、地元の研究者から意見をj得る機会を持てた。
5. 小学校教員向け指導案作成過程において、現職・元職の小学校教員から意見をいただく機会を設けることができ、現場に即した指導案作成をすすめることができた。

### (4) 個人研究活動

#### ア 研究報告書

『神奈川県立博物館研究報告 ー人文科学ー』第43号 平成28年12月22日発行

a-1 種別：研究ノート

表題：北条氏綱像の改変についてー北条早雲像、氏康像、時長像などとの比較からー

筆者：専門員 鳥居 和郎

要旨：戦国大名北条氏の菩提寺、箱根町の早雲寺には、北条早雲、氏綱、氏康などの歴代当主の肖像が伝来し、いずれも戦国期に描かれたとされる。しかし、氏綱像は中世の武家の座り方「胡座」ではなく正座姿で描かれている。この理由として氏綱没後に制作された肖像を江戸時代に改変したとの説、また、肖像は近世の制作とする説もあるなど、未だその評価が確定していない。氏綱像を早雲像、氏康像、北条幻庵嫡子時長像などと比較すると、座り方だけではなく、直垂、烏帽子、脇差などに近世の改変とみられる箇所がある。また、顔貌がよく似る早雲像と比較すると、頭部の輪郭線、眼、鼻、口などの位置が一致するため、早雲像の模本などを改変して氏綱像とした可能性が考えられる。

キーワード：北条氏綱、北条早雲、北条氏康、北条時長、肖像

a-2 種別：研究ノート

表題：明治期の箱根山周辺産安山岩の石材利用と土屋大次郎の事業活動

筆者：主任学芸員 丹治 雄一

要旨：本稿の目的は、神奈川県足柄下郡岩村（現真鶴町）に生まれ、箱根山周辺産安山岩の採掘・販売を手がけ、のちには茨城県西茨城郡西山内村稲田（現笠間市）での花崗岩の採掘にも進出した土屋大次郎（1857～1910）の事業活動を現存する史料に基づいて跡づけることである。

土屋は、石材の採掘・輸送・販売・据付などの事業を展開した企業家で、その事業活動の初期には、岩・真鶴両村など神奈川県西部で産し、「相州堅石」とも称される箱根山周辺産安山岩を取り扱い、東京湾要塞の砲台群や横浜船渠・浦賀船渠両社のドック、横浜港の第二期築港工事などに石材を供給する一方で、1903(明治36)年に茨城県の稲田へ進出し、「稲田石」と通称される花崗岩の採掘にも参入した。

岩・真鶴など箱根山周辺産安山岩の採掘・販売から事業を興し、晩年には稲田での花崗岩の採掘・販売へと事業を拡大した土屋の事業活動は、箱根山周辺産安山岩＝「相州堅石」から茨城県産花崗岩＝「稲田石」へと土木建築用材としての石材需要がシフトしていく時代の趨勢を象徴するものと捉えることができよう。

キーワード：土屋大次郎、箱根山周辺産安山岩、石材、土屋家文書

b-1 種 別：資料紹介

表 題：神奈川県立歴史博物館所蔵の縄文時代擦糸文期土器群

—林國治氏旧蔵の横浜市十王堂免遺跡採集資料—

筆 者：学芸員 千葉 毅

要 旨：神奈川県立歴史博物館が所蔵する横浜市十王堂免遺跡採集縄文土器の報告を行なった。この資料は戦前戦後にかけて横浜地域周辺で考古資料を採集していた林國治氏の旧蔵資料である。

土器群の主体となる時期は縄文時代擦糸文期後半であり、当該期の遺跡としては多量の土器が採集されている。採集された土器片の数は、擦糸文期前半の土器群が86点、大浦山式土器が260点、東山式土器が22点、無文土器が286点、早期後半の土器群が10点、草創期隆線文期の可能性がある土器が5点となる。

これまでも指摘されてきた切れ目状の補修孔についてのほか、器面調整具の痕跡、口縁部の黒色化した土器、土器の大きさについて若干の考察を行なった。

キーワード：十王堂免遺跡、赤穂原遺跡、縄文土器、擦糸文土器、大浦山式土器、林國治

b-2 種 別：資料紹介

表 題：神奈川県立歴史博物館所蔵の縄文時代前期貝塚出土動物遺体

—横浜市上台遺跡住居址内貝塚ブロックサンプルの分析—

筆 者：吉永亜紀子 氏(日本動物考古学会)、学芸員 千葉 毅

要 旨：神奈川県立歴史博物館が所蔵する横浜市上台遺跡住居址内貝塚のブロックサンプルの分析報告を行なった。このサンプルは1976年に神奈川県立博物館が発掘調査した際に採集したものである。

出土動物遺体の定量的内容を明らかとし、当該地域の出土動物遺体データの追加を図るとともに、本遺跡の生業活動における貝類資源利用のあり方を検討した。

出土貝類種は計13種、古鶴見湾湾口部という立地を反映した組成であった。ハマグリが84%を占め、採貝活動領域は本遺跡周辺にあったと考えられる。主体的に採集されたハマグリは食料だけでなく貝製品の材料として利用されていたことが明らかとなった。貝刃において打ち欠きを特徴とする資料群、磨耗貝器がまとまって出土した点はほとんど類例がなく注目に値する。

キーワード：上台遺跡、住居址内貝塚、動物遺体、貝製品、縄文時代前期

b-3 種 別：資料紹介

表 題：神奈川県立歴史博物館所蔵の骨角器

—林國治氏 赤星直忠氏旧蔵の横浜市称名寺貝塚採集資料—

筆 者：高橋健 氏(横浜市歴史博物館)、学芸員 千葉 毅

要 旨：神奈川県立歴史博物館が所蔵する横浜市称名寺貝塚採集骨角器の報告を行なった。これらは林國治氏、赤星直忠氏旧蔵資料である。

今回報告した25点の資料は、現在称名寺A貝塚とされている地点から採集されたものである可能性が高い。銚頭、釣針、有尾刺突具などの狩猟漁撈具のほか、針や垂飾、貝

輪、貝刃などが含まれる。銚頭3点は、縄文時代後期初頭から中葉に位置づけられる。大型の銚頭は角座骨を含めた素材取りに特徴があり、その製作技術的な系譜や編年上の位置づけが注目される

キーワード：称名寺貝塚、骨角器、銚頭、縄文時代

b-4 種 別：資料紹介

表 題：神奈川県立歴史博物館所蔵横浜市称名寺貝塚採集土器の胎土分析および赤色顔料分析

筆 者：建石徹 氏(文化庁)、降幡順子 氏(奈良文化財研究所)、学芸員 千葉 毅

要 旨：神奈川県立歴史博物館が所蔵する横浜市称名寺貝塚採集縄文土器の一部について、胎土分析および赤色顔料分析をおこなった。

胎土分析を実施した13点の土器片すべてについて、南関東周辺の表層地質の一般的な特性が認められた。この傾向は、先に筆者らが実施した同貝塚出土土器の胎土分析の結果ともよく調和する。

赤色顔料分析では、2点から鉄系赤色顔料が検出された。本資料群が帰属する縄文時代中期末から後期初頭は、日本列島における水銀朱利用の開始期にあたるが、当該資料については水銀朱でなく、鉄系赤色顔料が用いられていた。

キーワード：称名寺貝塚、称名寺式土器、胎土分析、赤色顔料分析、縄文土器

b-5 種 別：資料紹介

表 題：神奈川県立歴史博物館所蔵の銅造観音菩薩立像について

—付・神奈川県所在善光寺式阿弥陀及び脇侍像一覧—

筆 者：学芸員 神野 祐太

要 旨：本稿は、神奈川県立歴史博物館所蔵である銅造観音菩薩立像の基礎データの紹介と伝来に関する若干の考察である。本像は善光寺式阿弥陀三尊の左脇侍とされ、鎌倉彫刻史上重要な作例の一つとして知られる。背面の再興銘を分析した結果、芸州広嶋常林寺住持の僧郭誉(廓誉と同一人物か)が関わっており、近世には広島城下に所在した可能性が高いことがわかった。

キーワード：善光寺式阿弥陀三尊、常林寺、廓誉

b-6 種 別：資料紹介

表 題：山北中学校遺跡出土の武蔵型板碑について

筆 者：専門員 鳥居 和郎

要 旨：中世の関東では緑泥片岩で造られた武蔵型板碑が広く展開したが、神奈川県域でも同様である。その分布は県の東部に多く、西に行くにしたがって減少する傾向にあり、箱根町、南足柄市、小田原市などの県西部ではほとんど存在しない。ところが、昭和二十六年(1951)に県西部に位置する山北町で、多数の武蔵型板碑が出土しており、武蔵型板碑の流通を考える上で重要な事例であるが、これまでその存在はほとんど知られていなかったため、出土した板碑の紹介を行った。

キーワード：武蔵型板碑、緑泥片岩製板碑、山北中学校遺跡、河村氏

b-7 種 別：資料紹介

表 題：個人所蔵 永徳四年銘鶴岡八幡宮金銅納経札について

筆 者：学芸員 小井川 理

要 旨：室町時代16世紀に盛行する六十六部廻国聖による納経と関わる遺品として示されてきた「永徳四年銘鶴岡八幡宮金銅納経札」について、同様の銘文を有する個人所蔵の実物資料の分析を通して、改めて中世の納経関係資料としての位置づけを試みた。

キーワード：金銅納経札、永徳四年、鶴岡八幡宮、六十六部廻国聖

b-8 種 別：資料紹介

表 題：松平造酒助江戸在勤日記一元治元年九月十一日～十月朔日—

筆者：非常勤学芸員 根本 佐智子、専門員 古宮 雅明

要旨：当館所蔵「松平造酒助江戸在勤日記」の翻刻。筆者松平造酒助は庄内藩士、家禄は千四百石。組頭や家中武器取扱掛をつとめた人物である。造酒助は元治元年八月より慶応元年八月まで江戸に在勤している。本稿は元治元年九月十一日から同十月朔日まで、全五十綴のうち、「四」「五」「六」を掲載した。造酒助が長州進発準備に奔走する中、庄内藩には御免の沙汰が下る。挿絵にはその旨を聞き脱力する姿が描かれ、造酒助の心情を見て取ることができる。

キーワード：松平造酒助、庄内藩、元治年間、江戸市中取締、新徴組

b-9 種別：資料紹介

表題：横浜正金銀行中井芳楠・長三郎関係資料群について

筆者：学芸部長 寺寄 弘康・非常勤学芸員 武田 周一郎

要旨：中井芳楠は1890年から1903年まで横浜正金銀行ロンドン支店支配人を勤め、創立間もない時期の正金銀行を支えた行員の一人である。本稿では、新たに受け入れた中井芳楠・長三郎親子の関係資料の概要を紹介し、その中から主要な資料を翻刻した。資料群には中井芳楠の辞令や中井長三郎宛の私信などのほか、本店からの通信文や株主総会の報告、人事異動の通知などといった正金銀行ロンドン支店の業務に関する資料が含まれる。これらは明治20年代後半から30年代にかけてのロンドン支店の活動を把握できるもので、とくに日清戦争の賠償金領収問題を契機に国際的な信用を増した同支店の姿を具体的に理解しうる点が重要である。

キーワード：中井芳楠、中井長三郎、横浜正金銀行、ロンドン支店

c 種別：事業報告

表題：幕末期の日露関係資料について―「海の学び調査・研究サポート」支援事業報告―

筆者：主任学芸員 嶋村 元宏

要旨：本稿は、公益財団法人日本海事科学振興財団・船の博物館の支援事業である「海の学びミュージアムサポート」のうち、「海の学び 調査研究サポート」による助成金で実施した調査研究の報告である。

調査機関ならびに調査地は以下の通りである。

(1)天理大学附属図書館、(2)大黒屋光太夫ゆかりの地、(3)大黒屋光太夫記念館、松前城周辺ロシア使節ラクスマン応接地、(4)函館市中央図書館、(5)北海道大学附属図書館、(6)シパンベルグ上陸地周辺(野付半島・北海道野付郡別海町)、(7)ラクスマン・ロシア使節入港地周辺(根室港・北海道根室市)、(8)もりおか歴史文化館、(9)古河歴史博物館(茨城県古河市)、(10)宮城県図書館、(11)北見市立中央図書館、(12)長崎市日露関係地(長崎県長崎市)、(13)長崎歴史文化博物館、(14)長崎港周辺(長崎県長崎市)、(15)真田宝物館、(16)葦山反射炉、(17)戸田造船郷土資料博物館、(18)戸田湾周辺(静岡県沼津市戸田)、(19)下田湾周辺地(静岡県下田市)。

この成果は、平成28年8月から「海の学び調査研究サポート」の助成金を得て実施している学習支援プログラムの開発に活用する予定である。

キーワード：ラクスマン、レザノフ、プチャーチン、海洋教育

イ 個人研究活動

(凡例) (刊行年などは西暦で統一)

氏名(役職・専門分野等)

1 著作

- (1) 単著・共著・学術論文
- (2) 書評・余録
- (3) 資(史)料紹介

2 学術口頭報告

3 図録執筆・解説書執筆

4 新聞・雑誌等への寄稿

5 各種調査委員会等

6 講師等

- (1) 講座講師等(特に館名を記さないものは神奈川県立歴史博物館での実施)
- (2) 県博講座等講師(特に館名を記さないものは、宇徳ビル会議室)
- (3) 出張講座講師

7 ここ1年間の課題・研究テーマ

薄井 和男(館長・美術・中世)

5 相模原市文化財保護審議会委員

逗子市文化財保護審議会委員

厚木市文化財保護審議会委員

川崎市文化財保護審議会委員

大磯町文化財保護審議会委員

平塚市文化財保護審議会委員

時宗文化財調査委員

- 6(2) 県博講座 「かながわの神像彫刻とその周辺」(全4回 ①『神像と神道美術』10月11日、②『神像と仏像』10月25日、③『かながわの神像(1)』11月8日、④『かながわの神像(2)』11月22日)

7 県内所在の神社所蔵の神像調査を行った。

寺寄 弘康(学芸部長・歴史・現代)

- 1(1)「横浜正金銀行ニューヨーク支店に関する研究」(『科学研究費助成事業基盤研究(C)研究成果報告書』2017年)

- (3)「横浜正金銀行中井芳楠・長三郎関係資料群について」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第43号、12月22日、pp.177-198、武田周一郎との共著)

- 3 特別展図録 『まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券』(概説 「横浜正金銀行の発行と特徴」 pp.129-137、4月22日)

- 4 「まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券1」(『毎日新聞』、4月30日)

「まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券2」(『毎日新聞』、5月7日)

- 6(1)特別展関連県博講座「横浜正金銀行の67年」(連続3回講座 第1回、5月1日)

川崎市民ミュージアム講座「東京オリンピックとかながわ」2月26日

- (2) 県博講座 「古文書解読講座—横浜正金銀行資料を読み解く」(全4回 ①『福沢諭吉と大隈重信—横浜正金銀行設立の背景—』10月13日、②『外国貿易と横浜正金銀行 その1 ニューヨーク支店』10月27日、③『外国貿易と横浜正金銀行 その2 リヨン支店』11月10日、④『横浜正金銀行員あれこれ—柏木秀茂頭取を中心に—』11月24日)

「かながわの150年 ペリー来航から高度経済成長まで」(全4回のうち ③『関東大震災再考』3月26日)

地域巡回講座「大磯の歴史と文化を辿る」(『近代の大磯 海水浴場と別荘』1月19日、大磯町郷土資料館)

- (3)「東京オリンピックと神奈川」(相模原市立小山小学校・10月3日、南足柄市立向田小学校・10月5日、海老名市立有鹿小学校・10月12日、高津養護学校生田分教室高等部・10月25日、横浜市立桜岡小学

校・11月21日、横須賀市立長浦小学校・11月25日)

「関東大震災と地域」(松陰高等学校・10月14日)

- 7 横浜正金銀行関係者の資料整理、行員録のデータベース化などを実施している。

永井 晋(企画普及課長・歴史・中世)

- 1(1)「鎌倉時代の文章道大業の家一勤める官職と活動の場一」(福島金治編『学芸と文芸 生活と文学の歴史学 九』 竹林舎発行)
- (2)歴史コラム「北条義時追討宣旨案(官宣旨案)から読み解く承久の乱」(『神奈川県立歴史博物館だより』203号、pp6-7、12月5日)
- 2 「鎌倉時代の小槻氏と常陸国吉田社」(11月24日、鎌倉遺文研究会例会報告、於：早稲田大学)
- 3 「源範頼の寺 大寧寺」(大寧寺発行リーフレット)
- 4 「特別展 中世東国の茶」(『かながわ文化財』112号)
- 5 日本仏教総合研究学会評議員・NPO法人鎌倉考古学研究所正会員・横須賀市文化財専門審議会委員
- 6(1)「鎌倉幕府・室町幕府の喫茶」(4月16日、公益財団法人国際茶道文化協会主催、中央労働基準協会ホール)  
「木曾義仲と坂東の武士団」(8月6日、直実・蓮生を学ぶ会、熊谷市立図書館)「源範頼と大寧寺」(8月4日 大寧寺範頼遠忌供養招待講師 大寧寺)
- (2)県博セミナーⅠ「資料からみた中世都市鎌倉」(全5回 ⑤『文献にみる鎌倉の中世』11月5日)  
県博セミナーⅡ「文献から読み解く中世都市鎌倉」(全5回 ⑤『古文書からみた中世都市鎌倉』3月4日)  
県博講座 「源氏三代」(全4回 ①『頼朝挙兵』10月13日、②『頼朝VS後白河院』10月27日、③『二代将軍頼家一頼朝の誤算が招いた悲劇一』11月10日、④『実朝暗殺一存続を許されなかった源家将軍一』11月24日)  
「学芸員が語る鎌倉の歴史」(全4回のうち ①『執権北条氏の街鎌倉』12月11日)  
学芸員が推すこの逸品「源頼朝袖判下文」(10月30日)  
地域巡回講座「金沢文庫・称名寺で鎌倉の文化をあじわう」(12月1日、金沢文庫、称名寺)  
体験教室「お抹茶文化に親しむ」(11月17日、松永記念館)
- (3)「蒙古襲来」(大船小学校・10月14日、フェリス女学院中学校、10月21日)  
「横須賀・浦賀の歴史と文化財」(根岸小学校・10月18日)  
「鎌倉武士と合戦」(門沢橋小学校・1月18日)
- 7 「中世都市鎌倉の密教」について研究

(古代・中世)

古川 元也(主任学芸員・歴史・中世)

- 1(2)「博物館のお引越し」(『神奈川県立歴史博物館だより』203号、p2、12月5日)
- (3)「天文二十年六月八日付 足利晴氏公帖」(『神奈川県立歴史博物館だより』通巻202号、pp.4-5、2016年5月、資料紹介、単著)
- 4 中外日報(提言欄、5回連載) 1. 寺院にとっての寺宝・什物、2. 寺宝はどのように伝わっているのか、3. 寺宝の公開と保護、4. 意識的に伝えていく、5. どこに預けるのが安全か、
- 5 三田史学会(慶應義塾大学)委員会委員  
日本古文書学会大会運営委員  
『古文書研究』(吉川弘文館)編集委員  
土浦市法雲寺調査員(土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場)
- 6(1)NPO法人ICP鎌倉地域振興協会主催、鎌倉の歴史を楽しむ講座  
鎌倉の歴史をひろげてみよう(4月24日)、鎌倉と藤沢一 一遍はどこから来たのか一(5月22日)、  
鎌倉と山崎一 廃寺光明寺とその周辺一(7月24日)、鎌倉と武州金沢一 六浦と金沢一(8月28日)、  
鎌倉と房総一 房総の北条氏領一(10月23日)、鎌倉と神奈川一 湊が結ぶ中世史一(11月25日)、  
鎌倉と武蔵国Ⅰ一 鎌倉道を考える一(1月22日)、鎌倉と武蔵国Ⅱ一 中世から近世へ一(2月26日)
- (2)県博講座「中世の文書に親しむ」(全4回 ①『中世の古文書はどんなものなのか』12月8日、②『身分を与える古文書』12月22日、③『権利を与える古文書』1月12日、④『庶民の古文書』)1月26日、「学芸員が語る鎌倉の歴史」(全4回のうち ②『鎌倉幕府滅亡後の鎌倉』12月18日)学芸員が推すこの逸品「源頼朝袖判下文」(10月30日)

- 体験教室「拓本をとってみよう」(子ども向け、1月29日)
- (3)「鎌倉の歴史」(横浜翠陵中学校・10月11日、横浜市立義務教育学校霧が丘学園小学部・10月31日、鎌倉市立稲村ヶ崎小学校・11月9日)
- 「世界遺産と日本遺産」(川崎市立中原小学校・10月21日)
- 「足柄上郡山北の歴史」(山北町立山北中学校・10月25日)
- 7 展示に資する日本中世宗教文化史の研究。空調設備等改修工事終了後のリニューアル展示に向けて調査・研究・準備を行った。継続的研究としては、請来文物等をはじめとする非文献資料を調査・研究し、記録との比較検討を通じて総合的な歴史復元に資することが出来る部分の検証を試みた。

小井川 理(学芸員・美術・中世)

- 4 「初代宮川香山 歿後100年を迎えて」(『有隣』第545号、2016年7月)
- 5 津久井町史調査執筆員(文化遺産部会員)
- 6(2)県博講座「鎌倉彫の歴史」(全4回 ①『鎌倉彫のおこり』2月9日、②『彫漆と木彫漆塗』2月23日、③『近世の鎌倉彫』3月9日、④『近代の鎌倉彫』3月23日)
- 「美術がひもとく、かながわ」(全4回のうち②『花開く東国文化一室町～桃山、関東水墨画と鎌倉彫』2月12日)
- 学芸員が推すこの逸品! 「鎌倉彫椿文笈」(11月13日)
- (3)「博物館・学芸員の仕事」(横浜女学院中学校・11月10日)
- 「鎌倉彫の歴史」(大和市立下福田小学校・11月14日)
- 「博物館・学芸員の仕事」(相模原市立並木小学校・11月22日)
- 7 館所蔵・保管の美術資料(中世絵画・工芸および近代工芸)に関する調査研究。  
近代鎌倉彫の受注に関する研究。

千葉 毅(学芸員・考古)

- 1(1)「学芸員と博物館と展覧会と一地域の博物館のいまとこれから」(『大倉山論集』第63輯、pp.215-232、大倉精神文化研究所、3月)
- 「残されたかたち 縄文からみえるもの」(『縄文と現代』pp.60-74、京都造形芸術大学 芸術館、8月)
- (2)「考古学者の書棚『貝塚の考古学』鈴木公雄著/東京大学出版会(1989)」(『アルカ通信』No.157p.4、考古学研究所(株)アルカ、10月)
- (3)「神奈川県立歴史博物館所蔵の縄文時代撚糸文期土器群―林國治氏旧蔵の横浜市十王堂免採集資料―」(『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第43号、pp.31-80、神奈川県立歴史博物館、12月)
- 「神奈川県立歴史博物館所蔵の縄文時代前期貝塚出土動物遺体―横浜市上台遺跡住居址内貝塚ブロックサンプルの分析―」(吉永亜紀子氏 共著、『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第43号 pp.81-100、12月22日)
- 「神奈川県立歴史博物館所蔵の骨角器―林國治氏、赤星直忠氏旧蔵の横浜市称名寺貝塚採集資料―」(高橋健氏 共著、『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』43号、pp.101-112、12月)
- 「神奈川県立歴史博物館所蔵横浜市称名寺貝塚採集土器の胎土分析および赤色顔料分析」(建石徹氏・降幡順子氏 共著、『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』43号、pp.113-120、12月)
- 2 「東京湾沿岸地域における縄文時代草創期後半の石器群研究の現状と課題―スタンプ形石器と「礫斧」の用途を中心として―」(三田史学会大会、6月25日、三田史学会、東京都港区、慶應義塾大学)
- 「上台貝塚における貝類利用」(吉永亜紀子氏 共著、ポスター発表)(日本動物考古学会 第4回大会、6月18日、日本動物考古学会、鳥取県鳥取市、鳥取市青谷町総合支所)
- 6(1)玉縄ヘリテージマネージャー育成講座「縄文時代のかながわ・かまくら」(8月18日、玉縄城址まちづくり会議)
- 博物館入門講座「学芸員の日『考古学資料をみる』」2月2日
- (2)県博講座「かながわの考古学入門」(全4回 ①『石をみる考古学者の眼』10月18日、②『旧石器時代の遺跡研究』11月1日、③『縄文土器から考える』11月15日、④『これは土偶か?』1月29日)
- 学芸員が推すこの逸品! 「縄文時代のフシギな石器」(10月16日)
- 体験教室「大人のためのまがたまづくり」(一般、1月24日)

- 「拓本をとってみよう」(子ども向け、1月29日)  
「まがたまをつくろう」(子ども向け、3月25日)
- (3)「縄文時代のかながわ」(横浜市立能見台小学校・10月17日)  
「鎌倉時代より前のかまくら?」(鎌倉市立深沢小学校・10月27日)
- 7 当館の所蔵する考古資料のうち、学史的、学術的価値の高いと考えられる資料の公表を行った。また既発表・報告資料についても今日的な視点や分析方法により、再検討を行った。

神野 祐太(学芸員・美術・中世)

- 1(1)「大安寺戒明请来の宝誌和尚像について」(津田徹英編『仏教美術論集』6「組織論—制作した人々」、竹林舎、pp. 11-24、2016年6月、単著)  
「论大安寺戒明请来宝誌和尚像」(『四川夾江千仏岩唐代佛教芸術研究』、2017年3月、翻訳: 卢超)
- (2)「彫刻作品の梱包と輸送—鎌倉国宝館への引越し—」(『神奈川県立歴史博物館だより』203号、pp. 3-4 2016年12月)
- (3)「神奈川県立歴史博物館所蔵の銅造観音菩薩立像について—付・神奈川県所在善光寺式阿弥陀及び脇侍像一覧—」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』43号、pp. 121-134、2016年12月、単著)  
「石手寺の彫刻」(『四国霊場第五十一番札所石手寺総合調査報告書』愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼世界研究センター、p. 8-29、2017年3月、松原潔と共著)  
「銅造如来坐像(伝阿弥陀如来像)」(『横浜の文化財』25 pp. 8-9 2017年3月、単著)
- 5 津久井町史文化財調査員
- 6(1)「日本の仏像のかたちをみる—飛鳥時代(1)—」(仏教美術史研究会、新百合トゥエンティワンホール 研修室、2017年1月19日)  
「仏像の魅力と鑑賞のポイントを学ぶ」(二宮町生涯学習ボランティア「学級・講座部会」、ラディアン(二宮町生涯学習センター)ミーティングルーム2、1月22日)  
「運慶を学ぶ—芦名の浄楽寺にある運慶仏の魅力語る—」(大楠観光協会、浄楽寺本堂および収蔵庫、2月25日)  
「神奈川県域における平安時代彫刻の基礎的研究」(調査研究成果報告会、宇徳ビル地下1階会議室、3月6日)  
「移動する県博の仏像—里帰り、引越し、そして保管—」(鎌倉国宝館×県立歴史博物館 若手学芸員による「愛しの仏像」トーク!、鎌倉国宝館、3月19日)
- (2)県博講座「かながわの仏像入門」(全4回 ①『飛鳥～平安時代の彫刻—鉦彫り・観音信仰・神仏習合—』2月14日、②『仏師運慶の登場—鎌倉幕府との関係から—』2月28日、③『禅宗彫刻の隆盛—宋風・伽藍神・頂相彫刻—』3月14日、④『鎌倉仏師の活躍—南北朝時代以降の彫刻—』3月28日)  
「美術がひもとく、かながわ」(全4回のうち ①『坂東に伝わった仏教文化—古代から中世の仏像—』2月5日)  
学芸員が推すこの逸品!「銅造観音菩薩立像—善光寺式阿弥陀如来像の脇侍の一例—」(11月6日)  
博物館入門講座「学芸員が目 仏像と文化財写真」(2月16日)
- (3)「鎌倉の仏像案内」(藤沢市立長後中学校・10月4日)  
「仏像になってみよう!」(横浜清風高等学校・10月7日、川崎市立中原中学校・10月22日)  
「鎌倉大仏のひみつ」(県立武山養護学校中学部・10月14日、相模原市立淵野辺東小学校・11月11日 県立柏陽高等学校・11月15日、聖セシリア女子中学校・11月26日)
- 7 神奈川県内の平安時代彫刻に関する調査研究。

橋本 遼太(学芸員・美術・中世)

- 6(2)県博講座「美術がひもとく、かながわ」(全4回のうち ②『花開く東国文化—室町～桃山、関東水墨画と鎌倉彫—』2月12日)
- (3)「室町絵画の魅力」(厚木市立依知南小学校・10月3日、川崎市立川崎小学校・10月6日、横須賀市立野比東小学校・1月17日)
- 7 館所蔵および保管の美術資料(主として中世絵画)に関する調査研究

鳥居 和郎(専門員・歴史・中世)

- 1(1)「北条氏綱像の改変について—北条早雲像、氏康像、時長像などとの比較から—」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第43号、神奈川県立歴史博物館、2016年12月、pp1-14)  
「山北中学校遺跡から出土した武蔵型板碑について」(『足柄乃文化』第44号、山北地方研史研究会、2017年3月、pp. 11-23)
- (3)「山北中学校遺跡出土の武蔵型板碑について」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第4号、神奈川県立歴史博物館、12月22日、pp135-144)
- 4 「石さんぽ3 江戸城の石垣に使う 早川石丁場の安山岩」(山下浩之と共著、『神奈川新聞』、2017年1月19日)  
「石さんぽ5 石塔類や磨崖仏にも 箱根火山の溶岩」(山下浩之と共著、『神奈川新聞』、2017年2月2日)
- 5 箱根町文化財保護委員会委員  
小田原市郷土文化館協議会委員  
小田原市文化財保護委員  
小田原城天守閣耐震改修等検討委員会委員  
小田原市博物館構想策定委員会委員
- 6(1)小田原シルバー大学16期会勉強会「戦国大名北条氏と職人」(小田原市川東タウンセンター「マロニエ」、4月14日)  
小田原シルバー大学16期会勉強会「後北条氏と文化」(小田原市川東タウンセンター「マロニエ」、5月12日)  
キャンパスおだわら学習講座「北条氏の領国支配・領国経営 第1回 北条早雲」(おだわら市民交流センター、7月14日)  
キャンパスおだわら学習講座「北条氏の領国支配・領国経営 第2回 北条氏綱」(おだわら市民交流センター、7月14日)  
キャンパスおだわら学習講座「北条氏の滅亡 第1回 小田原合戦」(おだわら市民交流センター、11月17日)  
キャンパスおだわら学習講座「北条氏の滅亡 第2回 その後の北条氏」(おだわら市民交流センター12月1日)
- (2)県博講座「戦国大名北条氏五代について」(全4回 ①『初代北条早雲』2月14日、②『二代北条氏綱』2月28日、③『三代北条氏康』3月14日、④『四代北条氏政、五代氏直』3月28日)  
「学芸員が語る鎌倉の歴史」(全4回 ③『戦国大名北条氏と鎌倉』1月15日)  
学芸員が推すこの逸品!「戦国大名北条氏と虎の朱印状」(10月23日)
- (3)「戦国大名北条氏について」(厚木市衣知小学校・10月24日、横浜市立戸塚高等学校・11月2日、横浜女学院高等学校・1月10日)
- 7 中世の神奈川県域の石の文化に関すること、また、後北条氏の外交に関すること。

(近世・近現代・民俗)

嶋村 元宏(主任学芸員・歴史・近代史)

- 1(1)小林和幸編『近現代日本の選択の瞬間』有志舎、2016年10月30日。共著。
- (3)「事業報告 幕末期の日露関係史料について—『海の学び 調査・研究サポート』支援事業報告」  
『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第43号、12月22日、pp. 199-208。
- 6(2)県博講座「横浜開港とペリー」(全4回 ①『異国船の出現と三浦半島の海防』12月8日、②『アヘン戦争とペリー来航予告』12月22日、③『アジアの中の日本開国』1月12日、④『横浜開港の世界史的意義』1月26日)  
「かながわの150年—ペリー来航から高度経済成長まで—」(全4回のうち ①『“黒船”来航とかながわ』3月5日)  
学芸員が推すこの逸品!「ペリー来航時の老中阿部家資料」(11月20日)  
教員のための博物館講座「教科書だけでは学べない神奈川の歴史—幕末開港期の舞台・関内と山手を歩く—」(8月5日)

- (3)「幕末・明治のクールジャパン」(大和市立中央林間小学校・10月3日、川崎市立西野川小学校・10月27日)  
「ペリーの顔・貌・カオ」(相模原市立青葉小学校・10月4日、南足柄市立福沢小学校・10月13日、横浜市立富岡小学校・10月17日、川崎市立東小田小学校・10月21日)  
「横浜はじめて物語」(川崎市立下沼部小学校・10月5日、横浜市立東汲沢小学校・10月26日、藤沢市立大道小学校・12月16日)  
「ペリーからの贈り物」(川崎市立宮内小学校・10月6日)  
「神奈川の開港と異文化交流」(藤沢市立小糸小学校・10月18日)  
「開国」(横浜市立若葉台小学校・10月25日)  
「欧米人の見た幕末・明治の日本」(横浜市立六ッ川台小学校・10月28日、横須賀市立津久井小学校・11月16日)  
「《文化》の衝突」(県立平沼高等学校・1月19日)
- 7 19世紀中葉の国際関係の変容を中心に研究を進めている。特に今年度は、開国の契機を1793年のロシアによる通商要求からと位置づけ、日露関係史料の収集・分析に集中した。また、博学連携プログラムの開発に関しても外部助成金を得て進めた。

桑山 童奈(主任学芸員・美術・近世)

- 1(2)資料紹介 北尾政演「青楼名君自筆集」修復報告(『神奈川県立歴史博物館だより』通巻204号、pp6-7、3月6日)
- 3 丹波コレクションと〈楽しい浮世絵ヒストリー〉(『楽しい浮世絵ヒストリー 丹波コレクションの世界』横浜市歴史博物館、3-4p、2016年)
- 5 国際浮世絵学会 理事・企画委員  
藤沢市藤澤浮世絵館運営委員  
公益財団法人氏家浮世絵コレクション評議員
- 6(1)横浜市歴史博物館浮世絵講座「浮世絵を楽しくみる」(7月10日、横浜市歴史博物館)  
NPO法人神奈川歴史遊クラブ 神奈川歴史講演会「浮世絵で巡る神奈川の物見遊山」(11月4日、横浜開港記念会館)  
神奈川県まち歩きボランティアガイド養成講座「浮世絵に見た東海道」(1月14日、かながわ県民センター)  
戸塚見聞楽会 武相宿場連携まつり・戸塚宿ワーキング 浮世絵から見る東海道と戸塚宿 「浮世絵へのいざない・その魅力」(1月29日、戸塚区役所)
- (2)県博講座 「江戸時代・かながわの東海道を訪ねる」(全4回のうち ②『浮世絵にみる東海道の名所』11月1日)  
「美術がひもとく、かながわ」(全4回のうち ③『横浜浮世絵に見るヨコハマ』2月19日)  
地域巡回講座 「東海道川崎宿を訪ねる」(3月10日、旧川崎宿周辺現地見学)
- (3)「博物館・学芸員の仕事」(横浜市立綱島東小学校・10月21日、相模原市立弥栄中学校・10月27日)
- 7 2019年の開催を目指している特別展「横浜浮世絵とはなにか」に向けての横浜浮世絵の調査および科学研究費(分担者)の大小暦の調査・研究。

丹治 雄一(主任学芸員・歴史・近代)

- 1(1)「東京湾要塞に使用された石材の調達について―石材企業家土屋大次郎の活動を中心に―」(『発掘調査された小原台堡壘―東京湾要塞とその時代―』公益財団法人かながわ考古学財団公開セミナー2016報告要旨集、かながわ考古学財団、2016年10月、pp.46-50)  
「近代洋風建築に使用された石材『白丁場石』の歴史」(『遺跡学研究』第13号、日本遺跡学会、2016年11月、pp.106-112)  
「明治期の箱根山周辺産安山岩の石材利用と土屋大次郎の事業活動」(『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第43号、神奈川県立歴史博物館、2016年12月、pp.15-30)
- (2)「神奈川県立歴史博物館特別展『石展』開催報告」(『建築史学』第67号、建築史学会、2016年9月、pp.242-244)

- (3)「空調工事で『再発見』！旧横浜正金銀行本店本館の魅力」(『神奈川県立歴史博物館だより』通巻204号、pp.2-5、3月6日)
- 2 「明治期の箱根山周辺産安山岩の石材利用と土屋大次郎の事業活動」(国史学会大会、於：國學院大學、6月26日)  
「東京湾要塞に使用された石材の調達について—石材企業家土屋大次郎の活動を中心に—」(公益財団法人かながわ考古学財団公開セミナー2016「発掘調査された小原台堡壘—東京湾要塞とその時—」、於：横浜市内公会堂、2016年10月10日)
- 3 『神奈川県庁本庁舎文化財調査報告書』(分担執筆、神奈川県総務局財産経営部施設整備課、2017年3月、pp.2+1~212)
- 4 「石さんぽ1 白丁場石 採掘終えた幻の石材」(山下浩之と共著、『神奈川新聞』、2017年1月5日)  
「石さんぽ6 最大の成功者を輩出 相州堅石」(山下浩之と共著、『神奈川新聞』、2017年2月9日)  
「石さんぽ7 福住旅館の防火壁に 湯本石」(山下浩之と共著、『神奈川新聞』、2017年2月20日)  
「空調工事で『再発見』！旧横浜正金銀行本店本館の魅力」(『神奈川県立歴史博物館だより』通巻204号、神奈川県立歴史博物館、pp.2~5)
- 5 首都圏形成史研究会常任委員
- 6(1)MUFJ(三菱UFJフィナンシャルグループ)ELP(Extended Learning Program)「旧横浜正金銀行本店本館について」(於当館、2016年5月28日)  
建築から社会に貢献する会「旧横浜正金銀行本店本館について」(於：当館、2016年10月27日)  
伊勢原ロータリークラブ第2464回例会卓話「横浜にはじまる日本のビール産業の歴史」於FORUM246 11月9日)  
小田原シルバー大学16期会勉強会「湯河原産の“幻の石材”白丁場石の歴史」(於小田原市川東タウンセンター「マロニエ」、12月8日)  
神奈川県立生命の星・地球博物館企画展「石展2 かながわの大地が生み出した石材」シンポジウム「近代史・建築史的視点から：『白丁場石』研究の成果と課題」、「石展1の企画と展示」(於神奈川県立生命の星・地球博物館、2月18日)  
特別展開連県博講座「横浜正金銀行建物特別公開」(連続3回講座 第2回、5月3日)  
特別展開連行事(まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券)「旧横浜正金銀行本店本館建物見学会」5月22日
- (2)県博講座「かながわの近代産業史」(全4回 ①『石材採掘業—在来産業の近代化—』2月9日、②『ビール醸造業—横浜に始まる発展の歴史—』2月23日、③『京浜工業地帯の形成』3月9日、④『いまに遺る産業遺産』3月23日)  
「かながわの150年—ペリー来航から高度経済成長まで—」(全4回のうち ②『“黒船”来航とかながわ』3月5日)  
建物見学会「『石』から見た横浜の近代化遺産」(10月20日)  
「妻木頼黄ゆかりの建造物をめぐる」(3月18日)
- (3)「博物館・学芸員の仕事」(湯河原町立吉浜小学校・10月25日、横須賀学院高等学校・11月1日)
- 7 平成27年度に当館で開催した特別展「石展—かながわの歴史を彩った石の文化—」の続編となる展示を神奈川県立生命の星・地球博物館にて企画展「石展2—かながわの大地が生み出した石材—」として開催したため、昨年度に引き続き当館建物(旧横浜正金銀行本店)でも使用されている足柄下郡吉浜村(現湯河原町)産の石材「白丁場石」をはじめとする神奈川県産石材の研究に取り組んだ。また、神奈川県庁本庁舎(四代目神奈川県庁舎)に関する建築史的研究の成果を同建物の文化財調査報告書にて発表した。

角田 拓朗(主任学芸員・美術・近代)

- 1(1)「明治後半の画壇状況における烏合会の位置付け—美人画、文学、洋画—」『美人画をめぐる諸相—浮世絵・団体・メディア—』、東海大学、2016年4月  
「聖徳記念絵画館の美術史上の存在意義再考—近代日本絵画史の底流、そして五姓田派—」『神園』15、明治神宮神道文化研究所、2016年5月  
「五姓田派と明治皇室—明治天皇像、肖像画、風景画—」『三の丸尚蔵館年報・紀要』22、宮内庁、2017年3月
- (2)「歴史民族系博物館における専門職員の養成」『博物館研究』vol.51no.12、日本博物館協会、2016年12月

- 「五姓田義松をビッグネームへというタスク」『神奈川県博物館協会会報』88、神奈川県博物館協会、2017年3月
- 「神奈川県博物館協会総合防災計画について」『神奈川県博物館協会会報』88、神奈川県博物館会 2017年3月
- (3)「資料紹介 新出の鳥合会画帖について」『美人画をめぐる諸相—浮世絵・団体・メディア—』、東海大学、2016年4月
- 「黒田清輝宛五姓田義松書簡を読む」『黒田清輝宛五姓田義松書簡 影印・翻刻・解題』、『美術研究』421、東京文化財研究所、2017年3月
- 2 「黒田清輝宛五姓田義松書簡を読む—人物像・東京美術学校・明治洋画史—」、『美術研究』421、東京文化財研究所、2017年3月
- 3 「明治神宮外苑創建九十年を記念し 初の特別展 みどころと絵画館の魅力」、『代々木』平成28年秋号、明治神宮社務所
- 5 第38回 文化財保存修復学会 実行委員
- 6(1)「『歴史』と『美術』の対話—聖徳記念絵画館の成立と五姓田派の人々—」(岩壁義光氏との対談)、明治神宮外苑聖徳記念絵画館、2016年11月
- (2)県博講座 「五姓田派の画家たち」(全4回 ①『初代五姓田芳柳』12月6日、②『山本芳翠』12月20日、③『渡辺文三郎』1月17日、④『平木政次とその画家たち』1月31日)
- 「美術がひもとく、かながわ」(全4回のうち ④『戦前横浜から戦後鎌倉へ—近代日本美術の発信地—』2月26日)
- 学芸員が推すこの逸品! 「五姓田義松『老母図』」(11月27日)
- 地域巡回講座 「早春の鎌倉に美を訪ねる」(『近代美術と鎌倉について』2月7日、鎌倉彫資料館)
- (3)「『むかし』から『いま』へ横浜開港で変わったこと」(川崎市立戸手小学校・10月4日、横須賀市立夏島小学校・10月18日、横浜市立帷子小学校・10月24日、川崎市立東高津小学校・11月1日)
- 「文化とは? いまとつながる『歴史』」(県立平塚農業高等学校・1月13日)
- 7 平成28年度は、前年度の特別展の延長線上で、五姓田義松を中心とした五姓田派の研究を進め、複数の研究成果に結びつけた。特に、明治神宮聖徳記念絵画館における一連の調査研究と展覧会には、その成果の多くが反映された点で特筆される。また総合研究として、岩橋関連の調査を実施した。いずれも明治期を中心とした美術資料に焦点をあてており、平成30年度開催の特別展につながるものである。また、数年来の美人画研究の成果が本年度当初に公開されたことも加えておきたい。

#### 新井 裕美(学芸員・民俗)

- 1(3)「民俗資料のお引越し」(『神奈川県立歴史博物館だより』通巻203号、p.4、3月6日)
- 4 「七沢石」(「石さんぽ」連載2回目、『神奈川新聞』、2018年1月12日、神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員 田口公則と共著)
- 5 成城大学民俗学研究所 「霊山と民俗信仰」共同研究員  
大磯町国府祭 町委託調査員  
相模民俗学会運営委員
- 6(1)「七沢石と石工」(「シンポジウム『石展』からみえてきたもの：人文系および自然系博物館の共催展示を読み解く」、神奈川県立生命の星・地球博物館、2017年2月4日)
- 「石材の利用と庶民生活」(「サロン・ド・小田原」、神奈川県立生命の星・地球博物館、2017年2月18日)
- 「かながわの小正月と道祖神」(神奈川県中央石材工業組合、料亭古宮〈伊勢原市〉)
- (2)県博講座 「かながわの年中行事」(全4回 ①『春の行事』12月6日、②『夏の行事』12月20日、③『秋の行事』1月17日、④『冬の行事』1月31日)
- 学芸員が推すこの逸品! 「小正月のツクリモノ」(12月4日)
- (3)「季節の行事を調べてみよう」(高津養護学校高等部・10月26日、)
- 「昔の道具を使ってみよう」(山下みどり台小学校・1月19日、寒川町立寒川小学校・1月26日、藤沢市立駒寄小学校・2月17日)
- 7 「石展2」(於:神奈川県立生命の星・地球博物館)の開催に向けて、県内の石材利用の実態に着目し、その中で特に厚木市七沢を中心に産出した七沢石について調査した。また、県内の年中行事、死者供養、他界観に関する継続的な研究及び、館蔵の民俗資料の整理を行った。

古宮 雅明 (専門員・歴史・近世)

- 1(3)「松平造酒助江戸在勤日記一元治元年九月十一日～十月朔日」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第43号 pp155-176、12月22日)
- 6(2) 県博講座 「江戸時代・かながわの東海道を訪ねる」 (全4回のうち ①『バーチャル東海道—東海道分間絵図を読む—』10月18日)  
「古文書解読講座 近世文書入門・初心者編」 (全4回 ①『近世文書を読むために』2月2日 ②『実践その1 旅の必需品—往来手形—』2月16日、③『実践その2 家族の絆—結婚と勘当—』3月2日、④『実践その3 村に生きる—村明細帳—』3月16日)  
地域巡回講座 「大磯の歴史と文化を辿る」(1月19日、大磯町郷土資料館)  
「東海道川崎宿を訪ねる」(3月10日、旧川崎宿周辺現地見学)
- (3)「バーチャル『東海道』」(横浜市立平戸台小学校・10月26日、茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校・11月4日 横須賀市立衣笠小学校・12月6日)  
「富士山宝永噴火による神奈川の被災と復興」(横浜女学院高等学校・12月8日)
- 7 地域の災害史の調査・研究、東海道街道絵図教材化を進めた。「松平造酒助江戸在勤日記」の解読を進めている。

武田 周一郎 (非常勤学芸員・歴史・現代)

- 1(1)「横浜正金銀行中井芳楠・長三郎関係資料について」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第43号 pp. 177-198、寺寄弘康との共著、12月22日)
- 2 「神奈川県鳥瞰図が発信した昭和初期の県域」(神奈川県立歴史博物館研究成果報告会、2017年3月6日)
- 3 特別展図録『まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券』(寺寄弘康との共編、神奈川県立歴史博物館、4月22日)
- 4 「まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券3」(『毎日新聞』、5月14日)  
「まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券4」(『毎日新聞』、5月21日)
- 5 首都圏形成史研究会常任委員
- 6(1) 特別展県博講座「横浜正金銀行券の歴史」(連続3回講座 第3回、5月15日)  
「特別展 まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券」(神奈川県文化財協会第1回見学会、5月18日)
- (2) 県博講座 「近現代の地図を読む」(全4回 ①『岩橋教章と府県管内図』10月11日、②『天下の名勝鎌倉』10月25日、③『吉田初三郎神奈川県俯瞰図』11月8日、④『高度成長期の横浜・馬車道』11月22日)  
「かながわの150年—ペリー来航から高度経済成長まで—」(全4回のうち ④『高度成長期の変貌』3月26日)  
「学芸員が語る鎌倉の歴史」(全4回のうち④『近世以降の鎌倉』1月22日)
- (3) 出張講座 「東京オリンピックと神奈川」(川崎市立荻宿小学校・10月3日、藤沢市立鶴沼小学校・11月17日、藤沢市立高谷小学校・11月18日、鎌倉市立御成小学校・12月16日、横浜市立丸山台小学校・12月19日、藤沢市立明治小学校・1月17日)
- 7 館蔵現代資料の整理。特別展「まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券」にかかる資料調査。また総合研究「岩橋教章・章山に関する総合的研究」及び科学研究費基盤研究(C)「横浜正金銀行ニューヨーク支店に関する研究」にかかる資料調査。

根本 佐智子 (非常勤学芸員・歴史・近世)

- 1(3) 資料紹介「松平造酒助江戸在勤日記」(共著、『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第43号、pp. 155-176、12月22日)
- 6(1) 川崎郷土研究会平成28年度夏期講座「水争い 下平間村 VS 小向村」(川崎市立中原図書館、8月6日)
- (2) 県博講座 「江戸時代・かながわの東海道を訪ねる」 (全4回のうち ③『古文書にみる東海道川崎宿』11月15日)  
「古文書講座 近世文書入門・初心者編」(全4回 ①『近世文書を読むために』2月2日、②『実践その1 旅の必需品—往来手形—』2月16日、③『実践その2 家族の絆—結婚と勘当—』3月2日、④『実践その3 村に生きる—村明細帳—』3月16日)  
地域巡回講座 「東海道川崎宿を訪ねる」(3月10日、旧川崎宿周辺現地見学)

- (3)「絵図で見る江戸時代」(鎌倉市立腰越小学校・10月3日、小田原市立下中小学校・10月18日、相模原市立くぬぎ台小学校・11月24日・聖セシリア中学校・1月14日)
- 7 当館近世資料の整理・登録。近世後期川崎宿の宿並についての研究。近世多摩川における御留川についての研究。「松平酒造助江戸在勤日記」の翻刻。

三浦 麻緒(非常勤学芸員・民俗)

- 7 館所蔵の民俗資料の整理。津久井農村歌舞伎に関する調査研究。

小澤 葉菜(非常勤学芸員・民俗)

- 5 相模民俗学会運営委員  
「相模国府祭」調査事業 調査員
- 7 空調設備等改修工事による館蔵資料の一時保管場所への移転に際し、民俗資料の整理を行った。その上で既存の資料データも改めて見直し、必要があれば追記し完成させることを課題とした。

中村 茉貴(非常勤資料整理員)

- 7 国文学研究資料館平成28年度共同研究(一般)「生巧館制作による木口木版の研究 - 国文学研究資料館所蔵品を中心に」の調査研究。「旧中山道文化資源再生プロジェクト 美術と街巡り・浦和」展(美術と街巡り・浦和実行委員会、2017年3月15日～3月19日、於：うらわ美術館、青山茶舗、ギャラリー彩光舎他)に協力。

檜皮 千穂(非常勤資料整理員)

- 1(2)「写真資料のお引越し」(『神奈川県立歴史博物館だより』203号、p5、12月5日)

#### 4 資料収集・修理・保管・利用

〈凡例〉

ア 購入、 イ 寄贈・寄託・借用・管理換、 ウ 修理、 エ 貸出、 オ 特別利用、 カ その他

##### (1) 考古資料

イ 寄贈・寄託・借用・管理換  
(借用)

No.	資料名	件一点	当初借用年月日	返却年月日
1	宗元寺軒瓦 外	1件 1,763点	昭和46年1月1日	平成28年9月30日
2	壺(横須賀高校裏山遺跡)外	1件 3点	平成7年2月10日	—
3	饒益神宝(中原上宿遺跡出土)	1件 1点	平成8年3月1日	平成28年9月30日
4	藤沢市代官山遺跡出土土器(隆起線文土器)外	1件 555点	平成19年4月1日	平成28年9月30日
	合計	4件 2,322点		

ウ 修理

・「尖頭形角器」「灼骨」(三浦市間口洞窟遺跡出土資料《弥生時代》)

エ 貸出

No.	申請者・目的	資料名	件一点	利用方法	利用期間
1	横浜市末吉地区センター 1Fロビー 地域の文化財に対する啓発	小林幸雄氏コレクション	1件 72点	展示	平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日
2	相模原市立博物館 考古企画展 「相模原市の遺跡2016」展 常設展	鼠坂遺跡出土 弥生式土器	1件 1点	展示	平成28年3月10日 ～ 平成30年3月31日
		合計	2件 73点		

##### (2) 歴史資料

イ 寄贈・寄託・借用・管理換  
(寄贈)

No.	寄贈主	資料名	件一点	寄贈日
1	個人(東京都在住)	武井良介関係資料	1件 14点	平成29年2月21日
2	個人(神奈川県在住)	河村二四郎関係資料	1件 4点	平成29年2月21日
3	個人(神奈川県在住)	担保差入証、利息計算書	3件 4点	平成29年2月21日
4	個人(マレーシア在住)	特別当座預金通帳	1件 1点	平成29年2月21日
5	個人(神奈川県在住)	送金票、引揚証明書	2件 3点	平成29年2月21日
		合計	8件 26点	

(寄託)

No.	資料名	件一点	当初寄託年月日
1	帝政ロシア製32ポンド砲(旧居留地90番出土の大砲)	1件 1点	平成16年2月1日
2	長谷川氏所蔵文書	1件 22点	平成23年2月17日
3	岩松家文書	210件 350点	平成25年2月1日
	合計	212件 373点	

(借用)

No.	資 料 名	件一点	当初借用年月日
1	烏帽子形兜	1件1点	昭和43年10月22日
2	古瀬戸瓶子	1件1点	昭和45年9月1日
3	刀片(三増合戦場出土)	1件1点	昭和47年6月10日
4	関山家文書	1件24点	昭和47年9月8日
5	久崎家文書	1件197点	昭和47年9月13日
6	瀬戸 四耳壺 外	1件3点	昭和48年7月1日
7	渥美 灰釉壺 外	1件6点	昭和48年10月1日
8	本多家文書	1件953点	昭和49年3月1日
9	御用取締りのぼり	1件1点	昭和49年4月26日
10	嘆願書	1件1点	昭和52年3月23日
11	生麦村新地実測図(神奈川県令中島信行宛)	1件5点	昭和52年12月1日
12	舊荻野山中建物之繪図 外	1件19点	昭和53年12月1日
13	寺井家文書	1件16点	昭和55年2月15日
14	散弾銃	1件1点	昭和55年4月1日
15	羽柴秀吉知行充行状 天正十一年六月五日付	1件1点	昭和58年5月20日
16	平本家文書	1件1,309点	昭和58年10月14日
17	黒船来航絵巻	1件1点	平成4年5月15日
18	日月鳳凰螺鈿鞍	1件1点	平成4年11月1日
19	旧小田原城天守閣模型	1件1点	平成5年12月15日
20	辰御年貢可納割付之事 外	1件2点	平成6年7月20日
21	享保十四年九月酉之内検見引牒 外	1件22点	平成6年10月7日
22	中国青磁 碗 線描き蓮弁文 外	1件50点	平成18年6月1日
23	茅ヶ崎市出土板碑関係(梵字板碑、破片)	1件4点	平成20年7月1日
24	旧横浜正金銀行本店本館改修工事関係資料 一括	1件1点	平成20年9月1日
25	旧横浜正金銀行本店本館彩色立面図 外	1件119点	平成22年10月15日
26	銅造 明治天皇立像 外	1件3点	平成23年12月15日
27	坂本家文書 一括	1件1点	平成28年12月1日
	合 計	27件2,744点	

## ウ 修理

- ・「脇差」(赤羽刀No.2007、官報No.2134、銘「相州住綱廣」、室町時代末期～桃山、一振)
- ・「脇差」(赤羽刀No.2756、官報No.2883、銘「相州正宗廿五代孫源正直」、室町時代末期～桃山、一振)
- ・「古文書 天文二十年六月八日付 足利晴氏公帖」1幅
- ・「神奈川県観光絵図」1巻、「東海道分間絵図」1帖

## エ 貸出

No.	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用方法	利用期間
1	大阪府立狭山池博物館・大阪狭山市立郷土資料館 特別展「狭山藩北条氏一戦国大名小田原北条五代の末裔」展	北条氏直一字書出 天正17年霜月11日 豊臣秀吉朱印状 (天正19年)2月7日 豊臣秀吉朱印状 天正19年8月9日 豊臣秀吉朱印状 文禄3年12月2日	17件17点	展示	平成28年3月19日 ～ 平成28年4月19日

		徳川家康起請文 (天正10年)10月24日			
		北条氏規朱印状 (永禄9年)7月12日			
		本多上野介書状 (慶長14年)卯月17日			
		片桐且元判物 慶長14年11月28日			
		江戸幕府老中連署奉書 元和7年12月28日			
		河内国狭山藩北条家領知目録 寛文4年4月5日			
		陣羽織(狭山北条家所用)			
		旗指物(狭山北条家所用)			
		北条氏朝カ五箇条定書			
		北条氏朝辞世			
		江戸幕府老中連署奉書(写) (享保6年)3月28日			
		狭山藩知事任命書 明治2年6月			
		北条氏朱印状 天文19年7月17日			
2	平塚市博物館 春期特別展「ひらつかの家 康伝説由緒と地域」展	小田原陣仕寄陣取図(複製)	1件1点	展示	平成28年3月19日 ～ 平成28年5月8日
3	公益財団法人馬事文化財団 (馬の博物館) 春季特別展「根岸競馬場開 設150周年記念 ハイカラ ケイバを初めて候」展	横浜名所之内 大日本横浜 根岸英国人競馬興行ノ図 横浜弍覽之真景 横浜諸会社諸商店之図 柏 木商店 日本絵入商人録 モリソン 商会 日本絵入商人録 シーベル ブレンワルド商会 根岸競馬場絵葉書	6件8点	展示	平成28年6月4日 ～ 平成28年8月7日
4	長野市立博物館 特別展「川中島の戦いと真 田」展	陣羽織(狭山北条家伝来) 旗指物(狭山北条家伝来) 北条氏康書状 10月5日 (北条家文書) 我等はしりめぐり之覚 (桜井家文書)	4件4点	展示	平成28年9月17日 ～ 平成28年10月30日
5	埼玉県立嵐山史跡の博物館 企画展「戦国を生き抜いた 武将たち」展	北条氏制札 大永4年4月10日 北条氏印判状 大永5年12月14日	5件5点	展示	平成28年11月1日 ～ 平成29年2月19日

		北条氏伝馬手形 子6月15日			
		成田氏長書状 〈天正12年カ〉3月8日			
		豊臣秀吉印判状 〈天正19年〉2月7日			
		合 計	33件35点		

オ 特別利用

No.	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用 方法	利用期間
1	行田市郷土博物館	The Illustrated London News, 1842. 11. 12 ペリー肖像 近海見分之図 黒船来航絵巻	4件4点	閲覧及 び撮影	平成28年5月19日
2	埼玉県立嵐山史跡の博物館	関山家文書のうち 北条氏制札 (大永4年4月10日) 関山家文書のうち 北条氏印判状 (大永5年12月14日) 関山家文書のうち 北条氏伝馬手 形(子6月15日)	3件3点	閲覧及 び撮影	平成28年5月11日
3	個人調査研究	日本銀行兌換銀券改造百円券	1件1点	閲覧及 び撮影	平成28年6月6日
4	個人調査研究	横浜正金銀行サンフランシスコ支 店他(横浜正金銀行本支店アルバ ム)	1件1点	閲覧及 び撮影	平成28年6月6日
5	神奈川新聞社	公式第1号ポスター(シンボルマー ク) 公式第2号ポスター(陸上競技) 公式第3号ポスター(水泳) 公式第4号ポスター(聖火ランナ ー) 寄付金付切手 陸上競技役員ブレザー及び帽子 東京オリンピックネクタイ 東京オリンピックグッドウィルガ イドバッチ	9件9点	報道写 真展で のパネ ル展示	平成28年7月18日 ～ 平成28年7月21日
6	個人調査研究	本光寺文書、桜井家文書	2件2点	閲覧調 査及び 撮影	平成28年7月26日
7	神奈川大学工学部建築学 科	旧横浜正金銀行本店本館	1件1点	実測調 査及び 撮影	平成28年9月12日

8	神奈川県教育局高校教育課	「神奈川県写真帖」のうち神奈川県庁舎	3件3点	閲覧・撮影及び掲載	平成29年1月17日
		「関東震災地写真帖」のうち神奈川県庁舎			
		「関東地方大震災写真帳」のうち大磯駅附近旅客列車転覆ノ惨状			
		合計	24件24点		

### (3) 美術資料

#### イ 寄贈・寄託・借用・管理換 (寄贈)

No.	寄贈主	資料名	件一点	寄贈受入年月日
1	個人(神奈川県在住)	恵比寿	1件-1点	平成28年3月1日

#### (寄託)

No.	資料名	件一点	当初寄託年月日
1	重要文化財 木造他阿真教坐像	1件1点	平成17年5月24日
2	束帯天神像 外	9件9点	平成21年4月24日
3	祖栄筆 柳に鷺図 外	27件36点	平成21年8月1日
4	眞葛焼(渡蟹水盤 外)	29件38点	平成22年3月1日
5	潘閻図右都御史筆	1件1点	平成25年7月2日
6	阿羅漢図 外	2件3点	平成25年12月1日
7	齋藤俊吉氏旧蔵作品群	1件63点	平成27年6月18日
8	仁阿弥道八作焼締急須	1件9点	平成27年6月26日
9	一遍他阿真教像 外	1件2点	平成28年3月25日
10	山崎勢威子肖像	1件1点	平成28年4月1日
11	高橋広湖筆 松	19件19点	平成28年5月20日
12	絵瀬戸草文輪花皿 外	7件49点	平成28年6月24日
13	初代五姓田芳柳 果物の図	1件1点	平成29年3月1日
14	大森氏所蔵作品	37件37点	平成29年3月1日
	合計	137件269点	

#### (借用)

No.	資料名	件一点	当初借用年月日	返却年月日
1	県重要文化財 紙本墨画淡彩 十六羅漢図 外	2件17点	昭和44年3月1日	—
2	県重要文化財 絹本着色 熊野権現影向図	1件1点	昭和44年3月1日	—
3	県重要文化財 絹本着色 両界曼荼羅図 外	1件37点	昭和44年7月1日	—
4	東山天皇即位図屏風	1件1点	昭和47年6月17日	平成28年8月30日
5	常滑印花文壺 外	1件12点	昭和48年3月1日	—
6	東海道図屏風	1件1点	昭和49年7月1日	—
7	源氏物語図屏風	1件1点	昭和50年3月10日	—
8	絹本着色 七星如意輪曼荼羅図 外	1件25点	昭和50年6月1日	—
9	横浜浮世絵	1件473点	昭和52年1月10日	—
10	張交屏風	1件1点	昭和52年7月15日	—

11	県指定重要文化財 木造薬師如来坐像	1件1点	昭和56年2月25日	—
12	大小曆コレクション(長谷部コレクション)	1件40点	昭和59年4月1日	—
13	双六(下村観山)	1件1点	昭和59年7月1日	—
14	鴉図(以天宗清) 外	1件2点	昭和63年7月7日	—
15	短刀(チャールズ・ワーグマン所用)	1件1点	平成2年8月25日	—
16	江島金沢八景図屏風 外	1件4点	平成4年12月1日	—
17	本牧風景 外	1件2点	平成5年6月15日	—
18	鶴岡八幡宮境内出土品の内 板草履の芯 外	1件19点	平成7年3月1日	—
19	梵鐘	1件1点	平成10年1月1日	平成28年9月10日
20	仁清意鶏形香合 外	1件4点	平成12年3月1日	—
21	俵藤太絵巻	1件5点	平成12年5月1日	—
22	好色十二候 外(喜多川歌麿)	1件12点	平成12年12月20日	—
23	箱根権現縁起絵巻 付 納入箱	1件2点	平成13年8月1日	—
24	鬪鶏下絵(下村観山) 外	1件3点	平成21年3月1日	—
25	東京小梅曳船夜図 外コレクション	1件134点	平成5年7月15日	平成29年3月1日
26	賀茂真淵筆 伊勢物語古意6冊 外	12件19点	平成28年9月20日	—
27	海景図(五姓田義松)	1件1点	平成29年2月15日	—
	合計	39件820点		

(管理換)

No.	資料名	管理換元	件一点	管理換年月日
1	護摩天蓋	県立金沢文庫	1件1点	平成28年8月25日

ウ 修理

- ・「十王図(重要文化財)」(絹本着色)10幅のうち2幅
- ・「足利尊氏像(紙本着色)」1幅
- ・「堆朱鳳凰牡丹文香合」1合

エ 貸出

No.	申請者・目的	資料名	件一点	利用方法	利用期間
1	サントリー美術館 大阪市立東洋陶磁美術館 瀬戸市美術館 特別展「没後100年 宮川香山」展	高取釉蟹高浮彫水鉢 高浮彫金彩孔雀大花瓶 1対 高浮彫桜に群鳩花瓶 1対 高浮彫群鳩飛来花瓶 高浮彫水禽遊泳ランプ台 高浮彫南天に鶉花瓶 1対 高浮彫菊に鶉飾皿 高浮彫牡丹に眠猫覚醒蓋付水指 高浮彫牡丹に眠猫覚醒大香炉 高浮彫蓮に鼠花瓶 高浮彫熊花瓶 1対 高浮彫四窓に遊蛙獅子蓋付壺 1対 高浮彫武者蛙合戦花瓶	28件35点	展示	平成28年2月24日 ～ 平成28年11月27日

		高浮彫風神雷神花瓶 1対			
		高浮彫魁星花瓶 1対			
		高浮彫長命苺採取花瓶			
		高浮彫桜花香炉			
		高浮彫葡萄の蔓に蜂の巣花瓶			
		白磁横浜弘明寺十一面観音立像			
		釉下彩紫陽花透彫花瓶			
		紫釉盛絵杜若花瓶			
		色嵌釉紫陽花花瓶			
		緑釉紫百合香炉			
		釉下彩山水図香炉			
		青華岩に竹の図蓋付壺			
		釉下彩山水図花瓶			
		辰砂百鬼夜行図花瓶			
		窯場之画			
2	町田市立国際版画美術館 「清親—光線画の向こう に」展	水府の浪士阪下に閻老を襲撃の 図	14件 14点	展示	平成28年3月12日 ～ 平成28年4月17日
		猫に提燈			
		上野公園内之景			
		亀戸梅屋敷			
		鶏にトンボ			
		九段馬かけ			
		鉄砲打獵師			
		平忠盛御堂法師を捕る図			
		菅公配所の図			
		莊吾渡し場之図真画			
		武蔵百景之内 江戸ばしより日 本橋の景			
		武蔵百景之内 赤坂きり畑山王 うら山			
		威海衛攻撃水上之進軍			
		大激戦二百三高地占領			
3	神奈川県立近代美術館 企画展「原田直次郎」関 連展示 明治洋画コレクション展	宿場	18件 18点	展示	平成28年4月8日 ～ 平成28年5月15日
		街道			
		能面図			
		川鱒図			
		芭蕉と月			
		西洋老婦人像			
		井田讓図			

		墨田河畔 自画像 製作風景 台所 男女の肖像 富士山 老母図 五姓田一家之図 井田磐楠像 山の宿 洛西風景			
4	鹿児島県歴史資料センター 黎明館 黎明館企画特別展「八幡神の遺宝－南九州の八幡信仰－」展	石清水八幡宮曼荼羅	1 件 1 点	展示	平成 28 年 9 月 29 日 ～ 平成 28 年 11 月 6 日
5	横浜市歴史博物館 企画展「楽しい浮世絵ヒストリー 丹波コレクションの世界」展	黒地歌留多散らし衣装の遊女 花桶持つ美人と読書する若衆 赤子を抱く女 大こく揚屋いり 月次綾取袖鏡 五 美人三番叟 若衆煙中に恋人の幻を見る 雛形若菜の初模様 角玉屋内みやと 小児の用をさせる母と娘 浮絵東都 日本橋小田原町魚市之図 風流七ツ目絵合 絵兄弟 無題(料理をする母娘) 江之嶋遊りようあわびとりの図 江之嶋遊りようあわびとりの図 両国涼之図 江戸高輪之景	64 件 64 点	展示	平成 28 年 6 月 18 日 ～ 平成 28 年 7 月 10 日

	今様美女競 けいしや			
	日光山名所之内 素麺之滝			
	風流五葉松			
	両国橋花火見物遊船			
	日本橋魚市繁栄図			
	四代目岩井半四郎の三日月おせんと六代目市川団十郎のゑびしやこの十			
	五代目松本幸四郎の羽生村与右衛門			
	名称八景 大山夜雨 従前不動頂上之図			
	新吉原道中図 あふきや内花まと			
	東都名所高輪廿六夜待遊興之図			
	東都飛鳥山の図 王子道狐のよめ入			
	東都名所 両国花火			
	東海道五拾三次之内 箱根 湖水図			
	東海道五拾三次之内 庄野 白雨			
	名所大江戸百景 大はしあたけの夕立			
	雪上の大輪の月に雁三羽			
	金沢百景			
	富嶽三十六景 凱風快晴			
	富嶽三十六景 山下白雨			
	富嶽三十六景 東海道程ヶ谷			
	富嶽三十六景 相州七里濱			
	富嶽三十六景 相州江の島			
	諸国名橋奇覽 飛越の堺つりはし			
	諸国瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧			
	讃岐院眷属をして為朝をすくう図			
	源頼光公館土蜘蛛妖怪図			
	観世音靈現 一ツ家ノ旧事			
	相州大山道田村渡の景			

		荷宝蔵壁のむだ書			
		紅毛油絵名所尽 錦帯橋			
		江戸新吉原八朔白無垢の図			
		二見浦曙の図			
		女子教訓狂哥合			
		北廓月の夜桜			
		武陽横浜一覽			
		横浜鈍宅之図			
		横浜新地蒸気車鉄道之真景 広重筆			
		横浜野毛伊勢山従海岸鉄道蒸気車図			
		亜墨利加蒸気船 長四十間 巾六間			
		月百姿 烟中月			
		月百姿 銀河月			
		月百姿 玉兔 孫悟空			
		滝に鴉			
		梅の古木に鳥二羽			
		従箱根山中富嶽眺望			
		箱根木賀遠景			
		鴨と蓮			
6	読売新聞社東京本社 東京藝術大学大学美術館 MIHO MUSEUM 特別展 「雪村一奇想の誕生」展	竹に鷺図 芙蓉小禽図 鴉図	3件3点	展示	平成29年3月28日 ～ 平成29年9月3日
7	MIHO MUSEUM (滋賀県甲賀市) 特別展「かざり一信仰と 祭りのエネルギー」展	竹生島祭礼図	1件1点	展示	平成28年3月1日 ～ 平成28年5月15日
		合 計	129件136点		

オ 特別利用

No.	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用方法	利用期間
1	個人調査研究	釈迦三尊像 良全筆	1件1点	閲覧調査	平成28年5月14日
2	個人調査研究	束帯天神像	1件1点	閲覧調査 及び撮影	平成28年5月26日
		合 計	2件2点		

#### (4) 民俗資料

##### イ 寄贈・寄託・借用・管理換 (寄託)

No.	資 料 名	件一点	当初寄託年月日
1	ダイカイ・オハチ	2件3点	平成27年5月14日

##### (借用)

No.	資 料 名	件一点	当初借用年月日	返却年月日
1	階段 外	1件4点	昭和43年4月1日	平成28年6月28日
2	神楽面 外	1件151点	昭和44年12月11日	—
3	お食初め膳 外	1件3点	昭和46年10月23日	—
4	燭台	1件1点	昭和47年3月6日	—
5	長持 外	1件2点	昭和47年3月6日	—
6	お歯黒さし 外	1件2点	昭和47年3月8日	—
7	お歯黒の道具	1件1点	昭和47年3月11日	—
8	ミノ	1件2点	昭和47年7月11日	—
9	天狗の面 外	1件3点	昭和48年2月27日	—
10	帳場格子 外	1件15点	昭和48年3月2日	—
11	結納樽	1件1点	昭和48年4月1日	—
12	お馬板、ツノダル	1件3点	昭和48年8月20日	—
13	鏡台と鏡 外	1件4点	昭和49年4月26日	—
14	張子面木型	1件7点	昭和51年6月19日	—
15	獅子頭 外	1件11点	昭和54年3月1日	—
16	婚礼用具	1件1点	昭和54年3月1日	—
17	足踏み脱穀機	1件2点	平成6年4月15日	—
18	渡辺紳一郎時計コレクション	1件22点	平成28年7月1日	—
	合 計	18件235点		

##### ウ 修理

- ・「相模人形芝居の人形」武田勝頼1体、八重垣姫1体

##### エ 貸出

No	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用方法	利用期間
1	相模原市立博物館 常設展示用資料	クワ	1件4点	展示	平成24年11月1日 ～ 平成30年10月31日

##### オ 特別利用

No.	申請者・目的	資 料 名	件一点	利用方法	利用期間
1	個人調査研究	特別展「石展」の民俗 分野の展示風景	1件3点	所蔵画像提供及 び「民具研究」 (雑誌)へ掲載	平成28年6月16日 ～ 平成28年10月20日
2	相模原市立博物館市史編 さん班	庚申塔写真(八王子市東 浅川町原会館前所在)	1件2点	閲覧調査 及び撮影	平成28年9月28日
		合 計	2件5点		

## (5) 写真資料

平成 28 年度写真撮影資料

### (ア) 特別展図録用

- ・ まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券

### (イ) コレクション展示用

- ・ なし

### (ウ) 特別陳列用

- ・ なし

### (エ) その他

- ・ 旧横浜正金銀行 文化財調査
- ・ 神奈川県庁本庁舎 文化財調査
- ・ 横浜の近代建築と風景
- ・ 寄託資料 鎌倉彫後藤家資料
- ・ 寄託資料 仁阿弥道八 急須
- ・ 小正月の民俗行事「伊勢原のどんと焼き」「三浦のチャッキラコ」
- ・ 横浜市歴史博物館 企画展「楽しい浮世絵ヒストリー」図録

## (6) 資料の燻蒸等

IPM(総合的病害虫管理 Integrated Pest Management)に基づき、日常的には「予防」の観点から資料保存活動を進めている。年に 2 回、文化財害虫調査ならびに空中浮遊菌調査を実施し、文化財害虫の生息状況やカビの発生危険度の把握に努めている。

本年度は、空調設備等改修工事のため全資料を館外へ移動する必要があったことから、他館へ預ける資料を中心に、7 月から 10 月までの期間に 3 回に分けて燻蒸を実施した。

## (7) その他の資料

### ア 図書

平成 28 年度図書資料の状況は次のとおりである。大学等の関係機関からの寄贈も多く、当館の貴重な資料として活用されている。

受入種別	購入	寄贈	計	総数	ライブラリー公開数
図書(冊)	2	242	244	19,725	4,457
図録(冊)	0	537	537	15,262	36
逐次刊行物(タイトル)	21	43	64	3,870	82

※逐次刊行物はタイトル数で、寄贈は新規のみの数値。

### イ 写真

展示・調査研究資料として、収蔵資料を中心に撮影したフィルム 100,582 枚とデジタルカメラデータ 14,107 枚を保存し、データベース化するとともに、写真の特別利用として貸出しを行っている。

特別利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	8	19	16	26	19	15	30	6	22	20	17	21	219
点数	38	42	97	44	34	34	80	10	38	36	20	35	508

### ウ 情報システム

#### (ア) システム整備の目的と背景

- ・ 学習の支援
- ・ 高度な知的ニーズへの対応
- ・ 博物館活動の活性化、効率化
- ・ 研究活動の高度化 ①各種アプリケーションの利用

## ②博物館が所有する情報の活用

### ・情報公開

博物館の再編整備の方向（「県立博物館整備構想に関する提言」昭和63年度）

- (1) 高度情報化社会における自然・文化の情報センター
- (2) 映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
- (3) 内外の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

#### (イ) システム開発と運用

システム基本設計・詳細設計	平成5年度
システム運用開始	平成7年度
システム更新	平成13年度、18年度、23年度、28年度

#### (ウ) 稼動しているシステム（「デジタルミュージアム」）の内容

##### a 展示情報システムの内容

ミュージアムライブラリーに設置された3台の来館者用パソコンで提供。一部の資料については、高精細の拡大画像も提供。

従来、館内利用に限定されていた展示情報システムは、当館のホームページに掲載され、利用者が自宅や学校で閲覧可能(タイトルのうち、No.2 絵馬、No.5 水墨画、No.12 収蔵コレクションは除く)。

No.	タイトル	内容
1	浮世絵	博物館所蔵の約7,000点ある浮世絵の中から、浮世絵の歴史、神奈川を描いた浮世絵、横浜浮世絵、著名な浮世絵師たち、一枚の絵から見る江戸時代の風俗など、テーマごとに選択した230点の浮世絵を紹介。
2	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬や珍しい絵馬など125点を紹介。
3	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料70点を紹介。
4	古地図・絵地図	当館収蔵の古地図の中から50点を紹介。館内端末では拡大画像により、細部まで見ることが可能。
5	水墨画	平成10年度に開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品85点を紹介。
6	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料221点を紹介。
7	眞葛焼	かつて世界に名を知られた横浜の焼き物の中から46点を紹介。
8	鎌倉彫	館蔵品の鎌倉彫の中から32点を紹介。
9	後北条氏関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などとともに118点を紹介。
10	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記(1件5冊)を紹介。拡大画像により、細部まで見ることが可能。
11	県有形民俗文化財職人の道具コレクション	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」(17職種1,982点)のうち、大山木地師、小田原物差職人、下駄職人、傘職人の道具など、338点を紹介。
12	収蔵コレクション	収蔵データベースの一部について、概要を一覧形式で提供する。 考古：206点、中世文書96点、彫刻：14点、中世絵画80点、浮世絵：288点、近代歴史資料260点、近代絵画156点、民俗306点

※この他に、神奈川県立生命の星・地球博物館が作成・提供している「神奈川の自然」「恐竜」「酒井コレクション細密画」「図書・雑誌検索」も閲覧が可能

##### b 業務システムの内容

- ・収蔵資料管理システム：収蔵品管理機能、画像登録機能、受入管理機能、特別利用管理運用機能、各種帳票ラベル出力機能
- ・図書文献管理システム

#### (エ) システム構成

##### a 概要

- ・サーバ用OS : Red Hat Enterprise Linux、Windows Server
- ・クライアント用OS : Windows8.1、macOS

b 設置機器

(a) 情報処理室・電源室

収蔵システムサーバ 1台、Webサーバ 1台、展示情報用サーバ 1台  
 アップデートサーバ 1台、図書サーバ 1台、CMSサーバ 1台  
 作業用パソコン 2台

(b) ミュージアムライブラリー

来館者用パソコン 2台  
 レファレンス用パソコン 2台

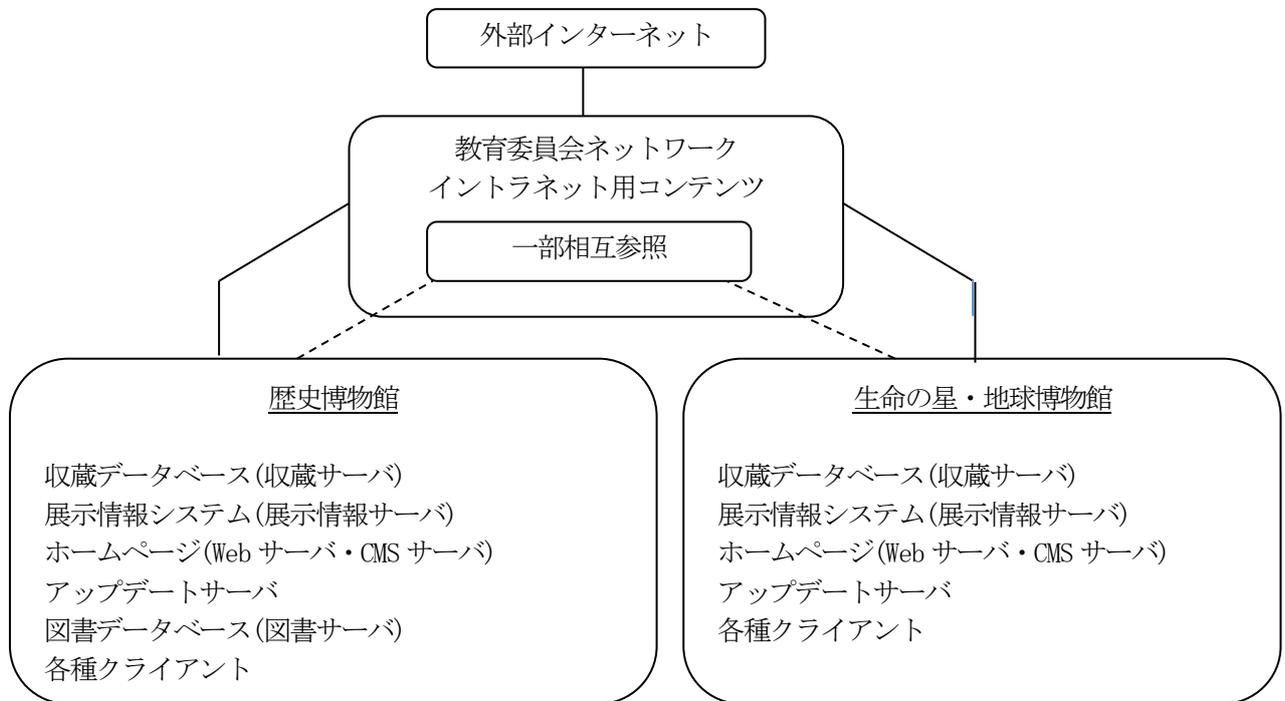
(c) 展示機材倉庫 (印刷室)

画像入力用パソコン 2台

(d) 学芸部室・学芸部各資料整理室・管理課室・企画情報部室・図書資料整理室・写真室・暗室

各室作業用パソコン 計38台

(オ) 歴史博物館システム機器構成図



(カ) 歴史博物館ホームページ アクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	55,841	66,213	51,472	49,373	47,352	40,443	43,074	40,661	36,504	42,566	38,546	46,773	558,818
携帯	1,421	1,241	1,195	990	986	758	336	766	780	700	761	1,233	11,167
合計	57,262	67,454	52,667	50,363	48,338	41,201	43,410	41,427	37,284	43,266	39,307	48,006	569,985

参考(内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタル ミュージアム	2,851	3,090	2,511	2,530	1,992	1,884	1,939	1,647	1,554	1,834	1,800	1,895	25,527
子ども向け ページ	1,285	1,499	1,447	939	835	804	673	636	588	533	614	782	10,635

## 5 展示・教育普及・学習支援

### (1) 常設展

当館の常設展示は「文化の交流と変容」という基本テーマに基づき、「かながわの文化と歴史」について、五つの時代に分け、それぞれのテーマのもとに、人々の生活や信仰、政治や経済の変化、外来文化の影響などを、さまざまな角度からとらえ、歴史的視点で展開している。

- 1 さがみの古代に生きた人びと
  - ・大地に生きる狩人
  - ・海への進出
  - ・米づくり、はじまる
  - ・古墳を築く
  - ・都とさがみの国
- 2 都市鎌倉と中世びと
  - ・源頼朝と東国武士団
  - ・戦国大名後北条氏
  - ・掘り起こされた鎌倉
  - ・唐物とその影響
  - ・民衆と仏教
- 3 近世の街道と庶民文化
  - ・宿場と関所
  - ・庶民信仰と名所めぐり
  - ・村の支配と生活
  - ・相武の産物と江戸
- 4 横浜開港と近代化
  - ・蒸気船が導いた新たな時代
  - ・世界へ開かれたみなとYOKOHAMA
  - ・文明開化の音
  - ・近代化と神奈川
  - ・横浜浮世絵に見る神奈川
  - ・横浜正金銀行
- 5 現代の神奈川と伝統文化
  - ・関東大震災を越えて
  - ・昭和恐慌と社会変化
  - ・戦時体制と敗戦
  - ・占領から講和へ
  - ・高度経済成長と環境の変化
  - ・メディアコミュニケーション
  - ・変貌する町と村
  - ・イエと暮らし
  - ・くらしの中の祈り
  - ・なりわいと儀礼
  - ・伝承される技術と芸能

### (2) 特別展

「まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券—横浜正金銀行貨幣紙幣コレクションの全貌—」

会 期：平成28年4月23日(土)～5月29日(日)

主 催：神奈川県立歴史博物館

協 力：正友会、日本銀行金融研究所貨幣博物館

後 援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK横浜放送局、t v k (テレビ神奈川)、ラジオ日本、FMヨコハマ、横浜銀行協会

展示資料件数： 223 件

入場者数： 9,566 名(有料 3,930 名、無料 5,636 名)

担 当：学芸部長 寺寄 弘康、非常勤学芸員 武田 周一郎

概 要： 横浜正金銀行本店の建物を継承する神奈川県立歴史博物館は、同行に関連する貴重な資料を数多く収集してきた。その代表格が中国大陸の9店舗で発行された紙幣、横浜正金銀行券である。1902年からわずか30年余りの間、中国大陸でしか流通せず、ほとんどが廃棄されたため日本で見る機会のない「まぼろしの紙幣」を、当館は184枚所蔵している。本展覧会

ではその全貌を本邦初公開し、発行された経緯や券面に隠された印刷の特徴などを紹介した。  
あわせて江戸時代の大判や小判国内外の金貨や銀貨を一堂に展示した。空調設備等の改修に伴う休館直前の特別展であり、歴史博物館へのリニューアル以降、正金銀行ゆかりの資料を継続的に収集してきた当館の活動を広く示すことができた。

○ 特別展開連行事

① 記念講演会(無料、ただし特別展観覧料が必要)

(ア) 日 時： 5月8日(日)14:00～16:00

演 題：紙幣肖像の謎

講 師：紙幣研究家・一般財団法人印刷朝陽会事務局長 植村峻 氏

応募者： 162名

受講者： 74名

② 県博講座(連続全3回、無料、ただし特別展観覧券が必要※1回ごとの申し込みも受け付けるが、連続講座のため、全3回申込者優先)

・全体テーマ「横浜正金銀行券」(応募者 67名)

第1回

日 時： 5月1日(日)14:00～16:00(受講 53名)

演 題：「横浜正金銀行の67年」

講 師：学芸部長 寺寄 弘康

第2回

日 時： 5月3日(火・祝)14:00～16:00(受講 37名)

演 題：「横浜正金銀行建物特別公開」

講 師：主任学芸員 丹治 雄一

第3回

日 時： 5月15日(日)14:00～16:00(受講 53名)

演 題：「横浜正金銀行券の歴史」

講 師：非常勤学芸員 武田 周一郎

③ 旧横浜正金銀行本店本館建物見学会(無料、ただし特別展観覧券が必要。応募者 101名)

日 時： 5月22日(日) 10:00～12:00(参加者 26名)、13:30～15:30(参加者 22名)

※応募者多数のため午前の部追加

案 内：主任学芸員 丹治 雄一

④ 学芸員による展示解説

第1回：4月30日(土) 13:30～14:30 (参加 45名)

解説：学芸部長 寺寄 弘康

第2回：5月5日(木・祝) 13:30～14:30 (参加 48名)

解説：学芸部長 寺寄 弘康

第3回：5月14日(土) 13:30～14:30 (参加 47名)

解説：学芸部長 寺寄 弘康

第4回：5月21日(土) 13:30～14:30 (参加 56名)

解説：非常勤学芸員 武田 周一郎

○ 出品目録

(凡例) 資料番号、資料名、年代、所蔵

0-1	金銀計測用の洋式天	1880(明治13)年	当館	1-1	横浜正金銀行券 大連支店金券1円	1913(大正2)年10月	当館
0-2	絵画	横浜正金銀行	1967(昭和42)年	当館	1-2	横浜正金銀行券保存用綴	当館
0-3	横浜正金銀行書類箱	昭和期	当館	1-4	天津支店銀両券10両	1902(明治35)年7月1日	
0-4	横浜正金銀行貸付係引出	昭和期	当館				

- 当館
- 1-5 勅令 247 号(『貨幣法規』) 1931(昭和 16)年版  
当館
- 1-6 『印刷局沿革追録』(復刻) 1917(大正 6)年 6 月  
9 日 個人
- 1-7 横浜正金銀行券 天津支店 当館
- 1-8 横浜正金銀行券 牛莊支店 当館
- 1-9 横浜正金銀行券 上海支店 当館
- 1-10 横浜正金銀行券 北京支店 当館
- 1-11 横浜正金銀行券 大連支店 当館
- 1-12 横浜正金銀行券 青島支店 当館
- 1-13 横浜正金銀行券 漢口支店 当館
- 1-14 横浜正金銀行券 哈爾濱支店 当館
- 1-15 横浜正金銀行券 濟南支店 当館
- 1-16 パネル 天津支店弗券 100 ドル印刷見本(印刷  
鑑) 1925(大正 14)年 6 月 17 日 国立印刷局お札  
と切手の博物館
- 1-17 『支那省別全誌』第 18 卷 直隸省 1920(大正 9)  
年 9 月 30 日 当館
- 1-18 天津時報 第 66 号 1936(昭和 11)年 10 月 31 日  
当館
- 1-19 天津時報 第 67 号 1936(昭和 11)年 11 月 2 日  
当館
- 1-20 西巻豊佐久肖像写真 1992(明治 25)年 10 月 14  
日 当館
- 1-21 上海支店為替手形 明治期 日本銀行金融研究  
所貨幣博物館
- 1-22 『大上海』 1915(大正 4)年 8 月 25 日 当館
- 1-23 1920 年代の上海支店(『Hope's Windows』)1926  
(昭和元)年頃 個人
- 1-24 中村錠太郎肖像写真 明治 10~20 年代 当館
- 1-25 パネル 北京支店弗券 5 ドル印刷見本(印刷鑑)  
1927(昭和 2)年 7 月 29 日 国立印刷局お札と切  
手の博物館
- 1-26 鍋倉直肖像写真 1885(明治 18)年 3 月 当館
- 1-27 北京支店開業記念祝宴の招待状 1902(明治  
35)年 専修大学大学史資料課
- 1-28 横浜正金銀行辞令 北京支店詰 1913(大正  
2)年 7 月 15 日 当館
- 1-29 パネル 大連支店銀券 100 円印刷見本(印刷  
鑑) 1925(大正 14)年 9・10 月 国立印刷局  
お札と切手の博物館
- 1-30 大連支店絵葉書 1907~1918(明治 40~大正  
7)年 当館
- 1-31 大連満鉄水上運動会での集合写真 1914(大正  
3)年 9 月 13 日 当館
- 1-32 『大連』 1921(大正 10)年 12 月 当館
- 1-33 『支那省別全誌』第 4 卷 山東省 1917(大正  
6)年 9 月 30 日 当館
- 1-34 『支那省別全誌』第 9 卷 湖北省 1916(大正  
7)年 6 月 27 日 当館
- 1-35 横浜正金銀行行員録 1910(明治 43)年 正友会
- 1-36 『横浜正金銀行行員録』大正 7 年 6 月 1 日現在  
1918(大正 7)年 6 月 1 日 正友会
- 1-37 『横浜正金銀行行員録』大正 15 年 12 月 1 日現  
在 1926(大正 15)年 12 月 1 日 正友会
- 1-38 『横浜正金銀行行員録』昭和 13 年 7 月 1 日現  
在 1938(昭和 13)年 7 月 1 日 個人
- 1-39 『横浜正金銀行行員録』昭和 11 年 12 月 1 日現  
在 1936(昭和 11)年 12 月 1 日 正友会
- 1-40 横浜正金銀行本支店アルバム 1908(明治 41)  
年頃 当館
- 1-41 上海支店興亜大樓移転記念写真アルバム 1942  
(昭和 17)年 11 月 23 日 当館
- 1-参考 横浜正金銀行券のすかし 当館
- 1-参考 横浜正金銀行中国支店の絵葉書 当館
- 2-1 御貿易場 1859(安政 6)年 5 月 当館
- 2-2 マケロマケヌ売買大合戦 1861(文久元)年  
日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 2-3 洋銀(メキシコ銀)・改三分定銀 当館
- 2-4 貿易銀 1875(明治 8)年 当館
- 2-5 『横はま土産 初編』袋 当館
- 2-6 横浜為替会社紙幣 二十五両 1869(明治 2)  
年 日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 2-7 横浜為替会社紙幣 洋銀 10 ドル 1872(明治  
5)年 日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 2-8 国立銀行紙幣 一円 1873~74(明治 6~7)年  
日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 2-9 国立銀行紙幣 二円 1873~74(明治 6~7)年  
日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 2-10 国立銀行紙幣 五円 1873~74(明治 6~7)年  
日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 2-11 国立銀行紙幣 十円 1873~74(明治 6~7)年  
日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 2-12 国立銀行紙幣 二十円 1873~74(明治 6~7)  
年 日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 2-13 国立銀行紙幣 一円(新券) 1877(明治 10)  
年 日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 2-14 国立銀行紙幣 五円(新券) 1878(明治 11)  
年 日本銀行金融研究所貨幣博物館
- 2-15 横浜正金銀行開業免状 1880(明治 13)年 2 月  
23 日 当館
- 2-16 横浜正金銀行職制並事務章程 1883(明治 16)  
年 当館
- 2-17 原六郎肖像写真 明治 10~20 年代 当館
- 2-18 原六郎家族写真 1896(明治 29)年 12 月 当館
- 2-19 『原六郎翁伝』 1937(昭和 12)年 当館
- 2-20 横浜正金銀行『横浜諸会社諸商店之図』 当館
- 2-21 第二国立銀行『横浜諸会社諸商店之図』 当館

- 2-22 東京第一国立銀行横浜支店『横浜諸会社諸商店之図』 当館
- 2-23 横浜正金銀行条例 『横浜正金銀行定款』 1899(明治32)年12月 当館
- 2-24 横浜正金銀行内規 1942(昭和17)年5月 個人
- 2-25 園田孝吉肖像写真 明治10~20年代 当館
- 2-26 『園田孝吉伝』 1926(大正15)年4月20日 当館
- 2-27 横浜正金銀行第1期営業満期記念銀杯 1900(明治33)年2月 当館
- 2-28 川島忠之助肖像写真 明治10~20年代 当館
- 2-29 川島忠之助書簡 明治20~30年代 当館
- 2-30 横浜正金銀行辞令 東京出張所主任 1899(明治32)年4月17日 当館
- 2-31 横浜正金銀行辞令 書記 1906(明治39)年8月14日 当館
- 2-32 相馬永胤日記 1904(明治37)年 専修大学大学史資料課
- 2-33 横浜正金銀行本店外観写真 1904(明治37)年 当館
- 2-34 『横浜正金銀行建築要覧』 1904(明治37)年頃 当館
- 2-35 高橋是清肖像写真 1898(明治31)年4月 当館
- 2-36 B五十円券 高橋是清 1951(昭和26)年11月 個人
- 2-37 高橋是清葉書 1916(大正5)年4月18日 当館
- 2-38 『高橋是清自伝』 1936(昭和11)年2月 当館
- 2-39 相馬永胤肖像写真 明治10~20年代 当館
- 2-40 相馬永胤とリヨン支店の行員 1894(明治27)年9月 当館
- 2-41 相馬永胤日記 1900(明治33)年 専修大学大学史資料課
- 2-42 相馬永胤日記 1902(明治35)年 専修大学大学史資料課
- 2-43 馬蹄銀 当館
- 2-44 支那殊に満州の貨幣一定に就いて 1902(明治35)年1月頃 専修大学大学史資料課
- 2-45 『清国出張復命書』 1904(明治37)年5月 当館
- 2-46 山川勇木肖像写真 1905(明治38)年9月5日 当館
- 2-47 『第一回東洋支店長会議録』 1908(明治41)年 当館
- 2-48 満州幣制ニ関スル意見書 1908(明治41)年11月~1909(明治42)年4月 当館
- 2-49 満州幣制ニ関スル意見書 当館
- 2-50 『第二回東洋支店長会議録』 1909(明治42)年 当館
- 2-51 歓迎の辞草稿 1906(明治39)年2月9日 専修大学大学史資料課
- 2-52 専修学校卒業式当日の記念写真 1895(明治28)年7月14日 当館
- 2-53 神田騰一肖像写真 1898(明治31)年3月6日 当館
- 2-54 遼陽・奉天・鉄嶺三支店連合運動会での記念写真 1911(明治44)年5月28日 当館
- 2-55 満鉄運動会での記念写真 1916(大正5)年5月7日 当館
- 2-56 鈴木島吉家族写真 当館
- 2-57 支那ニ於ル列国銀行政策ノ沿革及現況 編纂資料 1914(大正3)年11月 当館
- 2-58 支那ニ於ル列国銀行政策ノ沿革及現況 大正3年7月末調 1914(大正3)年11月 当館
- 2-59 支那ニ於ル列国銀行政策ノ沿革及現況 上・下編 1914(大正3)年3月・1915(大正4)年1月 当館
- 2-60 支那ニ於ル列国銀行政策ノ沿革及現況 1914(大正3)年7月 当館
- 2-61 満州ニ於ケル幣制ト本邦銀行券ノ地位 1921(大正10)年10月 当館
- 2-62 銀行業務備忘帖 1908~1920(明治41~大正9)年 当館
- 2-63 横浜正金銀行辞令 書記 1906(明治39)年8月18日 当館
- 2-64 高橋是清宛松方正義書簡 1906(明治39)年6月29日 当館
- 2-65 柏木秀茂宛井上準之助書簡 1920(大正9)年2月3日 当館
- 2-66 鈔票ノ存廢ニ就テ 1933(昭和8)年12月26日 当館
- 2-67 関東州ニ於ケル国幣勘定ノ開設ニ就テ 1934(昭和9)年7月26日 当館
- 2-68 鈔票廢止後ニ於ケル関東州満鉄附屬地満州国ニ於ケル通貨金融特産取引ノ状況 1936(昭和11)年10月22日 当館
- 2-69 中国視察報告メモ 1936(昭和11)年11月19日 当館
- 2-70 横浜正金銀行第2期営業満期記念木杯 1920(大正9)年2月27日 当館
- 2-71 柏木秀茂肖像写真 明治40年代 当館
- 2-72 横浜正金銀行史 1929(昭和4)年頃 専修大学大学史資料課
- 2-73 震災復旧後の横浜正金銀行本店外観写真 昭和戦前期 当館
- 2-74 横浜正金銀行本店復旧工事写真 1925(大正14)年 当館
- 2-75 児玉謙次肖像写真 1898(明治31)年11月 当館
- 2-76 正金俱樂部前での集合写真 昭和戦前期 当館
- 2-77 正金俱樂部前での集合写真 昭和戦前期 当館

- 2-78 『横浜正金銀行計算規程』 1939(昭和14)年7月1日 当館
- 2-79 横浜正金銀行株券 1925(大正14)年7月15日他 当館
- 2-80 『第五拾三回半季報告』 1906(明治39)年9月 当館
- 2-81 『第五拾六回半季報告』 1908(明治41)年3月 当館
- 2-82 『行報』第2号 1908(明治41)年5月16日 当館
- 2-83 『正金週報』昭和2年第7号 1927(昭和2)年2月17日 当館
- 2-84 『正金週報』昭和14年第2号 1939(昭和14)年1月13日 当館
- 2-85 明治20年の横浜正金銀行行員(『原六郎翁伝』) 1987(明治20)年5月撮影 個人
- 2-86 横浜正金銀行辞令 滞在手当支給 1890(明治23)年6月26日 当館
- 2-87 横浜正金銀行辞令 龍動支店支配人心得申付 1890(明治23)年6月26日 当館
- 2-88 横浜正金銀行辞令 臨時手当支給 1891(明治24)年3月31日 当館
- 2-89 横浜正金銀行辞令 龍動支店支配人申付 1891(明治24)年3月31日 当館
- 2-90 横浜正金銀行辞令 家族手当支給 1891(明治24)年7月7日 当館
- 2-91 横浜正金銀行辞令 滞在手当支給 1892(明治25)年8月1日 当館
- 2-92 横浜正金銀行辞令 二等手代申付 1895(明治28)年7月1日 当館
- 2-93 横浜正金銀行辞令 滞在手当支給 1895(明治28)年8月6日 当館
- 2-94 横浜正金銀行辞令 交際費・家族手当支給 1896(明治29)年5月27日 当館
- 2-95 横浜正金銀行辞令 一級俸支給 1897(明治30)年1月4日 当館
- 2-96 中井芳楠旅券 1890(明治23)年10月27日 当館
- 2-97 中井芳楠旧蔵名刺帳 明治20~30年代 当館
- 2-98 寺澤佐太郎旧蔵絵葉書アルバム 明治30~大正10年代 当館
- 2-99 大日本職業別明細図第229号 哈爾賓他(復刻) 1931(昭和6)年3月25日 当館
- 2-100 大日本職業別明細図第234号 大連他(復刻) 1931(昭和6)年6月1日 当館
- 2-101 大日本職業別明細図第236号 済南他(復刻) 1931(昭和6)年6月20日 当館
- 3-1 日本銀行兌換銀券 旧五円券 1886(明治19)年1月4日 当館
- 3-2 日本銀行兌換銀券 旧十円券 1885(明治18)年5月9日 当館
- 3-3 日本銀行兌換銀券 改造五円券 1888(明治21)年12月3日 当館
- 3-4 日本銀行兌換銀券 改造十円券 1890(明治23)年9月12日 当館
- 3-5 日本銀行兌換銀券 改造百円券 1891(明治24)年11月15日 当館
- 3-6 日本銀行兌換券 甲五円券 1899(明治32)年4月1日 当館
- 3-7 日本銀行兌換券 甲十円券 1899(明治32)年10月1日 当館
- 3-8 日本銀行兌換券 甲百円券 1900(明治33)年12月25日 当館
- 3-9 日本銀行兌換券 乙五円券 1910(明治43)年9月1日 当館
- 3-10 日本銀行兌換銀券 改造一円券 1916(大正5)年8月15日 当館
- 3-11 日本銀行兌換券 丙五円券 1916(大正5)年12月15日 当館
- 3-12 日本銀行兌換券 乙十円券 1915(大正4)年5月1日 当館
- 3-13 日本銀行兌換券 甲二十円券 1917(大正6)年11月20日 当館
- 3-14 日本銀行兌換券 乙二百円券 1927(昭和2)年4月25日 当館
- 3-15 中国の貨幣 当館
- 3-16 インドの貨幣 当館
- 3-17 オセアニアの貨幣 当館
- 3-18 アメリカ合衆国の貨幣 当館
- 3-19 メキシコの貨幣 当館
- 3-20 南アメリカの貨幣 当館
- 3-21 ソ連(ロシア)の貨幣 当館
- 3-22 ドイツの貨幣 当館
- 3-23 オーストリアの貨幣 当館
- 3-24 フランスの貨幣 当館
- 3-25 イギリスの貨幣 当館
- 3-26 東ヨーロッパの貨幣 当館
- 3-27 西ヨーロッパの貨幣 当館
- 3-28 エジプトの貨幣 当館
- 3-29 イラン(ペルシャ)の貨幣 当館
- 3-30 フィリピンの貨幣 当館
- 3-31 タイの貨幣 当館
- 3-32 カナダの貨幣 当館
- 3-33 アメリカ合衆国の貨幣 当館
- 3-34 ブラジルの貨幣 当館
- 3-35 ソ連(ロシア)の貨幣 当館
- 3-36 デンマークの貨幣 当館
- 3-37 ポーランドの貨幣 当館
- 3-38 チェコスロバキアの貨幣 当館
- 3-39 オーストリアの貨幣 当館

- 3-40 ハンガリーの貨幣 当館
- 3-41 ブルガリアの貨幣 当館
- 3-42 ドイツの貨幣 当館
- 3-43 フランスの貨幣 当館
- 3-44 イギリスの貨幣 当館
- 3-45 スイスの貨幣 当館
- 3-46 イスラエルの貨幣 当館
- 3-47 エジプトの貨幣 当館
- 3-48 譲葉大判 当館
- 3-49 菊極印丸小判 当館
- 3-50 大黒五両判 当館
- 3-51 慶長一分判 当館
- 3-52 慶長大判 当館
- 3-53 宝永一分判 当館
- 3-54 享保一分判 当館
- 3-55 享保小判 当館
- 3-56 享保大判 当館
- 3-57 元文一分判 当館
- 3-58 元文小判 当館

- 3-59 文政一分判 当館
- 3-60 文政小判 当館
- 3-61 文政真分二分判 当館
- 3-62 文政草文二分判 当館
- 3-63 天保一分判 当館
- 3-64 天保五両判 当館
- 3-65 天保小判 当館
- 3-66 天保大判 当館
- 3-67 安政一分判 当館
- 3-68 安政小判 当館
- 3-69 安政二分判 当館
- 3-70 万延大判 当館
- 3-71 文政二朱銀 当館
- 3-72 天保一分銀 当館
- 3-73 安政一分銀 当館
- 3-74 『金銀図録』 1810 (文化7) 年8月 当館
- 3-75 『新貨条例』 1871 (明治4) 年5月 当館
- 3-76 『貨幣条例備考』 当館
- 3-77 日本の貨幣 当館

### (3) その他の展示

#### ア フリーゾーンにおけるパネル展示

##### (a) 「かながわの近代建築」

概要： 神奈川県内には、現在も明治・大正・昭和戦前期に建てられた数多くの近代建築が残されている。これらの近代建築の多くは、横浜における開港場や居留地に由来する建築、湘南地域に幅広く分布する避暑・避寒のための別荘建築、海軍の軍都として発展した横須賀などに見られる軍事関連の建築、箱根を中心とした観光地に建てられた旅館やホテル建築、京浜工業地帯の一角を占める横浜・川崎の臨海部の工場建築という、五つの要素に大別してとらえることができる。これは神奈川県内の近代建築の特色を表現しているだけでなく神奈川県内の近代の歩みを考える上で重要な要素でもある。

本展示では、神奈川県内に現存する近代建築のうち、当館の建物である旧横浜正金銀行本店本館や「キングの塔」と通称される神奈川県庁本庁舎をはじめとする24棟の建物を取り上げ、その魅力を紹介した。

会期：平成28年4月1日(金)～5月29日(日)

会場：神奈川県立歴史博物館 フリーゾーン 廊下

展示資料点数：25点 (番外のマップを含む)

#### ○出品目録(いずれも写真パネル)

(凡例)No. 名称 所在地 竣工年月

番外 かながわの近代建築MAP(神奈川県内の近代建築のうち60棟を地図上に示し、各建物の写真と概要データを紹介したもの)	4 旧三井物産横浜支店(三井物産横浜ビル) 横浜市中区日本大通1号ビルー1911(明治44)年8月、2号ビルー1927(昭和2)年
1 旧横浜正金銀行本店本館(神奈川県立歴史博物館) 横浜市中区南仲通 1904(明治37)年7月	5 旧開港記念横浜会館(横浜市開港記念会館) 横浜市中区本町 1917(大正6)年6月
2 神奈川県庁舎(神奈川県庁本庁舎) 横浜市中区日本大通 1928(昭和3)年10月	6 旧川崎銀行横浜支店(日本興亜馬車道ビル) 横浜市中区弁天通 1922(大正11)年
3 旧新港埠頭煉瓦二号倉庫(横浜赤レンガ倉庫2号館) 横浜市中区新港 1911(明治44)年5月	7 旧生糸検査所(横浜第2合同庁舎) 横浜市中区北仲通 1926(大正15)年2月

- 8 ホテルニューグランド本館 横浜市中区山下町  
1927(昭和2)年11月
- 9 旧横浜商工奨励館(横浜情報文化センター) 横浜市中区日本大通 1929(昭和4)年4月
- 10 旧三井銀行横浜支店(三井住友銀行横浜支店) 横浜市中区本町 1931(昭和6)年3月
- 11 旧横浜英国総領事館(横浜開港資料館旧館) 横浜市中区日本大通 1931(昭和6)年
- 12 横浜税関本関庁舎 横浜市中区海岸通 1934(昭和9)年3月
- 13 横浜郵船ビル(日本郵船歴史博物館) 横浜市中区海岸通 1936(昭和11)年10月
- 14 旧内田家住宅(外交官の家) 横浜市中区山手町 1910(明治43)年
- 15 旧英国総領事公邸(横浜市イギリス館) 横浜市中区山手町 1937(昭和12)年
- 16 旧大倉精神文化研究所(横浜市大倉山記念館) 横浜市港北区大倉山 1932(昭和7)年4月

- 17 福住旅館金泉楼・萬翠楼 足柄下郡箱根町湯本 1877(明治10)・1878(明治11)年
- 18 富士屋ホテル本館 足柄下郡箱根町宮ノ下 1891(明治24)年
- 19 旧日本爆発物製造株式会社支配人執務室(旧海軍火薬廠将校クラブ、旧横浜ゴム平塚製造所記念館) 平塚市浅間町 1912(明治45)年頃
- 20 旧木下邸 中郡大磯町大磯 明治時代末期
- 21 旧近藤邸 藤沢市鵠沼東(同市内より移築) 1925(大正14)年
- 22 旧華頂家住宅主屋(旧華頂宮邸) 鎌倉市浄明寺 1929(昭和4)年
- 23 旧藤沢ゴルフ倶楽部クラブハウス(神奈川県立体育センター食堂) 藤沢市善行 1932(昭和7)年
- 24 旧前田家別邸(鎌倉文学館本館) 鎌倉市長谷 1936(昭和11)年8月

(b) 「写真で見る馬車道の歴史」

概要：馬車道。本町4丁目の交差点から吉田橋までのわずか500メートルほどの通りであるが、歌謡曲でも歌われたヨコハマを代表する道路のひとつである。幕末横浜開港とともに生まれ、港と市街地を結ぶ往来として発展し、明治4(1871)年の地図には「馬車道」の名前が記されている。

輸出入の品々を運んだ荷馬車や外国人などが乗った馬車が通行していたことから「馬車道」とよばれ、多くの人たちが往来し、さまざまな商店が建ち並ぶ一方、貿易商社や金融機関が軒を並べる通りでもあった。馬車道150年の歩みを写真パネルで紹介した。

会期：平成28年4月1日(金)～5月29日(日)

会場：神奈川県立歴史博物館 フリーゾーン 廊下

展示資料点数：11点

○出品目録(いずれも写真パネル)

〈凡例〉No. 名称(作者) 時代 所蔵・写真提供者

1 横浜一覽之真景(部分) 橋本玉蘭斎(五雲亭)貞秀 明治4年(1871) 所蔵 神奈川県立歴史博物館	7 オート三輪が走る馬車道 昭和35年(1960) 写真提供 神奈川新聞社
2 横浜吉田橋通繁盛之図 歌川国輝(二代) 山本平吉版 明治3年(1870) 所蔵 神奈川県立歴史博物館	8 東宝会館(現リッチモンドホテル) 昭和34年(1959) 写真提供 神奈川新聞社
3 (絵葉書)横浜正金銀行 明治末 所蔵 神奈川県立歴史博物館	9 国際仮装行列の仮面ライダー 昭和48年(1973) 写真提供 神奈川新聞社
4 (絵葉書)明治時代の馬車道 明治末 所蔵 神奈川県立歴史博物館	10 馬車道まつりパレード 昭和51年(1976) 写真提供 馬車道商店街協同組合
5 (絵葉書)横浜震災実況 横浜正金銀行付近の惨状 大正12年(1923) 所蔵 神奈川県立歴史博物館	11 馬車道で歌うピンクレディー 昭和52年(1977) 写真提供 馬車道商店街協同組合
6 空襲で焼け野原になった馬車道 昭和20年(1945) 写真提供 アメリカ国立公文書館	

## イ 共催企画展

「石展2—かながわの大地が生み出した石材—」 入場無料

会 期：平成28年12月17日(土)～平成29年2月26日(日)

会 場：神奈川県立生命の星・地球博物館 特別展示室

主 催：神奈川県立生命の星・地球博物館、神奈川県立歴史博物館

後 援：神奈川新聞社、箱根ジオパーク推進協議会

展示資料点数：297点

入場者数：21,480名

担 当：《生命の星・地球博物館》主任学芸員 山下 浩之、田口 公則、新井田 秀一、石浜 佐栄子  
館長 平田 大二

主任研究員 笠間 友博、

《神奈川県立歴史博物館》主任学芸員 丹治 雄一、

学芸員 千葉 毅、新井 裕美、

専門員 鳥居 和郎

概 要： 神奈川県域には、本小松石や根府川石、七沢石など、県外から運び出されて南関東、さらには国内全域に普及した石材や、産地の周辺で使われた風祭石やかま石(久野石)など様々な石材が存在する。これらの石材は、耐久性や加工の難易度、あるいは消費地への距離など、様々な条件によって選択的に使われてきた。

本展示では、石材を産出する地層や岩石、石材を採掘した丁場(跡)や石材の特徴、石材を活用した製品などを石材ごとに紹介した。また、石材を加工するための道具や、県内産の石材と関わった人物もあわせて取り上げた。

なお、本展示は、昨年度当館で開催した「石展—かながわの歴史を彩った石の文化」と一部に同じ資料を使いながらストーリーを変えた、いわば続編に位置づけられる展示であり、神奈川県立生命の星・地球博物館と当館との共催企画展である。

## ○関連行事

### ①シンポジウム

「『石展』からみえてきたもの：人文系および自然系博物館の共催展示を読み解く」

日 時：2月18日(土) 13:00～16:20

演題及び講師：

「開催趣旨：石展から何か新しい世界が見えたのか」 田口 公則

・地質・民俗・歴史、それぞれの視点からの石材へのアプローチ

「地質・岩石学的視点から：石材の分類と同定」 山下 浩之

「民俗学的視点から：石材の利用と庶民生活」 新井 裕美

「近代史・建築史的視点から：『白丁場石』研究の成果と課題」 丹治 雄一

・石展をふりかえる

「石展1の企画展示」 丹治 雄一

「石展2の展示」 山下 浩之

・石材を軸とした連携と課題：企画展示や学際研究を通して

「企画展『石材が語る—火山がつくった日本列島—』をふりかえって」 高橋直樹 氏(千葉県立中央博物館)

「歴史学から見る石材～人と技術でみる石～」 佐々木健策 氏(小田原市観光課)

・パネルディスカッション石展の向こうにみえたもの～学際性の可能性～

コメンテーター：高橋直樹 氏、佐々木健策 氏

パネリスト：山下 浩之、丹治 雄一、千葉 毅、新井 裕美、鳥居 和郎

進行：田口 公則

参加者：85名

### ②観察会 「石材に使われた箱根火山の溶岩の観察」

日 時：1月21日(土) 10:00～15:00

場 所：生命の星・地球博物館講義室および入生田周辺から早川石丁場  
 講 師：生命の星・地球博物館 主任学芸員 山下 浩之  
 受講者：30名

③ワークショップ 「セラドン石でストラップをつくろう」

日 時：12月18日(日) 13:00~16:00  
 場 所：生命の星・地球博物館実習実験室  
 講 師：門田 真人(地球博物館外来研究員)、田口 公則、山下 浩之、  
 協 力：須藤 清、中村 良、酒井 明子(生命の星・地球博物館地学ボランティア)  
 受講者：20名

④サロン・ド・小田原 「七沢石に迫る」

日 時：2月4日(土) 14:00~16:20  
 場 所：生命の星・地球博物館 講義室  
 講 師：門田 真人、新井 裕美、田口 公則、山下 浩之  
 受講者：63名

○新聞連載(掲載紙・連載名、回・掲載日・テーマ・執筆者)

神奈川新聞「石さんぽ」

第1回	1月5日(木)	「採掘終えた幻の石材 白丁場石」	山下 浩之、丹治 雄一
第2回	12日(木)	「加工のしやすさが利点 七沢石」	田口 公則、新井 裕美
第3回	19日(木)	「江戸城の石垣に使う 早川石丁場の安山岩」	山下 浩之、鳥居 和郎
第4回	26日(木)	「旧石器時代から広く流通 箱根産黒曜石」	山下 浩之、千葉 毅
第5回	2月2日(木)	「石塔類や磨崖仏にも 箱根火山の溶岩」	山下 浩之、鳥居 和郎
第6回	9日(木)	「最大の成功者を輩出 相州堅石」	山下 浩之、丹治 雄一
第7回	18日(木)	「福住旅館の防火壁に 湯本石」	山下 浩之、丹治 雄一
第8回	26日(木)	「“地産地消”の典型例 久野石」	山下 浩之、田口 公則

○出品目録 (凡例) 資料名、所蔵

1 神奈川県の地質図と主な石材産地 (解説パネル)	21 凝灰質砂岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
2 千枚岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	22 かま石 (解説パネル)
3 粘板岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	23 かま石で造られた祠 (写真パネル)
4 砂岩(玉髓入り) 神奈川県立生命の星・地球博物館	24 黒曜石 (鍛冶屋) (解説パネル)
5 火山角礫岩 2点 神奈川県立生命の星・地球博物館	25 黒曜岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
6 灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	26 黒曜岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
7 スコリア質礫岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	27 流紋岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
8 凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	28 矢佐芝石丁場 (解説パネル)
9 トーナル岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	29 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
10 結晶質石灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	30 矢穴が残る巨石 (山犬石) (写真パネル)
11 緑泥片岩 2点 神奈川県立生命の星・地球博物館	31 矢穴と刻印が残る巨石 (写真パネル)
12 泥岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	32 早川石丁場 (解説パネル)
13 れき岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	33 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
14 化石入り砂岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	34 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
15 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	35 箕ヶ窪橋下の石切りの跡 (写真パネル)
16 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	36 石橋石丁場 (解説パネル)
17 デイサイト 神奈川県立生命の星・地球博物館	37 矢穴が残る巨石 (写真パネル、個人撮影)
18 黒曜岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	38 富士小松石 (解説パネル)
19 凝灰岩・火山れき凝灰岩 神奈川県立生命の星地球博物館	39 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
20 溶結凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館	40 富士小松石の採石場跡 (写真パネル)
	41 根府川石 (解説パネル)

- 42 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 43 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 44 大日一尊種子板碑 小田原市教育委員会
- 45 大磯駅前の本小松石と根府川石の石碑(写真パネル)
- 46 居神神社の根府川石で造られた大日一尊種子板碑 (写真パネル)
- 47 居神神社の根府川石で造られた阿弥陀一尊種子板碑 (写真パネル)
- 48 根府川石 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 49 根府川石(研磨) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 50 本小松石 (解説パネル)
- 51 デイサイト 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 52 本小松石を用いた置時計 個人
- 53 箱根の石あかり 亀川石材店
- 54 貴船神社 (写真パネル)
- 55 本小松石の採石場 (写真パネル)
- 56 本小松石(研磨) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 57 小松石 (解説パネル)
- 58 横浜船渠株式会社第二号船渠で使用された新小松石 三菱重工横浜製作所
- 59 旧横浜船渠株式会社第二号船渠(現ドックヤードガーデン) 写真パネル
- 60 新小松石の採石跡(真鶴町真鶴番場浦海岸) (背景写真)
- 61 新小松石 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 62 新小松石(研磨) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 63 真鶴半島の採石 (写真パネル)
- 64 白丁場石 (解説パネル)
- 65 デイサイト 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 66 日本銀行本店増築棟で使用された白丁場石 日本銀行
- 67 旧横浜正金銀行本店 (現神奈川県立歴史博物館) (写真パネル)
- 68 日本銀行本店増築棟 (写真パネル、日本銀行提供)
- 69 日本銀行本店本館外観 (写真パネル)
- 70 丁場石の採石場跡 (背景写真)
- 71 黒曜石 (畑宿) (解説パネル)
- 72 黒曜岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 73 箱根畑宿産黒曜石製の石器 5点 神奈川県教育委員会
- 74 朝日山弁天山遺跡 (写真パネル)
- 75 箱根火山前期中央火口丘畑宿溶岩 (写真パネル)
- 76 箱根火山後期中央火口丘の石 (解説パネル)
- 77 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 78 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 79 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 80 石造五輪塔(元亨元年銘) 神奈川県立歴史博物館
- 81 石造五輪塔 神奈川県立歴史博物館
- 82 後期中央火口丘溶岩で造られた宝篋印塔 (伝多田満仲の墓) (写真パネル)
- 83 後期中央火口丘溶岩で造られた五輪塔 (曾我兄弟の墓) (写真パネル)
- 84 後期中央火口丘溶岩で造られた磨崖仏 (六道地藏) (写真パネル)
- 85 元箱根石仏群の磨崖仏(箱根町芦之湯) (背景写真)
- 86 久野石 (解説パネル)
- 87 火山れき凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 88 火消壺 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 89 七輪 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 90 七輪 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 91 建築に使われる久野石 (写真パネル)
- 92 久野石が使われている御嶽神社の石段(写真パネル)
- 93 久野石の採石場跡 (背景写真)
- 94 久野石 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 95 久野石(研磨) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 96 風祭石 (解説パネル)
- 97 後北条時代の敷石 小田原市教育委員会
- 98 後北条時代の敷石 小田原市教育委員会
- 99 風祭石で造られた山神神社の石灯籠 (写真パネル)
- 100 風祭石の採石場跡 (背景写真)
- 101 湯本石 (解説パネル)
- 102 火山れき凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 103 福住旅館彩色写真 箱根町立郷土資料館
- 104 湯本白石切り出しに関する約定書 萬翠楼福住(箱根町立郷土資料館寄託)
- 105 七沢石 (解説パネル)
- 106 火山れき凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 107 凝灰岩(玉ねぎ状風化) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 108 道祖神 神奈川県立歴史博物館
- 109 摺臼 神奈川県立歴史博物館
- 110 搗臼 厚木市郷土資料館
- 111 七沢石の半谷丁場跡 (写真パネル)
- 112 七沢石(火山れき凝灰岩) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 113 七沢石(火山れき凝灰岩;研磨) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 114 七沢石(凝灰岩) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 115 日向石 (解説パネル)
- 116 日向石の採石場跡 (背景写真)
- 117 煤ヶ谷石 (解説パネル)
- 118 煤ヶ谷石の採石跡 (写真パネル、個人撮影)
- 119 戸川砥 (解説パネル)
- 120 戸川砥 2点 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 121 デイサイト(荒加工) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 122 デイサイト(ズリ石) 4点 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 123 デイサイト(河原石) 5点 神奈川県立生命の星・地球博物館

- 124 ナタ 2点 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 125 砥石の原石を割る (写真パネル、秦野市教育委員会提供)
- 126 砥石の元になる岩 (写真パネル、秦野市教育委員会提供)
- 127 戸川砥の偏光顕微鏡写真 (写真パネル)
- 128 田代石 (解説パネル)
- 129 溶結凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 130 軽石 2点 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 131 風呂の焚き口 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 132 田代石の採石場跡 (写真パネル)
- 133 塩田石 (解説パネル)
- 134 養蚕炉 相模原市立博物館
- 135 塩田石の採石場跡 (背景写真)
- 136 六方石 (解説パネル)
- 137 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 138 安山岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 139 安山岩 2点 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 140 六方石の採石場 (写真パネル)
- 141 セラドン石を含む凝灰岩 (解説パネル)
- 142 セラドン石を含む凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 143 セラドン石を含む凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 144 セラドン石を含む凝灰岩 個人
- 145 玉川の風景 (写真パネル)
- 146 管玉の製作工程関連資料 素材用に加工されたセラドン石 4点 神奈川県教育委員会
- 147 管玉の製作工程関連資料 荒削り・整形 20点 神奈川県教育委員会
- 148 管玉の製作工程関連資料 穿孔 3点 神奈川県教育委員会
- 149 管玉の製作工程関連資料 仕上げ 6点 神奈川県教育委員会
- 150 管玉の製作工程関連資料 敲石 3点 神奈川県教育委員会
- 151 管玉の製作工程関連資料 砥石 神奈川県教育委員会
- 152 管玉製作工程資料が出土した社家宇治山遺跡 YK23号竪穴式住居跡 (写真パネル、神奈川県教育委員会提供)
- 153 まとまって出土した管玉の原石 (写真パネル、神奈川県教育委員会提供)
- 154 セラドン石を含む凝灰岩で造られた石垣 (写真パネル)
- 155 セラドン石を含む凝灰岩で造られた石段 (写真パネル)
- 156 青色のセラドン石が目立つ玉川 (写真パネル)
- 157 青色のセラドン石が目立つ玉川 (写真パネル)
- 158 佐島石 (解説パネル)
- 159 軽石質凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 160 凝灰質砂岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 161 佐島石の採石場跡 (背景写真)
- 162 鎌倉石 (解説パネル)
- 163 火山れき凝灰岩 (軽石質凝灰岩) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 164 建物の土台 鎌倉市教育委員会
- 165 炭焼き窯の部材 神奈川県立歴史博物館
- 166 炭焼き窯の部材 神奈川県立歴史博物館
- 167 鎌倉石で造られた称名寺の石段 (写真パネル)
- 168 発掘により出土した建物の土台 (写真パネル、個人撮影)
- 169 鎌倉石の採石場跡 (背景写真)
- 170 池子石 (解説パネル)
- 171 火山れき凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 172 凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 173 石垣に使われた池子石 (写真パネル)
- 174 池子石の採石場跡 (背景写真)
- 175 鷹取石 (解説パネル)
- 176 火山れき凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 177 鷹取石で造られた夫婦橋の護岸 (写真パネル)
- 178 鷹取石の採石場跡 (写真パネル)
- 179 かまど石 (解説パネル)
- 180 二宮石製の釜座 個人
- 181 かまど石の採石場跡 (背景写真)
- 182 大磯砂利 (解説パネル)
- 183 大磯砂利を構成する岩石 (ホルンフェルス4点) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 184 大磯砂利を構成する岩石 (トータル岩3点) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 185 大磯砂利を構成する岩石 (結晶片岩2点) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 186 大磯砂利を構成する岩石 (玄武岩) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 187 大磯砂利を構成する岩石 (安山岩3点) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 188 大磯砂利を構成する岩石 (凝灰岩5点) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 189 大磯砂利を構成する岩石 (火山れき凝灰岩4点) 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 190 火山れき凝灰岩 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 191 西小磯海岸の大磯砂利 (背景写真)
- 192 シンドウサキの石 (解説パネル)
- 193 「シンドウサキの石」で造った石垣 (写真パネル)
- 194 高麗寺の石 (解説パネル)
- 195 火山れき凝灰岩 2点 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 196 「高麗寺の石」で造った石垣 (写真パネル)
- 197 フイゴ 神奈川県立歴史博物館
- 198 エヌキ 神奈川県立歴史博物館

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 199 シタナナラシ 神奈川県立歴史博物館           | 233 道具箱 神奈川県立歴史博物館                                  |
| 200 ウワナラシ 神奈川県立歴史博物館            | 234 角を落とす(写真パネル、厚木市郷土資料館提供)                         |
| 201 ヤキヅツ 神奈川県立歴史博物館             | 235 スミギリ(カドイレ)(写真パネル、厚木市郷土資料館提供)                    |
| 202 ヤキバシ 神奈川県立歴史博物館             | 236 コタタキ(写真パネル、厚木市郷土資料館提供)                          |
| 203 サンカクヤスリ 神奈川県立歴史博物館          | 237 文字を彫る(写真パネル、厚木市郷土資料館提供)                         |
| 204 道具の焼き入れ(写真パネル、厚木市郷土資料館提供)   | 238 白のカタイレ(写真パネル、厚木市郷土資料館提供)                        |
| 205 ノミ 2点 神奈川県立歴史博物館            | 239 旧石器人、縄文人と黒曜石(解説パネル)                             |
| 206 セットウ 厚木市郷土資料館               | 240 鎌倉時代の関東に優れた石工技術をもたらせた忍性(解説パネル)                  |
| 207 ヤ 4点 神奈川県立歴史博物館             | 241 かながわにやって来た高遠石工の活動(解説パネル)                        |
| 208 オオゲンノウ 神奈川県立歴史博物館           | 242 土屋大次郎と近代の「相州堅石」の石材利用(解説パネル)                     |
| 209 ヨキ 厚木市郷土資料館                 | 243 使える石は何でも使う(解説パネル)                               |
| 210 スミツボ 厚木市郷土資料館               | 244 箱根ジオパークとは(解説パネル)                                |
| 211 サシガネ 神奈川県立歴史博物館             | 245 箱根ジオパークのジオサイト(元箱根石仏群、白石地藏と福住旅館外壁)(解説パネル)        |
| 212 モノサシ 神奈川県立歴史博物館             | 246 箱根ジオパークのジオサイト(早川石丁場群、小田原城と小田原用水)(解説パネル)         |
| 213 コズル 神奈川県立歴史博物館              | 247 箱根ジオパークのジオサイト(石垣山一夜城、根府川〔片浦海岸〕)(解説パネル)          |
| 214 コヤスケ 神奈川県立歴史博物館             | 248 箱根ジオパークのジオサイト(荻窪用水、岩地区)(解説パネル)                  |
| 215 ワリバ 神奈川県立歴史博物館              | 249 箱根ジオパークのジオサイト(貴船神社、真鶴半島採石場跡)(解説パネル)             |
| 216 グンデラ 神奈川県立歴史博物館             | 250 箱根ジオパークのジオサイト(幕山、御嶽神社と矢佐芝石丁場)(解説パネル)            |
| 217 カマツカ(ウシゴロシ)(写真パネル)          | 251 箱根ジオパークジオサイトマップ 3部                              |
| 218 ヤアナをあける(写真パネル、厚木市郷土資料館提供)   | 252 Hakone Geopark 3部 箱根ジオパーク推進協議会作成                |
| 219 ヤをくれる(写真パネル、厚木市郷土資料館提供)     | 253 箱根ジオパークガイド1 北条氏VS豊臣氏の小田原合戦を知る 2部 箱根ジオパーク推進協議会作成 |
| 220 ヨキでノドリをする(写真パネル、厚木市郷土資料館提供) | 254 箱根ジオパークガイド2 真鶴の地質、生物、歴史を満喫する 2部 箱根ジオパーク推進協議会作成  |
| 221 ソリで石を出す(写真パネル、厚木市郷土資料館提供)   | 255 箱根ジオパークガイド3 鎌倉幕府開運コース 2部 箱根ジオパーク推進協議会作成         |
| 222 リョウハ 神奈川県立歴史博物館             |   |
| 223 オシタタキ 神奈川県立歴史博物館            |   |
| 224 ビシャン 3点 神奈川県立歴史博物館          |   |
| 225 サシバ 2点 神奈川県立歴史博物館           |   |
| 226 ジボリノミ 神奈川県立歴史博物館            |   |
| 227 ウスホリ 神奈川県立歴史博物館             |   |
| 228 イシウスノカタ 神奈川県立歴史博物館          |   |
| 229 ウスセイゾロイ 神奈川県立歴史博物館          |   |
| 230 トイシ 神奈川県立歴史博物館              |   |
| 231 スイヘイキ 神奈川県立歴史博物館            |   |
| 232 マクラ 神奈川県立歴史博物館              |   |

## ウ 協力企画展

「楽しい浮世絵ヒストリー 丹波コレクションの世界」

会期：平成28年6月18日(日)～7月10日(日)

主催：横浜市歴史博物館

協力：神奈川県立歴史博物館

展示資料点数：64点

当館担当：主任学芸員 桑山 童奈

概要：当館の浮世絵コレクションを紹介する展覧会

○ 出品目録

〈凡例〉 No.名称 作者 時代 元名 形状

1 「花桶持つ美人と読書する若衆」 作者不詳 元文(1736～40)初期頃 大判墨摺横	24 「江戸高輪之景」 溪斎英泉 天保(1830～43)前期頃 江崎屋吉兵衛 大判錦絵横
2 「黒地歌留多散らし衣裳の遊女」 懐月堂安度 元禄～宝永(1688～1710)頃 紙本著色 100×44.5 cm	25 「両国橋花火見物遊船」 歌川国安 文化(1804～17)末期頃 和泉屋市兵衛か 大判錦絵三枚続
3 「赤子を抱く女」(『三世相性枕』より) 杉村治兵衛 貞享4年(1687) 伊勢屋伊兵衛・松坂屋喜兵衛 墨摺・手彩色絵本の部分	26 「日本橋魚市繁栄図」 歌川国安 文政(1818～29)末期頃 鶴屋喜右衛門 大判錦絵三枚続
4 「大こく揚屋いり」 奥村政信 正徳(1711～15)頃 西村屋 大判漆絵横・手彩色	27 「富嶽三十六景 凱風快晴」 葛飾北斎 天保2年(1831)前後 西村屋与八 大判錦絵横
5 「月次綾取袖鏡 五」 柴田保信 元文(1736～40)初期頃 江見屋吉右衛門 細判漆絵横	28 「富嶽三十六景 山下白雨」 葛飾北斎 天保2年(1831)前後 西村屋与八 大判錦絵横
6 「美人三番叟」 鈴木春信 宝暦(1751～63)頃 岩戸屋 細判紅摺絵	29 「富嶽三十六景 相州七里浜」 葛飾北斎 天保2年(1831)前後 西村屋与八 大判錦絵横
7 「若衆煙中に恋人の幻を見る」 鈴木春信 明和(1764～71)初期頃 中判錦絵	30 「富嶽三十六景 東海道程ヶ谷」 葛飾北斎 天保2年(1831)前後 西村屋与八 大判錦絵横
8 「雛形若菜の初模様 角玉屋内みやと」 磯田湖龍齋 安永6～7年(1777～78)頃 西村屋与八 大判錦絵	31 「富嶽三十六景 相州江の島」 葛飾北斎 天保2年(1831)前後 西村屋与八 大判錦絵横
9 「絵兄弟」 喜多川歌麿(初代) 寛政7～8年(1795～96)頃 近江屋権九郎 大判錦絵	32 「諸国名橋奇覧 飛越の堺つりはし」 葛飾北斎 天保4～5年(1833～34)頃 西村屋与八 大判錦絵横
10 「料理をする母娘」 喜多川歌麿(初代) 寛政10～11年(1798～99)頃 近江屋権九郎 大判錦絵	33 「諸国瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧」 葛飾北斎 天保4年(1833)頃 西村屋与八 大判錦絵
11・12 「江之嶋遊りゃうあわびとりの図」 喜多川歌麿(初代) 寛政(1789～1800)末頃 小判錦絵6枚続	34 「江戸新吉原八朔白無垢の図」 歌川豊国(三代) 文政(1818～29)末期頃 西村屋与八 大判錦絵三枚続
13 「小児の用を達させる母と娘」 鳥居清長 安永(1772～80)末期頃 柱絵判錦絵	35 「北廓月の夜桜」 歌川豊国(三代) 天保(1830～43)中期頃 山口屋藤兵衛 大判錦絵横
14 「風流五葉松」 鳥居清峯 文化(1804～17)頃 鶴屋喜右衛門 大判錦絵	36 「紅毛油画名所尽 錦帯橋」 歌川豊国(三代) 文政7～8年(1824～25) 山口屋藤兵衛 大判錦絵横
15 「風流七ツ目絵合」 玉川舟調 寛政(1789～1800)頃 江崎屋吉兵衛 大判錦絵	37 「二見浦曙の図」 歌川豊国(三代) 天保(1830～43)中頃 山口屋藤兵衛 大判錦絵横
16 「浮絵東都日本橋小田原町魚市之図」 北尾政美 天明(1781～88)頃 蔦屋重三郎・鶴屋喜右衛門 大判錦絵横	38 「女子教訓狂哥合」 歌川豊国(三代) 天保14年(1843)頃 和泉屋市兵衛 大判錦絵
17 「四代目岩井半四郎の三日月おせんと六代目市川団十郎のゑびしゃこの十」 歌川豊国(初代) 寛政10年(1798) 西村屋与八 大判錦絵	39 「東海道五拾三次之内 箱根 湖水図」 歌川広重(初代) 天保4年(1833)頃 保永堂 大判錦絵横
18 「五代目松本幸四郎の羽生村与右衛門」 歌川豊国(初代) 文化5年(1808) 大判錦絵	40 「東海道五拾三次之内 庄野 白雨」 歌川広重(初代) 天保4年(1833)頃 保永堂 大判錦絵横
19 「名勝八景 大山夜雨 従前不動頂上之図」 歌川豊国(二代) 天保(1830～43)初期頃 伊勢屋利兵衛 大判錦絵横	41 「東都飛鳥山の図 王子道狐のよめ入」 歌川広重(初代) 天保11年(1840)頃 蔦屋吉蔵 大判錦絵三枚続
20 「両国涼之図」 菊川英山 文化(1804～17)中期頃 上村与兵衛 大判錦絵三枚続	42 「東都名所 両国花火」 歌川広重(初代) 天保11～12年(1840～41)頃 丸屋清次郎 大判錦絵横
21 「新吉原道中図 あふきや内花まと」 菊川英山 文化(1804～17)後期頃 丸屋甚八 大判錦絵	43 「東都名所 高輪廿六夜待遊興之図」 歌川広重(初代) 天保8年(1837)頃 佐野屋喜兵衛 大判錦絵三枚続
22 「今様美女競 けいしゃ」 溪斎英泉 文政8年(1825)頃 佐野屋喜兵衛 大判錦絵	44 「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」 歌川広重(初代) 安政4年(1857) 魚屋栄吉 大判錦絵
23 「日光山名所之内 素麺之滝」 溪斎英泉 天保14～弘化3年(1843～46)頃 大判錦絵	45 「月に雁」 歌川広重(初代) 天保(1830～43)初頃 川口屋正蔵 中短冊判錦絵
	46 「金沢八景」 歌川広重(初代) 嘉永6年(1853) 紙本著色 29×91 cm
	47 「観世音霊現 一ツ家ノ旧事」 歌川国芳 天保10～

- 12年(1839～41)頃 湊屋小兵衛 大判錦絵三枚続
- 48 「相州大山道田村渡の景」 歌川国芳 天保(1830～43)後期頃 若狭屋与市 大判錦絵横
- 49 「源頼光公館土蜘蛛作妖怪図」 歌川国芳 天保14年(1843) 伊場屋仙三郎 大判錦絵三枚続
- 50 「荷宝蔵壁のむだ書」 歌川国芳 弘化4～嘉永元年(1847～48)頃 伊場屋仙三郎 大判錦絵三枚
- 51 「讃岐院眷属をして為朝をすくふ図」 歌川国芳 嘉永4～5年(1851～52) 住吉屋政五郎 大判錦絵三枚続
- 52 「墨墨利加蒸気船 長四十間 巾六間」 一川芳員 文久元年(1861) 丸屋甚八 大判錦絵三枚続
- 53 「横浜鈍宅之図」 五雲亭貞秀 文久元年(1861) 山口屋藤兵衛 大判錦絵三枚続
- 54 「武陽横浜一覽」 歌川広重(二代) 慶応2年(1866) 尾張屋清七 大判錦絵三枚続
- 55 「横浜野毛伊勢山從海岸鉄道蒸気車図」 歌川広重(三代) 明治7年(1874) 蔦屋吉蔵 大判錦絵三枚続

- 56 「横浜新地蒸気車鉄道之真景」 歌川広重(三代) 明治5年(1872) 若狭屋甚五郎 大判錦絵三枚続
- 57 「月百姿 銀河月」 月岡芳年 明治19年(1886) 秋山武右衛門 大判錦絵
- 58 「月百姿 烟中月」 月岡芳年 明治19年(1886) 秋山武右衛門 大判錦絵
- 59 「月百姿 玉兔 孫悟空」 月岡芳年 明治22年(1889) 秋山武右衛門 大判錦絵
- 60 「從箱根山中富嶽眺望」 小林清親 明治13年(1880) 福田熊次郎 大判錦絵横
- 61 「箱根木賀遠景」 小林清親 明治14年(1881)頃 大判錦絵横
- 62 「鴨と蓮」 小林清親 明治12年(1879) 松木平吉 大判錦絵横
- 63 「滝に鴉」 河鍋暁斎 明治14～22年(1881～89)頃 紙本著色 96.5×28.2 cm
- 64 「梅の古木に鳥二羽」 河鍋暁斎 明治18～22年(1885～89)頃 松木平吉 大判錦絵2枚続

#### (4) 教育普及・学習支援事業

広く一般県民の学習ニーズに応えるべく学習の機会を提供し、博物館で行う講座・講演会や各種行事などへの参加を通して、神奈川の歴史・文化や文化財についての知識・関心を深めることを目的として実施した。

##### ア 講座(特別展にかかる講座を除く)

展示内容や文化財への興味関心を持ってもらい、より深い理解を図るため、次の講座を実施した。

- ①【県博セミナー】 生涯学習課主管の県立社会教育施設公開講座。連続5回、有料(5,000円、全回申込者を優先するが、定員に達しない場合は各回毎に単独受講可能。単独受講の場合は1回1,000円。14:00～16:00)

##### I期

テーマ：「資料からみた中世都市鎌倉」(定員50名 応募者106名〈単回を含む事前申込者〉)

概要：発掘調査の成果や絵図に描かれた景観など、様々な資料から鎌倉を語る。

- ・第1回 10月8日(土) (受講者57名)  
「中世都市鎌倉の発掘」鎌倉考古学研究所理事 斎木秀雄氏
- ・第2回 10月15日(土) (受講者48名)  
「発掘にみる中世鎌倉人の生活」鎌倉考古学研究所理事 宮田眞氏
- ・第3回 10月22日(土) (受講者48名)  
「和田合戦と鎌倉」創価大学教授 坂井孝一氏
- ・第4回 10月29日(土) (受講者50名)  
「古絵図からみた鎌倉の市街」浄光明寺住職 大三輪龍哉氏
- ・第5回 11月5日(土) (受講者43名)  
「文献にみる鎌倉の中世」企画普及課長 永井晋

##### II期

テーマ：「文献から読み解く中世都市鎌倉」(定員50名 応募者126名〈単回を含む事前申込者〉)

概要：文学・日記・仏典など、様々な文献資料から鎌倉の姿を語る。

- ・第1回 2月4日(土) (受講者50名)  
「文学からみた中世都市鎌倉」慶應義塾大学教授 小川剛生氏

- ・第2回 2月11日(土) (受講者 47名)  
「日記に残された中世都市鎌倉」 東京大学史料編纂所教授 尾上陽介 氏
- ・第3回 2月18日(土) (受講者 45名)  
「仏教典籍にみる中世都市鎌倉の寺院」 慶應義塾大学ス道文庫准教授 高橋悠介 氏
- ・第4回 2月25日(土) (受講者 46名)  
「中国文化圏からみた鎌倉の武家政権」 立正大学教授 村井章介 氏
- ・第5回 3月4日(土) (受講者 45名)  
「古文書からみた中世都市鎌倉」 企画普及課長 永井 晋

②【県博講座】当館学芸員による4回連続講座。無料。(特別展関連以外)

会 場：宇徳ビル 8F 会議室他

時 間：(am) 10:00~11:30 (pm) 14:00~15:30

NO	講師 (普及担当)	テーマ・概要	開催日	応募者 (定員)	受講者
1	千葉 毅 (田辺 可奈)	<b>かながわの考古学入門</b> 概要：考古学とは、土器とはなにか、その研究方法と考え方を、石器、土偶の見方を通じて学ぶ。 ① 「石をみる考古学者の眼」 ② 「旧石器時代の遺跡研究」 ③ 「縄文土器から考える」 ④ 「これは土偶か？」	火曜 am  10月18日 11月1日 11月15日 11月29日	64名 (30)	57名 49名 52名 48名
2	①古宮 雅明 ②桑山 童奈 ③根本 佐智子 (濱本 明海)	<b>江戸時代・かながわの東海道を訪ねる</b> 概要：街道絵図、浮世絵、古文書を素材として江戸時代かながわの東海道の様子を知る。①「東海道分間絵図」の読み解き、②浮世絵に描かれた県域の東海道の名所を概観、③古文書と絵図をもとに幕末期の川崎宿を復元、④藤沢市浮世絵館と藤沢宿の間の宿であった四谷付近を見学。 ① バーチャル東海道—東海道分間絵図を読む— ② 浮世絵にみる東海道の名所 ③ 古文書にみる東海道川崎宿 ④ 現地見学会「藤沢宿を訪ねる」	火曜 pm  10月18日 11月1日 11月15日 11月29日	113名 (30)	30名 29名 30名 30名
3	永井 晋 (板倉 桂子)	<b>源氏三代</b> 概要：鎌倉幕府を開いた源頼朝から三代将軍実朝までの源家将軍の時代について、歴代将軍の人物像や激しい権力抗争など、政治史中心に語っていく連続講座。 ① 頼朝挙兵 ② 頼朝VS後白河院 ③ 二代将軍頼家—頼朝の誤算が招いた悲劇— ④ 源実朝暗殺—存続を許されなかった源家将軍—	木曜 am  10月13日 10月27日 11月10日 11月24日	110名 (30)	49名 43名 41名 33名
4	寺寄 弘康 (泉山 花江)	<b>古文書解読講座 横浜正金銀行資料を読み解く</b> 概要：横浜正金銀行の原資料を読みながら、正金銀行の歴史を学ぶ。 ① 福沢諭吉と大隈重信—横浜正金銀行設立の背景— ② 外国貿易と横浜正金銀行 その1 ニューヨーク支店 ③ 外国貿易と横浜正金銀行 その2 リヨン支店 ④ 横浜正金銀行員あれこれ—柏木秀茂頭取を中心—to	木曜 pm  10月13日 10月27日 11月10日 11月24日	44名 (30)	38名 36名 30名 24名
5	武田 周一郎 (田辺 可奈)	<b>近現代の地図を読む</b> 概要：鎌倉などの観光地や横浜の市街地を主な事例	火曜 am		

		としながら、地図に描かれた地域の姿や、街並みの変化について紹介した。 ① 岩橋教章と府県管内図 ② 天下の名勝鎌倉 ③ 吉田初三郎神奈川県鳥瞰図 ④ 高度成長期の横浜・馬車道	10月11日 10月25日 11月8日 11月22日	50名 (30)	42名 42名 39名 36名
6	薄井 和男 (濱本 明海)	<b>かながわの神像彫刻とその周辺</b> 概要：神奈川県下には霊山箱根山に古代に創建された箱根神社や、中世鎌倉のシンボルともいえる鶴岡八幡宮をはじめ、数多くの古社、名社が存在する。これらの神社には人知れず密やかに神々の姿をうつした神像彫刻が伝わってきた。 神像は、本来具体的な姿を顕さなかった日本古来の神が、仏教、仏像の影響により造形されることになったもので、奈良時代の終り頃には成立していたと思われる。この講座では、神仏習合により生まれた神像の成立と展開を説明し、神奈川県下に今日現存する古代から中世にかけての神像彫刻を画像とともに紹介し、その歴史と造形の特徴、仏像と異なる神像の魅力について解説した。 ① 神像と神道美術 ② 神像と仏像 ③ かながわの神像(1) ④ かながわの神像(2)	火曜 pm  10月11日 10月25日 11月8日 11月22日	48名 (30)	39名 35名 33名 37名
7	角田 拓朗 (田辺 可奈)	<b>五姓田派の画家たち</b> 概要：五姓田派の画家たちの履歴と作品を丁寧に読み解く連続講座。毎回、関連する実資料を提示しながら、彼らの技術の具体相に焦点を合わせて詳述しつつ、彼らが生き抜いた近代日本という時代の特性にも触れた。 ① 初代五姓田芳柳 ② 山本芳翠 ③ 渡辺文三郎 ④ 平木政次とその画家たち	火曜 am  12月6日 12月20日 1月17日 1月31日	32名 (30)	21名 24名 25名 22名
8	新井 裕美 (濱本 明海)	<b>神奈川の年中行事</b> 概要：県内で季節ごとに行われている年中行事を取り上げた。各地の地域的特長を捉えながら、その行事の時代変化やそれを行う人々の目的や心意について紹介した。 ① 春の行事 ② 夏の行事 ③ 秋の行事 ④ 冬の行事	火曜 pm  12月6日 12月20日 1月17日 1月31日	37名 (30)	28名 27名 31名 25名
9	嶋村 元宏 (泉山 花江)	<b>横浜開港とペリー</b> 概要：神奈川ならではの歴史ある、多くの異国船が日本近海に出現するようになった18世紀後半から条約締結、開港といういわゆる開国期について、世界史的文脈の中でその意義について考えた。 ① 異国船の出現と三浦半島の海防 ② アヘン戦争とペリー来航予告 ③ アジアの中の日本開国 ④ 横浜開港の世界的意義	木曜 am  12月8日 12月22日 1月12日 1月26日	128名 (30)	43名 40名 44名 40名

10	古川 元也 (板倉 桂子)	<b>中世古文書に親しむ</b> 概要：古文書を知るための講座は世の中に多くあるが、中世（12世紀後半から16世紀後半）の古文書をあつかうものは少ない。この講座では、なじみのないこれら中世文書を、いくつかの史料を読むことによって、受講者が理解できるようにした。また、各文書から歴史像が浮かび上がる道筋を話した。 ① 中世の古文書とはどんなものなのか ② 身分を与える古文書 ③ 権利を与える古文書 ④ 庶民の古文書	木曜 pm  12月8日 12月22日 1月12日 1月26日	100名 (30)	49名 47名 45名 40名
11	神野 祐太 (田辺 可奈)	<b>かながわの仏像入門</b> 概要：かながわの彫刻史についての連続講座。奈良時代から室町時代までの約800年間の彫刻（特に仏像）の歴史を4回に分けてとりあげる。通史を基本とし、代表的な彫刻作例については、スライドを用いて作品の魅力を解説する。神奈川の彫刻といえば鎌倉時代に注目が集まりがちである。本講座ではその前後の時代にも視野を広げ、鎌倉時代以外にも多数の仏像が身近にあることを感じてもらった。 ① 飛鳥～平安時代の彫刻—陀彫り・観音信仰・神仏習合— ② 仏師運慶の登場—鎌倉幕府との関係から— ③ 禅宗彫刻の隆盛—宋風・伽藍神・頂相彫刻— ④ 鎌倉仏師の活躍—南北朝時代以降の彫刻—	火曜 am  2月14日 2月28日 3月14日 3月28日	156名 (30)	55名 56名 54名 53名
12	鳥居 和郎 (濱本 明海)	<b>戦国大名北条氏五代について</b> 概要：戦国大名北条氏は小田原を本拠とし、早雲、氏綱、氏康、氏政、氏直と5代にわたり関東の支配をめざした。北条氏が関東最大の大名として成長する課程、また、天下統一をめざした豊臣秀吉との攻防などについて分かりやすく講義した。 ① 初代北条早雲 ② 二代北条氏綱 ③ 三代北条氏康 ④ 四代北条氏政、五代氏直	火曜 pm  2月14日 2月28日 3月14日 3月28日	235名 (30)	52名 49名 41名 49名
13	丹治 雄一 (板倉 桂子)	<b>かながわの近代産業史</b> 概要：近代の神奈川県で展開された各種の産業の動向を近代日本経済史上に位置づけて考察し、現存する関連産業遺産を紹介した。 ① 石材採掘業—在来産業の近代化— ② ビール醸造業—横浜に始まる発展の歴史— ③ 京浜工業地帯の形成 ④ いまに遺る産業遺産 見学会 講義 1H、見学 1H	木曜 am  2月9日 2月23日 3月9日 3月23日	84名 (30)	41名 38名 40名 40名
14	小井川 理 (泉山 花江)	<b>鎌倉彫の歴史</b> 概要：鎌倉彫の歴史について、当館所蔵作品を中心に、実作品に基づいて解説した。 ① 鎌倉彫のおこり ② 彫漆と木彫漆塗 ③ 近世の鎌倉彫	木曜 pm  2月9日 2月23日 3月9日	37名 (30)	33名 30名 32名

		④ 近代の鎌倉彫	3月23日		28名
15	古宮 雅明 根本 佐智子 (板倉 桂子)	<b>古文書解読講座 近世文書入門・初心者編</b> 概要：近世古文書解読の初心者向け講座。近世古文書を読むための基礎知識からはじめ、往来手形等比較的易しい文書を実際に行った。 ① 近世文書を読むために ② 実践その1 旅の必需品—往来手形— ③ 実践その2 家族の絆—結婚と勘当— ④ 実践その3 村に生きる—五人組前書—	木曜 pm  2月2日 2月16日 3月2日 3月16日	137名 (30)	31名 33名 30名 30名
16	①永井 晋 ②古川 元也 ③鳥居 和郎 ④武田 周一郎 (田辺 可奈)	<b>学芸員が語る鎌倉の歴史</b> 概要：本講座は、鎌倉幕府滅亡後から15世紀半ばにいたる政権都市鎌倉の復興と、その継続性について考えた。 ① 執権北条氏の街鎌倉 ② 鎌倉幕府滅亡後の鎌倉 ③ 戦国大名北条氏と鎌倉 ④ 近世以降の鎌倉	日曜 pm  12月11日 12月18日 1月15日 1月22日	178名 (30)	45名 48名 53名 44名
17	①神野 祐太 ②小井川 理 橋本 遼太 ③桑山 童奈 ④角田 拓朗 (泉山 花江)	<b>美術がひもとく、かながわ</b> 概要：中世から近代にいたる「かながわ」と美術のかかわりを、当館所蔵の美術作品を中心に、美術担当学芸員が連続講座で解説した。実作品に焦点をあて、作品を生み出す背景、地域的な特色や日本の美術の流れの中での位置、社会や人々の営みとの関係、そして作品としての魅力などをひもとき、多彩で豊かな「かながわ」の文化の様相を考えた。 ① 坂東に伝わった仏教文化—古代から中世の仏像— ② 花開く東国文化 —室町～桃山、関東水墨画と鎌倉彫— ③ 横浜浮世絵に見るヨコハマ ④ 戦前横浜から戦後鎌倉へ—近現代日本美術の発信地—	日曜 pm  2月5日 2月12日 2月19日 2月26日	64名 (30)	46名 53名 44名 46名
18	①嶋村 元也 ②丹治 雄一 ③寺寄 弘康 ④武田 周一郎 (田辺 可奈)	<b>かながわの150年—ペリー来航から高度経済成長まで—</b> 概要：ペリー来航以来、日本近現代史の表舞台となった「かながわ」の150年について、各学芸員が専門とする四つのテーマに絞り、かながわの近現代史ならではの話をした。 ① 黒船、来航とかながわ ② かながわを彩った近代建築 ③ 関東大震災とかながわ ④ 高度成長期の変貌	日曜 pm  3月5日 3月12日 3月19日 3月26日	221名 (30)	51名 44名 45名 38名

③【学芸員が推すこの逸品】 各専門分野から資料を選んでの講座。無料。

会場：宇徳ビル8階会議室

曜日・時間：日曜日 14:00～15:30

担当：板倉 桂子

No.	講師	テーマ・概要	開催日	応募者 (定員)	受講者
1	千葉 毅	<b>縄文時代のフシギな石器—縄文時代早期燃糸文期のスタンプ形石器と「礫斧」—</b> 概要：燃糸文期の特徴的な石器とされるスタンプ形石器および「礫斧」が、縄文時代を特徴づける諸要素を示しうるのか研究史を繙くことで確認し、今後の研究の展望を検討した。	10/16	43名 (30)	35名
2	鳥居 和郎	<b>戦国大名北条氏と虎の朱印状</b> 概要：戦国大名北条氏の印として知られる虎の朱印を素材として、その使用目的さらには印判状制度についても解説した。	10/23	85名 (30)	42名
3	古川 元也	<b>源頼朝袖判下文(そではんくだしぶみ)</b> 概要：鎌倉幕府初代将軍源頼朝の発給した「袖判下文(そではんくだしぶみ)」とは何か。源頼朝ゆかりの、その文書とともに、鎌倉時代の武家文書の姿にせまった。	10/30	81名 (30)	36名
4	神野 祐太	<b>銅造観音菩薩立像—善光寺式阿弥陀三尊の脇侍の一例—</b> 概要：当館の所蔵する銅造観音菩薩像は、鎌倉時代に善光寺式阿弥陀三尊の脇侍として造られた。仏像の見どころをはじめ、背景にある善光寺信仰について解説する。	11/6	59名 (30)	43名
5	小井川 理	<b>鎌倉彫椿紋笈(かまくらぼりつばきもんおい)</b> 概要：館所蔵の県指定重要文化財「鎌倉彫椿文笈」(指定名称)とその類例を通して、鎌倉彫の祖型と、東国文化との近しさを紹介した。	11/13	28名 (30)	18名
6	嶋村 元宏	<b>ペリー来航時の老中阿部家資料</b> 概要：阿部家に伝わった資料をひもとき、老中阿部正弘の対外政策を考えた。	11/20	79名 (30)	48名
7	角田 拓朗	<b>五姓田義松「老母図」</b> 概要：五姓田義松の描いた傑作「老母図」誕生の背景に迫った。家族構成の謎や文献資料を読み解きつつ、作品細部に込められた画家の鬼気迫る感情を丁寧に説明した。	11/27	25名 (30)	19名
8	新井 裕美	<b>小正月のツクリモノ</b> 概要：1月中旬に行われる小正月では、豊作を願うマユダマや魔除けのためのカドニュードウなどの様々な「モノ」がある。本講座では、県内の小正月の多彩な「ツクリモノ」を紹介した。	12/4	15名 (30)	10名

④【人文科学講座】外部講師による講座。無料。

曜日・時間：土曜日 14:00～16:00

No.	学芸担当 (普及担当)	演題・講師・概要	開催日	応募者 (定員)	受講者
1	嶋村 元宏 (田辺可奈)	<b>文化財建造物における博物館環境管理 —資料を守るために—</b> 講師：東京文化財研究所保存科学研究センター保存環境研究室長 吉田 直人 氏 概要：歴史的建造物を博物館として利用する際の問題点を、当初より博物館として設計された建物との比較において取り上げ、制約のもとでどのような改善が可能か、いくつか例をあげて解説し	11/12	38名 (50)	26名

		た。			
2	神野 祐太 (泉山花江)	<b>鎌倉大仏をめぐって</b> 講師：三井記念美術館 館長 清水 眞澄 氏 概要：与謝野晶子によって「美男におはす」と詠われた鎌倉大仏 今からおよそ 750 年も前、鎌倉時代中期に造立されたが、誰が何 のために建立したのかなど基本的な問題をはじめ、多くの謎につ つまれている。ここでは、それらの謎の一端を、弥勒定印を結ん で座るその形や、『吾妻鏡』など歴史史料の検討、そして 11 メー トルを越す巨像を堅牢に制作した高度の造像技法などから考え る。	12/10	170 名 (50)	41 名
3	丹治 雄一 (濱本明海)	<b>古典主義建築という視点で読み解く旧横浜正金銀行本店本館の デザイン</b> 講師：横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 都市イ ノベーション部門 特別研究員 菅野 裕子 氏 概要：旧横浜正金銀行本店本館（現当館建物）を古典主義様式建 築という視点で読み解き、イタリア・ルネサンス以降の代表的作 品や日本近代の作例とも比較することにより、その特徴的なディ テールを含む当該建築の魅力について解説した。	1/28	113 名 (50)	46 名

⑤【地域巡回講座】県内 4 地域での開催講座。無料。

地域 学芸担当 (普及担当)	会場	演題・講師等	開催日時	応募者 (定員)	受講者
金沢  永井 晋 (泉山花江)	午前 県立金沢文庫 大会議室 午後 称名寺庭園 称名寺金堂	<b>金沢文庫・称名寺で鎌倉の文化をあじわう</b> 概要：神奈川県立金沢文庫が保管する国宝の文化 財、称名寺庭園、称名寺金堂での重要文化財 弥 勒菩薩立像の見学など、金沢文庫・称名寺で鎌倉 文化を味わう一日を過ごす。  演題：「国宝 称名寺聖教・金沢文庫文書の歴史 と価値」講師：企画普及課長 永井 晋 ミニ展示解説：金沢文庫 学芸員 貫井裕恵 氏  庭園及び文化財の解説：企画普及課長 永井 晋	12 月 1 日 (木) 9 : 50 ～15 : 00	91 名 (30)	26 名
大磯  寺寄弘康 古宮 雅明 (濱本明海)	午前 大磯町郷土資 料館 研究室  午後 大磯宿史跡等 現地見学	<b>大磯の歴史と文化を辿る</b> 概要：江戸時代には大磯宿として、明治以降の日 本初の海水浴場や政財官界要人の別荘地として 知られた大磯の文化と歴史を辿った。 午前中座学、午後現地見学。  演題：「江戸時代の大磯宿について」 講師：大磯町郷土資料館学芸員 富田三沙子 氏 演題：「近代の大磯 海水浴場と別荘」 講師：学芸部長 寺寄 弘康  解説：大磯町郷土資料館学芸員 富田三沙子 氏 学芸部長 寺寄 弘康	1 月 19 日 (木) 10 : 00 ～15 : 30	89 名 (30)	31 名

<b>鎌倉</b> 角田 拓朗 小井川 理 (濱本明海)	午前 鎌倉彫資料館 体験室  午後 鐺木清方記念 美術館	<b>早春の鎌倉に美を訪ねる</b> 概要：美術にゆかり深い鎌倉の土地を訪ねる企画。角田が企画全体の概説をおこなったのち、小井川より鎌倉彫の解説、午後は鐺木清方記念美術館にて今西学芸員より解説をうけた。 演題：「近代美術と鎌倉について」 講師：主任学芸員 角田 拓朗 演題：「鎌倉彫について」 講師：学芸員 小井川 理  解説：鐺木清方記念美術館 学芸員 今西彩子 氏	2月7日 (火)10:00 ~15:30	54名 (20)	23名
<b>川崎</b> 桑山 童奈 古宮 雅明 根本佐智子 (濱本明海)	午前 旧川崎宿周辺 現地見学 午後 東海道かわさ き宿交流館	<b>東海道川崎宿を訪ねる</b> 概要：京浜急行六郷土手駅から、多摩川(かつての六郷の渡し)、川崎宿周辺を歩いた後、東海道かわさき宿交流館で川崎宿に関わる講義を聞いた。 解説：非常勤学芸員 根本 佐智子 演題：「田中休愚と川崎宿」 講師：川崎・砂子の里資料館 館長 斎藤文夫 氏 演題：「浮世絵にみる川崎宿」 講師：川崎・砂子の里資料館 学芸員 小池満紀子 氏	3月10日 (金)10:30 ~15:30	106名 (30)	32名

⑥【体験教室】体験を通して歴史を学ぶ。大人向け、子ども向けの教室を実施。

○ 一般向け

(a) 「お抹茶文化に親しむ」

共 催：小田原市郷土文化館

日 時：11月17日(木) ① 9:50~12:00、②13:50~16:00

会 場：小田原市郷土文化館分館 松永記念館

受講料：無料。ただし抹茶・お菓子代として実費負担300円。

定 員：各回20名

参加者：① 応募者 27名 受講者 16名

② 応募者 29名 受講者 17名

講 師：裏千家流准教授 小檜山國子 氏(茶道体験)

小田原市郷土文化館 学芸員 中村暢子 氏(施設見学、常設展示・建物解説)

企画普及課長 永井 晋 (講義)

担 当：非常勤学芸員 泉山 花江

概 要： 講義・体験・見学をとおして抹茶の歴史と文化を学ぶ講座。松永記念館は、昭和の実業家であり茶道にも造詣の深かった松永安左エ門の記念館であり、敷地内には茶室を含む建築と庭園、展示室が併設されている。この記念館を会場に、お茶の歴史に関する講義、裏千家流の茶道体験、解説付き展示見学を、各分野の講師陣が行った。

(b) 「大人の工場見学—キンビール横浜工場—」

日 時：12月14日(水) ①10:00~12:00 ②14:00~16:00

会 場：キンビール横浜工場

定 員：①50名 ②30名

参加者：①応募者 167名 参加者 42名

②応募者 141名 参加者 23名

講 師：主任学芸員 丹治 雄一(講義)

キンビール横浜工場 見学コースアテンダント(工場見学)

担 当：非常勤学芸員 濱本 明海

概要：ビールとその歴史に対する関心を深めることができるように、当館学芸員による「日本のビール産業史」の講義と、キリンビール横浜工場のビール製造工程の見学を行った。

(c) 「大人のためのまがたまづくり」

日時：1月24日(火) ①10:00~12:00 ②14:00~16:00

会場：宇徳ビル

受講料：無料。ただし材料費として実費負担370円、材料セットは当日ショップにて販売。

定員：各回20名

参加者：①応募者 79名 参加者 24名

②応募者 57名 参加者 22名

講師：学芸員 千葉毅

担当：非常勤学芸員 田辺可奈

概要：古代の人々のくらしや技術を身近に感じ、理解を深めるため、まがたまについてのミニ講座と製作からなる体験教室を実施した。まがたまについての基本的な事項は資料を渡し、講座は専門的な内容を講義した。また、製作については、大きめの石を使用し、より複雑な形状にも対応できるよう工夫をした。

○ 子ども向け

(a) 「拓本をとってみよう」

日時：1月29日(日) ①10:00~12:00 ②14:00~16:00

会場：宇徳ビル

定員：各回15名

参加者：①応募者 7名 参加者 6名(保護者6名)

②応募者 7名 参加者 7名(保護者5名)

講師：主任学芸員 古川元也、学芸員 千葉毅

担当：非常勤学芸員 泉山花江

概要：拓本のとり方とその活用方法を、体験と解説を交えて学ぶ体験教室。参加者は学芸員から博物館における拓本の活用方法について説明を聞き、指導のもと当館資料(土器片・銭)の拓本を実際にとり、台紙に貼って記念品として持ち帰った。体験では乾拓・湿拓両方の技法を体験した。会場を学芸部の作業スペース内に設け、参加者と学芸員が一つの作業机を囲んで作業しながら解説することで、拓本の体験をとおして学芸員という存在を知ってもらうことも目指した。

(b) 「まが玉をつくろう」

日時：3月25日(土) ①10:00~12:00 ②14:00~16:00

会場：宇徳ビル

受講料：無料。ただし材料費として実費負担370円、材料セットは当日ショップにて販売。

対象：小学生~高校生(小学2年生以下は保護者の付き添いが必要)

定員：各回16名

参加者：①応募者 13名 参加者 11名

②応募者 13名 参加者 11名

講師：学芸員 千葉毅

担当：非常勤学芸員 泉山花江

概要：古代のアクセサリーであるまが玉についての講義と製作をとおして、古代の人々の暮らしや技術について考えてみるきっかけとする体験教室。参加者にはブルーシートを敷いた床に直に座ってもらって作業をすることで、まが玉そのものだけでなく、それを作った人々の生活について考えることを促した。

⑦【建物見学会】 テーマにそって、博物館近隣の建物をめぐる。

(7) 「『石』から見た横浜の近代化遺産」

日 時：10月20日(木) 13:30～15:45

講 師：主任学芸員 丹治 雄一

定 員：25名

応募者：62名、参加者：23名

概 要： 横浜にある多くの近代の洋風建築や土木施設の多くに使用されている、茨城県や本県などから産出される花崗岩や安山岩などの「石」の種類や産地に着目し、近代の洋風建築や土木施設の特徴を明らかにしつつ、当館周辺の近代化遺産をめぐった。

行 程：①旧横浜船渠株式会社第二号船渠（ドッグヤードガーデン、1896年竣工）

②新港埠頭石積岸壁（1911年竣工）

③横浜郵船ビル（日本郵船歴史博物館、1936年竣工）

④旧横浜正金銀行本店本館（神奈川県立歴史博物館、1904年竣工）

⑤旧安田銀行横浜支店（東京芸術大学大学院、1929年竣工）、旧川崎銀行横浜支店 旧建物（損保ジャパン日本興亜馬車道ビル、旧建物1922年竣工）

⑥旧三井銀行横浜支店（三井住友銀行横浜支店、1931年竣工）

⑦旧開港記念横浜会館（横浜市開港記念会館、1917年竣工）

⑧旧横浜商工奨励館（横浜情報文化センター、1929年竣工）

⑨神奈川県庁舎（神奈川県庁本庁舎、1928年竣工）

担 当：非常勤学芸員 田辺 可奈

(イ)「妻木頼黄ゆかりの建造物をめぐる」

日 時：3月18日(土) 13:30～15:45

講 師：主任学芸員 丹治 雄一

定 員：25名

応募者：94名、参加者：26名

概 要： 妻木頼黄の設計で1904(明治37)年に横浜正金銀行本店として竣工し、国指定重要文化財の当館建物旧館部と、その周辺に現存する妻木頼黄ゆかりの建造物をめぐり「明治建築界の巨頭」と称される妻木の作品に触れる。

行 程：横浜赤レンガ倉庫、県立歴史博物館(外観)、掃部山公園 井伊直弼像台座 ほか

担 当：非常勤学芸員 濱本 明海

⑧【博物館入門講座】（定員30名、応募者48名）

- ・普段見ることのできない博物館の様々な活動や学芸員の仕事についての紹介と当館の展示について学ぶ。当講座の受講が当館ボランティア応募の条件となる。

1日目：2月2日(木) 9:50～12:30 (受講者32名)

概要等：「当館の概要、博物館の機能と学芸員の仕事」

講師：企画普及課長 永井 晋

講 義：「学芸員の目」(1) 『考古学資料をみる』

講師：学芸員 千葉 毅

ワークショップ：「学芸員の目を学ぶ」(資料の見方)

講師：学芸員 千葉 毅

2日目：2月16日(木) 9:50～12:30 (受講者29名)

講 義：「学芸員の目」(2) 『仏像と文化財写真』

講師：学芸員 神野 祐太

ワークショップ：「学芸員の技」『文化財写真を撮る』

講師：非常勤写真職 岸山 浩之

『文化財写真の保存と活用』

講師：非常勤資料整理員 檜皮 千穂

担 当：非常勤学芸員 田辺 可奈

イ 子ども・青少年向け教育普及事業

(ア) ミュージアムクイズ「学んで楽しむ博物館！」(自由参加)

内 容：常設展展示資料から出題したクイズシートを配布。参加者には参加証明書を配布。

開催日：4～5月の開館日（「けんぱくウォッチ！」実施期間を除く）。のべ49日間。

参加者：39名

担 当：非常勤学芸員 泉山 花江

(イ) けんぱくウォッチ！（自由参加）

内 容：子どもの日にちなんだ行事。資料に関するワークシートを解きながら常設展示室を回る。  
参加者には景品あり。

開催日及び参加者計：724名 【内訳】

5月3日（火・祝）、231名

5月4日（水・祝）、270名

5月5日（木・祝）、223名

担 当：非常勤学芸員 濱本 明海

(ウ) ミュージアム・ミッション

内 容：夏休み期間に、近隣の博物館施設と連携して開催する子ども向け事業。当館主催で参加館との連絡会を作り実施。参加者は各博物館が定めるワークシート等の課題を達成しながら、博物館を巡るスタンプラリーを行う。この課題達成を通じて、改めて各館の特徴と存在を参加者に認識してもらうことを目指す。全館を回りきると賞品あり。平成27年度まで実施していた「ミュージアム・クイズラリーよこはま」に代わる地域連携事業。

開催期間：7月16日（土）～8月31日（水）

参加館園：（6館）大佛次郎記念館、神奈川近代文学館、JICA 横浜海外移住資料館、  
横浜税関資料展示室、日本新聞博物館、当館

協力館園：横浜市立野毛山動物園

対 象：子ども（小学生～中学生）ただし、未就学児や大人でも希望者は参加可能。

参 加 者：全体1,297名（自由参加）

関連行事：①ミュージアムの内部を探れ！館内ツアー

ミュージアム・ミッション参加者専用、共催施設の館内見学ツアー。当日からミッションを始めても参加可能。

・神奈川近代文学館 館内ツアー（当日先着制）

日 時：8月3日（水）10:30～

参加者：5名

・JICA 横浜 館内ツアー

日 時：8月23日（火）13:30～（当日先着制）

参加者：8名

②全館賞達成者専用バックヤードツアー

全館賞を達成した参加者のみ応募できる、動物園のバックヤード見学ツアー。

・野毛山動物園バックヤードツアー

日 時：9月17日（土）午前11:00～12:00／午後14:00～16:00

応募者：午前27組88名／午後28組82名

受講者：午前6組16名／午後5組16名

担 当：非常勤学芸員 泉山 花江

ウ 学校支援事業

(ア) 展示見学学習等、小中高等学校及び特別支援学校の当館利用状況

	県 内									
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		県内合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	校数	校数	人数	校数	人数
4月	2	218	1	47	4	329	0	0	7	594
5月	0	0	17	628	3	210	0	0	20	838
6月										
7月										
8月										
9月										
10月										
11月										
12月										
1月										
2月										
3月										
合計	2	218	18	675	7	539	0	0	27	1,432

	県 外									
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		県外合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	0	0	21	245	16	492	0	0	37	737
5月	4	121	41	472	21	1,265	2	14	68	1,872
6月										
7月										
8月										
9月										
10月										
11月										
12月										
1月										
2月										
3月										
合計	4	121	62	717	37	1,757	2	14	105	2,609

	平成28年度総計		平成27年度総計		平成26年度総計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月	44	1,331	34	994	28	1,186
5月	88	2,710	96	2,875	96	2,693
6月			40	1,120	32	1,110
7月			26	416	16	519
8月			5	23	9	139
9月			16	375	21	747
10月			35	1,882	18	534
11月			35	2,019	44	2,284
12月			13	783	11	316
1月			29	1,333	15	580
2月			34	1,448	34	1,198
3月			26	431	20	453
合計	132	4,041	389	13,649	344	1,1819

## (イ) 当館の利用目的

(単位：校数)

	利用目的	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
県内	社会科(歴史学習)	1(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(100%)
	総合的な学習の時間	1(25%)	2(50%)	1(25%)	0(0%)	4(100%)
	学校行事(遠足、社会見学等)	0(0%)	4(57%)	3(43%)	0(0%)	7(100%)
県外	社会科(歴史学習)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
	総合的な学習の時間	0(0%)	2(50%)	2(50%)	0(0%)	4(100%)
	学校行事(遠足、社会見学等)	4(18%)	6(27%)	10(46%)	2(9%)	22(100%)

※事前連絡校 38 校による統計

## (ウ) 学校の博物館利用の状況

(単位：校数)

校種	事前準備				歴博活用			利用形態			付帯施設利用			利用目的		
	来館校数	下見来館	電話打合	資料提供	課題持参	ボラ活用	特別依頼	全員一斉	グループ	個人	駐車場	講堂	会議室	歴史学習	総合学習	社会見学
小学校	6	3	3	6	6	6	0	6	0	0	3	3	1	1	1	4
中学校	14	6	8	6	11	5	3	0	14	0	1	1	1	0	4	10
高等学校	16	7	9	9	13	1	0	3	13	0	1	0	0	0	3	13
特別支援学校	2	2	0	2	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2
合計	38	18	20	23	31	13	3	10	28	0	6	4	2	1	8	29

※事前連絡校 38 校による統計

※課題持参＝学校がワークシートなどを用意して見学。質問などにボランティアが対応。

※ボラ活用＝ボランティアによる展示解説や質問への対応要請が事前にあったもの。

※特別依頼＝学芸員による館の概要説明や建物の解説など。

※付帯施設利用＝展示室等の一般利用施設以外に、駐車場(バス等)や講堂等の利用があったもの。

## (エ) 見学学習(社会科の歴史学習、総合的な学習の時間等)への対応状況

## a 見学に際し当館の概要などを説明

小学校 6 校、中学校 5 校、高等学校 2 校

## b 見学に際し、学習を支援していくためのワークシート(素材)を提供

小学校 6 校、中学校 6 校、高等学校 9 校、特別支援学校 2 校

## c 解説ボランティアが展示資料を解説

小学校 6 校、中学校 5 校、高等学校 1 校、特別支援学校 1 校

## (オ) 社会科の歴史学習、総合的な学習の時間(調べ学習)への対応状況

上記(エ)の見学学習において、特定テーマの解説などの求めに対応したもの。

(単位：校数)

依頼テーマ	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
テーマ1 さがみの古代に生きた人びと	2	0	0	0
テーマ2 都市鎌倉と中世びと	0	1	0	0
テーマ3 近世の街道と庶民文化	0	0	1	1
テーマ4 横浜開港と近代化	5	5	1	1
テーマ5 現代の神奈川と伝統文化	0	1	0	0
特別展示・その他 (含む専門解説)	0	2	0	0

- (カ) インターンシップ(就業体験・職場訪問等)への対応状況  
 目的： インターンシップは、生徒が在学中に、「勤労体験」「職業体験」を通じて、自主的に望ましい勤労観、職業観及び職業に関する知識や技術に触れ、自己の個性を理解して、進路選択ができる能力及び態度を身につけることを目的とする。  
 当館のインターンシップは、高校生を対象に、複数日にわたり、博物館という職場の役割や学芸員の仕事について紹介し、また、実際に資料を扱うことで、博物館の仕事をより具体的に知ることを目的とする就業体験的なものと、中学生・高校生を対象に「博物館の役割・仕事」「博物館で働く人」というテーマで座学と見学を中心とした職場訪問を実施している。
- a 高校生のインターンシップ  
 就業体験的なもの(複数日にわたり博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明、施設の見学、就業体験等を実施)  
 ○ 相模女子大学高等学校、鶴見大学附属高等学校、西湘高等学校 合計3校4名  
 ・日時：7月27日(水)～29日(金) 8:30～14:30  
 ・内容：7月27日(水)：ガイダンス、館内見学、企画普及業務補助(情報掲載物の整理作業)  
 28日(木)：図書整理業務補助 企画普及業務補助(アンケート集計作業)  
 29日(金)：古代・近世(収蔵資料整理業務)  
 企画普及業務補助(利用促進に関わる発送作業)、3日間の振り返り
- b 中学生・高校生の職場訪問  
 博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明を行い、施設見学を実施。  
 ○ 5月17日(火) 横須賀市立浦賀中学校 2年 20名  
 ○ 5月27日(金) 平塚市立中原中学校 1年 12名
- (キ) 『歴史博物館の展示(常設)目録ー学習指導要領・教科書との対照表ー』の更新  
 学校連携検討会議等での検討を受けて作成した『歴史博物館の展示(常設)目録ー学習指導要領・教科書との対照表ー』(当館の常設展示資料と学習指導要領、教科書の主な単元項目が対照でき、さらに学芸員が適宜見学のポイントを記したもの)について、平成17年度で小・中・高等学校の3種類の校種別目録が揃った。また、平成23年度からの小学校を初めとして中学校、高等学校と順次行われてきた新学習指導要領の全面実施を受けて、随時改訂作業を進めている。さらに、平成24年度は、県立高等学校等で実施された日本史必修化の教科書である「郷土史かながわ」との対照表を作成し、全県立高等学校・特別支援学校へ配付した。平成26、27年度は、歴史博物館の展示(常設)目録の更新に合わせ見直しを図り、この資料を活用した学校独自のワークシート作りを推奨してきた。平成28年度は休館中のため更新はなく、再開館時に向けて『歴史博物館の展示(常設)目録ー学習指導要領・教科書との対照表ー』の見直しを図っている。
- (ク) 『常設展示品キャプション集』の更新  
 学校連携検討会議等での検討を受けて作成した『常設展示品キャプション集』について、展示替えなどによる情報の更新を適宜行った。平成26年度に、特に頻繁に展示替えのあるコーナーをキャプション集の外枠に出すなどキャプション集の見直しを図り、より早く展示替えしたことをホームページ上で確認できるようにした。平成27年度は継続し実施してきた。平成28年度は再開館に向けて、新規常設展示品キャプション集の見直しを図っている。
- (ケ) ワークシートの作成と活用  
 学校の見学学習の資料として作成した『ワークシート』を先生方に提供。博物館作成の『ワークシート』の活用と共に、先生方の博物館利用のねらいや児童・生徒の実態に即した独自の『ワークシート』作成の参考としての活用をお願いしている。
- (コ) 教員向け研修会の実施  
 「教員のための博物館講座」の開催  
 日 時：8月5日(金) 10:00～16:00

受講者：31名

概要：「教科書だけでは学べない神奈川の歴史～幕末開港期の舞台・関内と山手を歩く～」

① 講義：資料を読み解く（資料を情報の集合体にとらえ、資料に含まれるさまざまな情報を読み解く）

② 資料を活用したフィールドワーク：資料に描かれた地点を読み解き、幕末・明治期に作成された絵地図を使い、班別で現地見学。

講師：主任学芸員 嶋村 元宏

担当：非常勤教育普及員 有村 泰治

(※) 出張講座

空調設備等改修工事のため、平成28年6月から平成30年4月まで休館することになり、その間の学校連携の一環として、当館学芸員が講師となり要望のあった小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に出張して講義をした。

月/日(曜日) 学校名	講座名 概要	講師	対象学年 単位 授業時限 受講者数
10/3(月) 鎌倉市立 腰越小学校	<b>絵図で見る江戸時代</b> パワーポイントで当館所蔵の日本図・関東図・武蔵国相模国絵図などを見ながら、江戸時代の特徴について話をした。江戸時代の腰越村周辺の絵図や江ノ島の浮世絵を見て地域の歴史を考えた。	非常勤学芸員 根本 佐智子	6年 2クラス 2時限 62名
10/3(月) 厚木市立 依知南小学校	<b>室町絵画の魅力</b> 室町時代の山水や花鳥の絵に、室町文化のすがたを探る。何がどのように描かれているのか。誰が描き、どういった人々が鑑賞したのか。ともに考えながら、室町文化への理解を深めた。	学芸員 橋本 遼太	6年 3クラス 3時限 90名
10/3(月) 相模原市立 中央林間小学 校	<b>幕末・明治のクールジャパン</b> 安政6(1859)年の開港後に来日した欧米人が興味を示した、錦絵、横浜写真アルバム、陶磁器、漆器や金工品など日本ならではの製品を画像で紹介し、19世紀における欧米人の日本文化に対する認識について考えた。なお、美術的な内容は含めなかった。	主任学芸員 嶋村 元宏	6学年 3クラス 3時限 101名
10/3(月) 川崎市立 荻宿小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 1964年に開催された東京オリンピックについて、県内で開催された4つの競技や、聖火リレーの様子を紹介した。あわせてオリンピックを通じて高度成長期の神奈川県、特に小学校周辺の変化を解説した。	非常勤学芸員 武田 周一郎	6学年 2クラス 2時限 74名
10/3(月) 相模原市立 小山小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 今から半世紀前の1964年にも東京オリンピックが開催され、神奈川県内でも4つの競技がおこなわれた。聖火リレーにも多くの小中高生が参加した、昔のオリンピックのエピソードを紹介した。	学芸部長 寺寄 弘康	6学年 学年 1時限 86名
10/4(火) 相模原市立 青葉小学校	<b>ペリーの顔・貌・カオ</b> 日本を開国させるべく来日を果たしたペリーについては、様々な形相で描かれた肖像画が数多く遺されている。パワーポイントで、それらの肖像画を示し、比較し、関係性に注目することで、当時の人々がペリーをどのような人物として把握していたかを、児童・生徒ともに考えた。	主任学芸員 嶋村 元宏	6学年 3クラス 3時限 70名
10/4(火) 川崎市立 戸手小学校	<b>「むかし」から「いま」へ 横浜開港で変わったこと</b> 幕末から明治にかけての文化の変容を、トピックとして取り上げながら、「文化」とは何か、「歴史」を学ぶとは何かについて考えることをねらいとした。特にこの授業では、地域性を重視し、矢向駅前の写真を見ながら、近代からこれまでに日本に導入された文化について考えるワークショップをおこなった。	主任学芸員 角田 拓朗	6学年 2クラス単位 で2クラス 2時限 158名

10/4(火) 藤沢市立 長後中学校	<b>鎌倉の仏像案内</b> 鎌倉市内のおすすめの仏像とそれをめぐるコースを紹介した。鎌倉には奈良や京都と同じように仏像がたくさん伝えられており、仏像の見方から歴史的背景まで言及することで、より深く鎌倉を知ってもらった。	学芸員 神野 祐太	2 学年 学年 1 時限 120 名
10/5(水) 川崎市立 下沼部小学校	<b>横浜はじめて物語</b> 1859 年 7 月、神奈川（横浜）が開港すると貿易を目的とした欧米商人が横浜に居留し始めた。彼らの生活習慣は、日本の文化にも多大なる影響を与え、日本で初めての事物も多く生まれた。いち早く異文化交流の舞台となった横浜ならではの歴史を、「はじめて」をキーワードに、パワーポイントで紹介した。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 2 クラス 2 時限 123 名
10/5(水) 南足柄市立 向田小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 今から半世紀前の 1964 年にも東京オリンピックが開催され、神奈川県内でも 4 つの競技がおこなわれた。聖火リレーにも多くの小中高生が参加した、昔のオリンピックのエピソードを紹介した。	学芸部長 寺寄 弘康	6 学年 学年 1 時限 61 名
10/6(木) 川崎市立 川崎小学校	<b>室町絵画の魅力</b> 室町時代の山水や花鳥の絵に、室町文化のすがたを探る。何がどのように描かれているのか。誰が描き、どういった人々が鑑賞したのか。ともに考えながら、室町文化への理解を深めた。	学芸員 橋本 遼太	6 学年 3 クラス 3 時限 110 名
10/6(木) 川崎市立 宮内小学校	<b>ペリーからの贈り物</b> パワーポイントを使用し、ペリーが将軍をはじめ幕府高官へ贈った蒸気車模型や電信機などを手がかりに、西洋で発明された製品がその後の日本に与えた影響を考えた。ペリーは、軍事力というハードパワーだけでなく、文化力というソフトパワーを使い、通商条約の締結を目指して交渉したことに注目した。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 4 クラス 2 時限 154 名
10/7(金) 横浜清風 高等学校	<b>仏像になってみよう</b> 仏像が身にまとう服を模した布を用いて、実際に仏像のように着た。服制に注目することで一歩進んだ仏像の見方を伝えた。	学芸員 神野 祐太	全学年 学年 1 時限 3 名
10/11(火) 横浜翠陵 中学校	<b>鎌倉の歴史</b> 神奈川県にある鎌倉は、武家政権が発祥した場所である。関東にできたこの政権がどのような特徴を持っていたのか、教科書にも取り上げられているような資料(画像等)を使いながらわかりやすく説明した。	主任学芸員 古川 元也	2 学年 学年 1 時限 36 名
10/12(水) 海老名市立 有鹿小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 今から半世紀前の 1964 年にも東京オリンピックが開催され、神奈川県内でも 4 つの競技がおこなわれた。聖火リレーにも多くの小中高生が参加した、昔のオリンピックのエピソードを紹介した。	学芸部長 寺寄 弘康	6 学年 3 クラス 3 時限 94 名
10/13(木) 南足柄市立 福沢小学校	<b>ペリーの顔・貌・カオ</b> 日本を開国させるべく来日を果たしたペリーについては、様々な形相で描かれた肖像画が数多く遺されている。パワーポイントで、それらの肖像画を示し、比較し、関係性に注目することで、当時の人々がペリーをどのような人物として把握していたかを、児童・生徒ともに考えた。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 2 クラス 2 時限 82 名
10/14(金) 松陰高等学校	<b>関東大震災と地域</b> 1923(大正 12)年 9 月 1 日の関東大震災は明治以降最大の被害を生じた大災害で、神奈川県の方が東京に比べて罹災率が高かった。県央、県西、三浦など地域ごとの震災の被害と復興を語った。	学芸部長 寺寄 弘康	全学年 学年 1 時限 26 名
10/14(金) 鎌倉市立 大船小学校	<b>蒙古襲来</b> 鎌倉時代中期、日本はモンゴル帝国(元王朝)となぜ戦争に発展したのかを、13 世紀東アジアの政治情勢と、日本・中国・モンゴルの文化の違いから授業した。	企画普及課長 永井 晋	6 学年 2 クラス 2 時限 64 名

10/14(金) 武山養護学校 中学部	<b>鎌倉大仏のひみつ</b> 鎌倉大仏に関する講座。県内で最も有名な仏像にも、たくさんひみつがある。いつ、誰が、どうやって造ったのかといったような基本的なところから、手の組み方、足の組み方、服の着方など、形のうえで注目すべき点も紹介し、大仏の魅力を伝えた。	学芸員 神野 祐太	2 学年 学年 1 時限 14 名
10/17(月) 横浜市立 能見台小学校	<b>考古学の魅力</b> 先史時代を中心とする考古学の魅力を、主に神奈川県内や身近な事例を交えて紹介し、「考古学の魅力」について伝えた。	学芸員 千葉 毅	6 学年 1 クラス 3 時限 27 名
10/17(月) 横浜市立 富岡小学校	<b>ペリーの顔・貌・カオ</b> 日本を開国させるべく来日を果たしたペリーについては、様々な形相で描かれた肖像画が数多く遺されている。パワーポイントで、それらの肖像画を示し、比較し、関係性に注目することで、当時の人々がペリーをどのような人物として把握していたかを、児童・生徒とともに考えた。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 3 クラス 3 時限 85 名
10/18(火) 小田原市立 下中小学校	<b>絵図で見る江戸時代</b> パワーポイントで当館所蔵の日本図・関東図・武蔵国相模国絵図などを見ながら、江戸時代の特徴について話をした。地域を支配した北条氏の資料や小船村絵図を見ながら地域の歴史を考えた。	非常勤学芸員 根本 佐智子	6 学年 学年 1 時限 68 名
10/18(火) 横須賀市立 根岸小学校	<b>横須賀・浦賀の歴史と文化財</b> 根岸小学校の近くにあった大津陣屋（海防陣屋）の構造や周辺にあった台場、浦賀陣屋の防備の状況について解説し、幕末期の東京湾で繰り広げられた日本とアメリカの交渉を授業した。	企画普及課長 永井 晋	6 学年 3 クラス 3 時限 81 名
10/18(火) 藤沢市立 小糸小学校	<b>神奈川開港と異文化交流</b> 1859 年、国際貿易港のひとつとして神奈川（横浜）が開港した。開港により、国内の政治・経済は混乱したが、開港場は異文化交流の場の役割を果たし、発展した。神奈川開港までの過程や開港の影響、同時代の世界の状況と比較や関係性に注目しつつ、開港の意義について、児童・生徒とともに考えた。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 2 クラス 2 時限 50 名
10/18(火) 横須賀市立 夏島小学校	<b>「むかし」から「いま」へ 横浜開港で変わったこと</b> 幕末から明治にかけての文化の変容を、トピックとして取り上げながら、「文化」とは何か、「歴史」を学ぶとは何かについて考えることをねらいとした。特にこの授業では、地域性を重視し、横須賀、追浜の工場関係から町の成り立ち等について触れた。	主任学芸員 角田 拓朗	6 学年 学年 1 時限 60 名
10/21(金) 川崎市立 東小田小学校	<b>ペリーの顔・貌・カオ</b> 日本を開国させるべく来日を果たしたペリーについては、様々な形相で描かれた肖像画が数多く遺されている。パワーポイントで、それらの肖像画を示し、比較する関係性に注目することで、当時の人々がペリーをどのような人物として把握していたかを、児童・生徒とともに考えた。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 学年 2 時限 51 名
10/21(金) 横浜市立 綱島東小学校	<b>博物館・学芸員の仕事</b> 学芸員の仕事について、展覧会の企画やお客相手資料の解説、資料の保存などがあることを紹介し、浮世絵の歴史を学んで学芸員となったこと、浮世絵の面白さをパワーポイントと複製版の浮世絵を見せながら説明した。	主任学芸員 桑山 童奈	6 学年 3 クラス 3 時限 110 名
10/21(金) 川崎市立 中原小学校	<b>世界遺産と日本遺産</b> 武家の古都・鎌倉は、世界遺産への登録を逃してしまったが、日本遺産にはどのような違いがあるのか、神奈川県の鎌倉を事例に画像やパネルを用いてわかりやすく解説した。	主任学芸員 古川 元也	6 学年 学年 2 時限 70 名

10/21(金) フェリス女学 院 中学校	<b>蒙古襲来</b> モンゴル帝国の統治のしくみと遊牧民の文化についてはじめに説明し、日本とモンゴルの文化の違いについて説明し、蒙古襲来にいたる外交の掛け違いを授業していった。	企画普及課長 永井 晋	2 学年 4 クラス 3 時限 138 名
10/22(土) 川崎市立 中原中学校	<b>仏像になってみよう！</b> 仏像が身にまとう服を模した布を用いて、実際に仏像のように着た。服制に注目することで一歩進んだ仏像の見方を伝えた。	学芸員 神野 祐太	全学年 希望者 2 時限 34 名
10/24(月) 横浜市立 帷子小学校	<b>「むかし」から「いま」へ 横浜開港で変わったこと</b> 幕末から明治にかけての文化の変容を、トピックとして取り上げながら、「文化」とは何か、「歴史」を学ぶとは何かについて考えることをねらいとした。特にこの授業では、地域性を重視し、星川駅前の写真を見ながら、近代からこれまでに日本に導入された文化について考えるワークショップをおこなった。	主任学芸員 角田 拓朗	6 学年 学年 1 時限 58 名
10/24(月) 厚木市立 衣知小学校	<b>戦国大名北条氏について</b> 小田原城を本拠とし、関東の大部分を支配した戦国大名北条氏が、わが国有数の大名に成長する背景には、数々の先進的政策実施があった。それらを紹介するとともに「戦国時代」「戦国大名」についてもその特徴を説明した。	専門員 鳥居 和郎	6 学年 学年 2 時限 55 名
10/25(火) 湯河原町立 吉浜小学校	<b>博物館はどこどころ？学芸員ってどんな仕事？</b> 博物館という施設とそこで資料に関わるさまざまな仕事をしている学芸員について、自身の体験に基づきわかりやすく解説した。	主任学芸員 丹治 雄一	6 学年 2 クラス 1 時限 86 名
10/25(火) 横浜市立 青葉台小学校	<b>開国</b> 17 世紀以降ヨーロッパで相次いで起こった市民革命や工業化を経て、ヨーロッパ諸国がアジアへ進出を強める国際情勢の流れを踏まえ「世界史」のなかで開国の意義を児童・生徒とともに考えた。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 2 クラス 2 時限 78 名
10/25(火) 高津養護学校 生田東分教室 高等部	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 今から半世紀前の 1964 年にも東京オリンピックが開催され、神奈川県内でも 4 つの競技がおこなわれた。聖火リレーにも多くの小中高生が参加した、昔のオリンピックのエピソードを紹介した。	学芸部長 寺寄 弘康	全学年 学年 1 時限 40 名
10/25(火) 山北町立 山北中学校	<b>足柄上郡山北の歴史</b> 当館には山北中学校からお預かりしている中世の壺がある。この他にも兜や絵巻物など山北にはたくさんの作品が伝わっている。どのようにしてそれらの作品が伝わったのか画像を見ながら話した。	主任学芸員 古川 元也	1 学年 学年 1 時限 80 名
10/26(水) 横浜市立 東汲沢小学校	<b>横浜はじめて物語</b> 1859 年 7 月、神奈川(横浜)が開港すると貿易を目的とした欧米商人が横浜に居留し始めた。彼らの生活習慣は、日本の文化にも多大なる影響を与え、日本で初めての事物も多く生まれた。いち早く異文化交流の舞台となった横浜ならではの歴史を「はじめて」をキーワードに、パワーポイントで紹介した。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 2 クラス 2 時限 78 名
10/26(水) 高津養護学校 高等部	<b>季節の行事を調べよう</b> 授業の前半では、季節ごとに地域で行われている年中行事について調べた。授業の後半では、足柄上郡山北町で小正月につくられるカドニュードウを紹介し、それを厚紙で制作した。	学芸員 新井 裕美	全学年 学年 1 時限 27 名

10/26(水) 横浜市立 平戸台小学校	<b>バーチャル「東海道」—パソコンで江戸時代の東海道をたどる—</b> 元禄年間に刊行された東海道絵図『東海道分間絵図』をPC画面上に再現し、江戸時代東海道の旅を体験するプログラム。前半では東海道と当時の旅の様子を概略説明、後半は児童生徒一人一人がPCを操作して絵図上を自由に行き来し、楽しみながら東海道と旅の様子を学んだ。	専門員 古宮 雅明	6 学年 2 クラス 2 時限 45 名
10/27(木) 相模原市立 弥栄中学校	<b>博物館・学芸員の仕事</b> 職業教育の授業で、ほかにもいろいろな業種の方々が講師となっていた。学芸員の仕事について、展覧会の企画やお客相手への資料解説、資料の保存などがあることを紹介し、浮世絵の歴史を学んで学芸員となったこと、浮世絵の面白さをパワーポイントと複製版の浮世絵を見せながら説明した。	主任学芸員 桑山 童奈	1 学年 希望者 2 時限 38 名
10/27(木) 鎌倉市立 深沢小学校	<b>考古学の魅力</b> 先史時代を中心とする考古学の魅力を、主に神奈川県内や身近な事例を交えて紹介し、「考古学の魅力」について伝えた。	学芸員 千葉 毅	6 学年 4 クラス 4 時限 151 名
10/27(木) 川崎市立 西野川小学校	<b>幕末・明治のクールジャパン</b> 安政6(1859)年の開港後に来日した欧米人が興味を示した、錦絵、横浜写真アルバム、陶磁器、漆器や金工品など日本ならではの製品を画像で紹介し、19世紀における欧米人の日本文化に対する認識について考えた。なお、美術的な内容は含めなかった。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 3 クラス 3 時限 77 名
10/28(金) 横浜市立 六つ川小学校	<b>欧米人の見た幕末・明治の日本</b> 開港後、日本を訪れた外国人にとって、日本人の風俗や習慣は興味深いものでした。多くの外国人が、見聞記を記しています。それらの記録をひもとき、「礼儀正しさ」、「勤勉性」、「簡素と豊かさ」などをテーマに、日本人の特性について、児童・生徒ともに考えた。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 学年 2 時限 42 名
10/31(月) 横浜市立義務 教育学校 霧が 丘学園小学部	<b>鎌倉の歴史</b> 神奈川県にある鎌倉は、武家政権が発祥した場所である。関東にできたこの政権がどのような特徴を持っていたのか、教科書にも取り上げられているような資料(画像等)を使いながらわかりやすく説明した。	主任学芸員 古川 元也	6 学年 3 クラス 3 時限 108 名
11/1(火) 横須賀学院高 等学校	<b>博物館・学芸員の仕事</b> 博物館という施設とそこで資料に関わるさまざまな仕事をしている学芸員について、自身の体験に基づきわかりやすく解説した。	主任学芸員 丹治 雄一	全学年 希望者 1 時限 14 名
11/1(火) 川崎市立 東高津小学校	<b>「むかし」から「いま」へ 横浜開港で変わったこと</b> 幕末から明治にかけての文化の変容を、トピックとして取り上げながら、「文化」とは何か、「歴史」を学ぶとは何かについて考えることをねらいとした。特にこの授業では、地域性を重視し、川崎駅前の写真を見ながら、近代からこれまでに日本に導入された文化について考えるワークショップをおこなった。	主任学芸員 角田 拓朗	6 学年 3 クラス 3 時限 160 名
11/2(水) 横浜市立 戸塚高等学校	<b>戦国大名北条氏について</b> 小田原城を本拠とし、関東の大部分を支配した北条氏が、わが国有数の大名に成長する背景には、数々の先進的政策実施があった。それらを紹介するとともに「戦国時代」「戦国大名」についてもその特徴を説明した。	専門員 鳥居 和郎	3 学年 その他 1 時限 34 名
11/4(金) 茅ヶ崎市立 茅ヶ崎小学校	<b>バーチャル「東海道」—パソコンで江戸時代の東海道をたどる—</b> 元禄年間に刊行された東海道絵図『東海道分間絵図』をパソコン画面上に再現し、パソコン上で江戸時代東海道の旅を体験するプログラム。前半では東海道と当時の旅の様子を概略説明、後半は児童生徒一人一人がパソコンを操作して絵図上を自由に行き来し、楽しみながら東海道と旅の様子を学んだ。	専門員 古宮 雅明	6 学年 4 クラス 2 時限 123 名

11/9(水) 鎌倉市立 稲村ヶ崎 小学校	<b>鎌倉の歴史</b> 神奈川県にある鎌倉は、武家政権が発祥した場所である。関東にできたこの政権がどのような特徴を持っていたのか、教科書にも取り上げられているような資料(画像等)を使いながらわかりやすく説明した。	主任学芸員 古川 元也	6 学年 学年 2 時限 38 名
11/10(木) 横浜女学院中 学校	<b>博物館・学芸員の仕事</b> 博物館とそこで働く学芸員の仕事の概要について概説し、仕事の苦労ややりがい、魅力について紹介した。	学芸員 小井川 理	2 学年 学年 1 時限 113 名
11/11(金) 相模原市立 淵野辺東 小学校	<b>鎌倉大仏のひみつ</b> 鎌倉大仏に関する講座。県内で最も有名な仏像にも、たくさんのひみつがある。いつ、誰が、どうやって造ったのかといったような基本的なところから、手の組み方、足の組み方、服の着方など、形のうえで注目すべき点も紹介し、大仏の魅力を伝えた。	学芸員 神野 祐太	6 学年 2 クラス単位で 2 クラス 2 時限 140 名
11/14(月) 大和市立 下福田小学校	<b>鎌倉彫の歴史</b> 神奈川県伝統工芸として知られる鎌倉彫の歴史について、パワーポイントを使用して紹介した。	学芸員 小井川 理	6 学年 3 クラス 3 時限 82 名
11/15(火) 県立 柏陽高等学校	<b>鎌倉大仏のひみつ</b> 鎌倉大仏に関する講座。県内で最も有名な仏像にも、たくさんのひみつがある。いつ、誰が、どうやって造ったのかといったような基本的なところから、手の組み方、足の組み方、服の着方など、形のうえで注目すべき点も紹介し、大仏の魅力を伝えた。	学芸員 神野 祐太	2 学年 2 クラス 2 時限 66 名
11/16(水) 横須賀市立 津久井小学校	<b>欧米人の見た幕末・明治の日本</b> 開港後、日本を訪れた外国人にとって、日本人の風俗や習慣は興味深いものだ。多くの外国人が、見聞記を記している。それらの記録をひもとき、「礼儀正しさ」、「勤勉性」、「簡素と豊かさ」などをテーマに、日本人の特性について、児童・生徒ともに考えた。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 学年 2 時限 73 名
11/17(木) 藤沢市立 鵠沼小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 1964 年に開催された東京オリンピックについて、県内で開催された 4 つの競技や、聖火リレーの様子を紹介した。あわせてオリンピックを通じて高度成長期の神奈川県、特に小学校周辺の変化を解説した。	非常勤学芸員 武田 周一郎	6 学年 学年 1 時限 140 名
11/18(金) 藤沢市立 高谷小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 1964 年に開催された東京オリンピックについて、県内で開催された 4 つの競技や、聖火リレーの様子を紹介した。あわせてオリンピックを通じて高度成長期の神奈川県、特に小学校周辺の変化を解説した。	非常勤学芸員 武田 周一郎	6 学年 2 クラス 3 時限 92 名
11/21(月) 横浜市長 桜岡小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 今から半世紀前の 1964 年にも東京オリンピックが開催され、神奈川県内でも 4 つの競技がおこなわれた。聖火リレーにも多くの小中高生が参加した、昔のオリンピックのエピソードを紹介した。	学芸部長 寺寄 弘康	6 学年 2 クラス 1 時限 120 名
11/22(火) 相模原市立 並木小学校	<b>博物館・学芸員の仕事</b> 博物館やそこで働く学芸員の仕事について概説し、梱包資材を用いて「もの」を包む体験を通して、実際の仕事の一端を紹介した。	学芸員 小井川 理	6 学年 2 クラス 2 時限 51 名
11/24(木) 相模原市立 くぬぎ台 小学校	<b>絵図で見る江戸時代</b> パワーポイントで当館所蔵の日本図・関東図・武蔵国相模国絵図などを見ながら、江戸時代の特徴について話をした。相模原の開発に関する絵図や村絵図を見ながら地域の歴史を考えた。	非常勤学芸員 根本 佐智子	6 学年 2 クラス 2 時限 63 名

11/25(金) 横須賀市立 長浦小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 今から半世紀前の1964年にも東京オリンピックが開催され、神奈川県内でも4つの競技がおこなわれた。聖火リレーにも多くの小中高生が参加した、昔のオリンピックのエピソードを紹介した。	学芸部長 寺寄 弘康	6 学年 1 クラス 1 時限 38 名
11/26(土) 聖セシリア 女子中学校	<b>鎌倉大仏のひみつ</b> 鎌倉大仏に関する講座。県内で最も有名な仏像にも、たくさんのひみつがある。いつ、誰が、どうやって造ったのかといったような基本的なところから、手の組み方、足の組み方、服の着方など、形のうえで注目すべき点も紹介し、大仏の魅力を伝えた。	学芸員 神野 祐太	全学年 希望者  14 名
12/6(火) 横須賀市立 衣笠小学校	<b>バーチャル「東海道」ーパソコンで江戸時代の東海道をたどるー</b> 元禄年間に刊行された東海道絵図『東海道分間絵図』をパソコン画面上に再現し、パソコン上で江戸時代東海道の旅を追体験するプログラム。前半では東海道と当時の旅の様子を概略説明、後半は児童生徒一人一人がパソコンを操作して絵図上を自由に行き来し、楽しみながら東海道と旅の様子を学んだ。	専門員 古宮 雅明	6 学年 2 クラス 2 時限 66 名
12/8(木) 横浜女学院 高等学校	<b>「富士山宝永噴火による神奈川の被災と復興」</b> 約300年前に起こった富士山の宝永噴火による被災と復興の様子を学校が立地する地域に即して話した。教材として関係資料の写真パネルや当時の火山灰を使用した。	専門員 古宮 雅明	1 学年 学年 1 時限 179 名
12/16(金) 藤沢市立 大道小学校	<b>横浜はじめて物語</b> 1859年7月、神奈川(横浜)が開港すると貿易を目的とした欧米商人が横浜に居留し始めた。彼らの生活習慣は、日本の文化にも多大なる影響を与え、日本で初めての事物も多く生まれた。いち早く異文化交流の舞台となった横浜ならではの歴史を、「はじめて」をキーワードに、パワーポイントで紹介した。	主任学芸員 嶋村 元宏	6 学年 3 クラス 3 時限 92 名
12/16(金) 鎌倉市立 御成小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 1964年に開催された東京オリンピックについて、県内で開催された4つの競技や、聖火リレーの様子を紹介した。あわせてオリンピックを通じて高度成長期の神奈川県、特に小学校周辺の変化を解説した。	非常勤学芸員 武田 周一郎	6 学年 学年 1 時限 83 名
12/19(月) 横浜市立 丸山台小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 1964年に開催された東京オリンピックについて、県内で開催された4つの競技や、聖火リレーの様子を紹介した。あわせてオリンピックを通じて高度成長期の神奈川県、特に小学校周辺の変化を解説した。	非常勤学芸員 武田 周一郎	6 学年 1 クラス 2 時限 66 名
1/10(火) 横浜女学院 高等学校	<b>戦国大名北条氏について</b> 小田原城を本拠とし、関東の大部分を支配した戦国大名北条氏が、わが国有数の大名に成長する背景には、数々の先進的政策実施があった。それらを紹介するとともに「戦国時代」「戦国大名」についてもその特徴を説明した。	専門員 鳥居 和郎	2 学年 2 クラス 1 時限 61 名
1/13(金) 県立 平塚農業高等 学校	<b>文化とは？ いまとつながる「歴史」</b> マンガや風俗を題材としながら、文化とは何か、歴史を学ぶことの意義について、加えて博物館の機能や学芸員の仕事を簡単に解説した。専門的にモノを見る目の大切さ、面白さを説明するため、写真について、ポジフィルム、ガラス乾板の実資料を用いた。	主任学芸員 角田 拓朗	6 学年 1 クラス 1 時限 18 名
1/14(土) 聖セシリア 中学校	<b>絵図で見る江戸時代</b> パワーポイントで当館所蔵の日本図・関東図・武蔵国相模国絵図などを見ながら、江戸時代の特徴について話をした。学校近くを通る矢倉沢往還に関わる資料を見ながら地域の歴史を考えた。	非常勤学芸員 根本 佐智子	全学年 希望者 1 時限 6 名

1/17(火) 横須賀市立 野比東小学校	<b>室町絵画の魅力</b> 室町時代の山水や花鳥の絵に、室町文化のすがたを探る。何がどのように描かれているのか。誰が描き、どういった人々が鑑賞したのか。ともに考えながら、室町文化への理解を深めた。	学芸員 橋本 遼太	6 学年 1 クラス 2 時限 61 名
1/17(火) 藤沢市立 明治小学校	<b>東京オリンピックと神奈川</b> 1964 年に開催された東京オリンピックについて、県内で開催された 4 つの競技や、聖火リレーの様子を紹介した。あわせてオリンピックを通じて高度成長期の神奈川県、特に小学校周辺の変化を解説した。	非常勤学芸員 武田 周一郎	6 学年 1 クラス 3 時限 163 名
1/18(水) 海老名市立 門沢橋小学校	<b>鎌倉武士と合戦</b> はじめに、鎌倉武士とはどのような人々かを説明し、源平合戦と南北朝の内乱との間にある合戦に対する意識や作法の違いを説明し、武士が合戦で行う所作や戦いかたを授業した。	企画普及課長 永井 晋	6 学年 1 クラス 3 時限 88 名
1/19(木) 横浜市立 山下みどり台 小学校	<b>昔の道具を使ってみよう</b> 現在の生活と高度成長期以前の生活を比較した。家電製品が普及する以前に広く使用されていた衣食住の諸道具を紹介し、その使用方法や当時の人々の工夫や苦労などを考えた。	学芸員 新井 裕美	6 学年 1 クラス 2 時限 47 名
1/19(木) 県立 横浜平沼高等 学校	<b>《文化》の衝突</b> 異なる文化的背景を持った者たちが出会うことによって生じる摩擦や対立について、生麦事件を題材として検討した。これにより、対立や紛争のない平和的な世界をいかに創るかという問題を、児童・生徒とともに考えた。	主任学芸員 嶋村 元宏	2 学年 学年 1 時限 287 名
1/26(木) 寒川町立 寒川小学校	<b>昔の道具を調べよう</b> 現在の生活と高度成長期以前の生活を比較した。家電製品が普及する以前に広く使用されていた衣食住の諸道具を紹介し、その使用方法、当時の人々の工夫や苦労などを考えた。	学芸員 新井 裕美	6 学年 1 クラス 3 時限 83 名
2/17(金) 藤沢市立 駒寄小学校	<b>昔の道具を調べよう</b> 現在の生活と高度成長期以前の生活を比較した。家電製品が普及する以前に広く使用されていた衣食住の諸道具を紹介し、その使用方法、当時の人々の工夫や苦労などを考えた。	学芸員 新井 裕美	3 学年 学年 2 時限 79 名

## (5) ミュージアムコンサート

### ア 「浦賀ウインドオーケストラによる吹奏楽演奏会」

日 時：4 月 10 日(日) 14:00～15:00

内 容：浦賀ウインドオーケストラによる吹奏楽演奏会 全 6 曲

- ・ファンダンゴ (ホアン・カルロス・カルデロン作曲)
- ・「男はつらいよ」メインテーマ(山本直純 作曲)
- ・メインストリート・エレクトリカル・パレード(ディズニー)
- ・チャタヌガ・チュー・チュー(ハリー・ウォーレン作曲)
- ・春の猟犬(アルフレッド・リード作曲)
- ・「もののけ姫」メドレー(久石譲作曲)

演奏者：浦賀ウインドオーケストラ(35 名)

会 場：神奈川県立歴史博物館 講堂

応募者：73 名

参加者：71 名

### イ 「クラシック・ヨコハマ 2016 ミュージアムコンサート in 県立歴史博物館」

日 時：11 月 2 日(水) 12:00～12:45

内 容：「クラシック・ヨコハマ 2016」の一環として実施。横浜市民広間演奏会による金管楽器五

重奏を実施。

・セントルイスブルースマーチ、ザッツアプレンティアー ほか

演奏者：横浜市民広間演奏会

森崎 美穂（トランペット）

丸山 菜津紀（トランペット）

伊藤 優晶（ユーフォニアム）

高橋 信也（ホルン）

今川 英悟（チューバ）

会 場：神奈川県立歴史博物館 馬車道口玄関

観客数：100名超 ※椅子席を若干用意し、馬車道通りを往来する人々に足を止めてもらった。

担 当：非常勤学芸員 濱本 明海

## (6) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として、1階フリーゾーンにミュージアムライブラリーを設置している。図書、映像、情報システム(デジタルミュージアム)などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことが出来る。

閲覧用座席数：14席、映像ブース：3ヶ所7名分、来館者用情報システム端末：3台

※平成28年度は、改修工事のため4月から閉室し、一般の利用を休止していた。

## (7) 普及印刷物

ア 図録

・特別展図録「まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券」

平成28年4月22日発行

イ 広報印刷物

・「催し物のご案内（平成28年10月～平成29年3月）」

ウ 神奈川県立歴史博物館だより

『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.22 No.1 通巻202号 平成28年6月13日 (2,000部)

『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.22 No.2 通巻203号 平成28年12月5日 (2,000部)

『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.22 No.3 通巻204号 平成29年3月6日 (2,000部)

## (8) ボランティアの活動

平成9年度から登録を開始した博物館ボランティアは、平成28年度は6月から休館になることから新たな募集は行わなかった。平成28年4月4日現在の登録者は79名で、その内訳は展示解説ボランティアが71名、行事補助ボランティアが8名である。

平成14年度から活動期間を5年間としており、平成28年3月31日任期満了者は27名であった。

ア 活動状況及び実績

展示解説ボランティアは、常設展展示解説のほか、特別展開催中には1日2回の定時解説(11時、15時)を行っている。

行事補助ボランティアは、子ども向け行事の指導補助をはじめ、受付や案内など、学習支援事業の補助を行っている。

また、ボランティア会は、幹事会(各曜日ごとの班から2名選出)を組織し、月1回、館側の担当者と様々な調整や、情報の交換を行ない、さらに『ボランティアニュース』を年3回、編集・発行している。

なお、平成28年6月から平成30年4月まで約2年間の休館中は、在籍中ではあるが、展示解説及び行事ボランティアの活動は休止している。

(ア) 活動日数及び人数

月	活動日数(日)	活動人数(人)
4	26	257
5	26	285
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
1		
2		
3		
合計	52	542

(イ) 年代別・男女別人数等

年代	男	女	計
20	0	0	0
30	1	1	2
40	0	1	1
50	1	9	10
60	29	22	51
70	10	5	15
合計	41	38	79
平均年齢	60	60	60

(ウ) 曜日別ボランティア数(展示解説ボランティアのみ)

火曜班：13名、水曜班：12名、木曜班：10名、金曜班：13名、土曜班：12名、日曜班：11名

(エ) 行事補助ボランティア 8名

イ 専門研修

展示解説に必要な当館の常設展示に関する知識や、資料の保存、教育普及活動について、その内容を知ってもらうために実施しているが、平成28年度は新規ボランティアを募集しなかったため実施していない。

ウ その他の研修

(ア) 特別展研修

特別展の展示解説に資する研修として、解説に必要な図録や資料を配布するとともに、展示された資料について担当学芸員から解説の現地研修を行った。

(イ) フォローアップ研修

常設展示解説のフォローアップとして、個々のテーマで研修講座を実施した

実施日	テーマ
4月23日(土)～26日(火)	特別展「まぼろしの紙幣 横浜正金銀行券」横浜正金銀行貨幣紙幣コレクションの全貌
10月19日(水)・23日(日)	かながわの年中行事
12月16日(金)・17日(土)	江戸時代の神奈川県式で出版された絵図
2月1日(水)・23日(金)	戦国大名と印判状

(9) 博物館実習生の受け入れ

「神奈川県立歴史博物館 博物館実習生受け入れ要領」に基づき、見学実習と実務実習を受け入れた。

ア 見学実習：当館の概要について説明した後、展示室、バックヤード等の見学を行う。

○受入数 3大学 83名

	来館日	大学名	人数
1	平成28年5月7日	大正大学	11名
2	平成28年5月15日	学習院大学	50名
3	平成28年5月29日	東洋大学	22名
	合 計		83名

## イ 実務実習

例年前期3日間と後期4日間にわたって行っていたが、今年度は、休館前の時期に7日間の日程を組んで実施。博物館運営に関わる業務及び教育普及事業についてと、学芸部の資料の取り扱いや整理の方法などについて学ぶ7日間とした。

- ・応募数： 12大学17名
- ・受入数： 12大学12名
- ・実受入数： 12大学12名
- ・実受入大学名：立教大学・鶴見大学・神奈川大学・目白大学・青山学院大学・関東学院大学・成城大学・昭和女子大学・桜美林大学・首都大学東京・学習院大学・聖心女子大学

### 【講義内容】

- ① 5月17日(火) 講堂、10:00～17:00 (担当：企画情報部)
  - ・ガイダンス
  - ・当館の概要について(施設の概要、当館の活動について)
  - ・館内見学(バックヤード、収蔵庫周辺、設備・防災、防犯関係、屋上ドームなど)
  - ・教育普及活動の概要(当館の教育普及事業、学校連携事業、子ども向け事業)
  - ・学校連携事業
  - ・教育普及活動の実践①(全体説明)
  - ・館内見学(常設展示室・特別展示室)
- ② 5月18日(水) 会議室、10:00～17:00 (担当：企画情報部)
  - ・博物館情報システムについて
  - ・博物館と図書資料について
  - ・書庫見学
  - ・教育普及活動の実践②-1 : 来館者への対面アンケート調査
  - ・教育普及活動の実践②-2 : アンケート調査を基にした来館者考察
  - ・ボランティア活動について
  - ・広報活動について
  - ・博物館と写真資料
  - ・写場見学・撮影体験
  - ・情報処理室見学
- ③ 5月19日(木) 10:00～17:00 (担当：学芸部)
  - ・資料保存について
- ④ 5月20日(金) 10:00～17:00 (担当：学芸部)
  - ・考古・民俗資料及びその取り扱いについて
- ⑤ 5月21日(土) 10:00～17:00 (担当：学芸部)
  - ・美術資料及びその取り扱いについて
- ⑥ 5月22日(日) 10:00～17:00 (担当：学芸部)
  - ・歴史資料及びその取り扱いについて
- ⑦ 5月24日(火) (担当：企画情報部、学芸部)
  - ・教育普及活動の実践③ : グループごとに常設展示室で使用するためのツール作成
  - ・教育普及活動の実践④ : 発表・修正・講評

## 6 資料

### (1) 条例・規則

#### ア 神奈川県立の博物館条例

〔昭和41年10月7日  
条例第43号〕

最終改正 平成21年3月27日条例第25号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 博物館法(昭和26年法律第285号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)

を設置する。

名 称	位 置	目 的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通5丁目60番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田499番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第3条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第4条 博物館に展示している博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 前2項の観覧料は、前納とする。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。))第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して6月をこえない範囲内で教育委員会規則で定める日から施行する。(昭和41年11月18日教育委員会規則第8号で、同41年11月21日から施行。ただし、第4条から第9条までの規定の施行期日にあつては昭和42年3月22日とし、第10条の規定の施行期日にあつては昭和42年4月1日とする。)(略)

附 則(平成21年3月27日条例第25号)

この条例は、平成21年7月1日から施行する。

別表(第4条関係)(抄)

区 分		個 人		20人以上の団体	
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者 (学生及び高校生を除く。)	1人につき	300円	1人につき	250円
	20歳未満の者(高校生を除く。)	同	200円	同	150円
	学生(65歳以上の者を除く。)				
	65歳以上の者 高 校 生	同	100円	同	100円

備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者、並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

イ 神奈川県立の博物館組織規則

〔 昭和41年11月18日  
教育委員会規則第10号 〕

最終改正 平成18年3月31日教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関すること。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関すること。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。
- (4) 人事に関すること。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。
- (6) 予算の経理に関すること。
- (7) 観覧料の徴収に関すること。
- (8) 物品の調達及び処分に関すること。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。
- (10) その他他部課の主管に属しないこと。

第4条 削除

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。

- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。

(略)

附 則(平成18年3月31日教育委員会規則第13号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

## ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

〔 昭和41年11月18日  
教育委員会規則第9号 〕

最終改正 平成12年12月15日教育委員会規則第25号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (3) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
- (4) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (5) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12月28日から翌年の1月4日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名 称	開 館 時 間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。

神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。
-----------------	--

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第5条 教育長は、博物館に展示している博物館資料を観覧するため、条例第4条の規定により観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。ただし、第2条から第9条までの規定は、昭和42年3月22日から施行する。

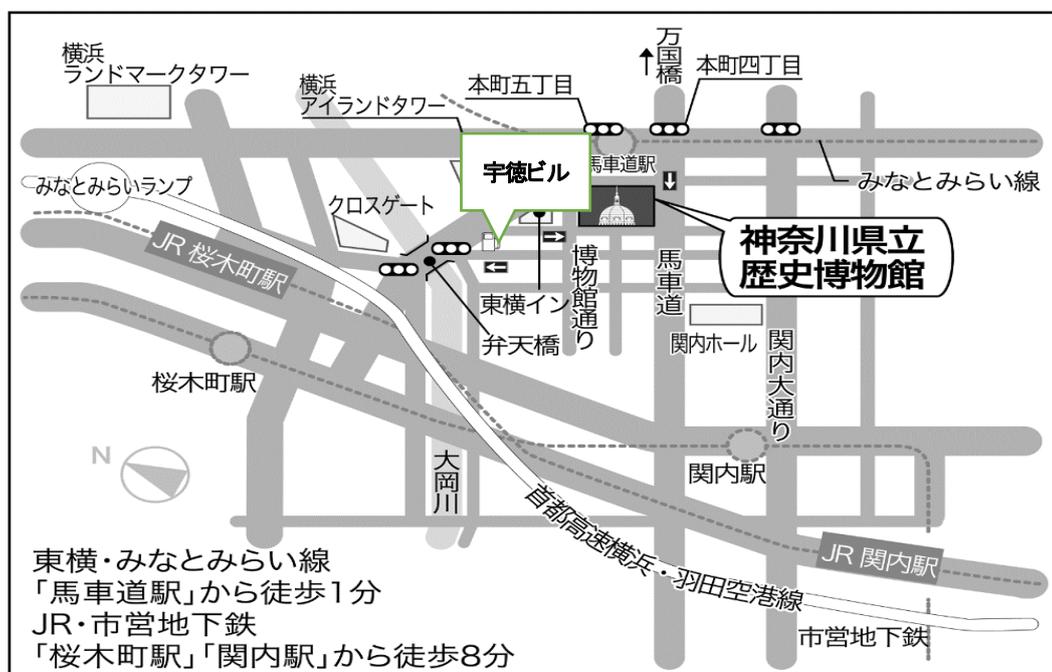
(略)

附 則(平成12年12月15日教育委員会規則第25号)

この規則は、平成13年1月6日から施行する。

## (2) 利用案内

- 1 名称 : 神奈川県立歴史博物館 (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)
  - 2 所在地 : 横浜市中区南仲通 5-60 〒231-0006
  - 3 電話 : 045-201-0926(代表)
  - 4 F A X : 045-201-7364
  - 5 ホームページ : <http://ch.kanagawa-museum.jp/>
  - 6 交通 : みなとみらい線(東急東横線より直通)「馬車道」駅5番出口より徒歩1分、  
JR 京浜東北・根岸線、横浜市営地下鉄ブルーライン「桜木町」駅または「関内」駅より  
徒歩8分
  - 7 休館日 : 月曜日(ただし、祝日の場合は開館)、資料整理休館日、年末年始
  - 8 観覧料 : ○常設展
    - ・20歳以上(学生を除く) : 300円(250円) ( )内は20名以上の団体
    - ・20歳未満及び学生 : 200円(150円)
    - ・高校生及び65歳以上 : 100円(100円)
    - ・中学生以下及び障がい者手帳をお持ちの方は無料○特別展
    - ・常設展とは別料金となり、金額は展示ごとに別途定める。○コレクション展
    - ・無料
  - 9 団体見学 : 事前にご連絡ください。(休館中は見学できません)
  - 10 休館中移転先 : 〒231-0007 横浜市中区弁天通 6-85 宇徳ビル(電話、FAXは3~5に同じ)  
事務室 6階、講座・講演会会場 8階会議室
- 交通 : みなとみらい線「馬車道」駅 3番出口から徒歩3分、5番出口から徒歩4分  
JR・市営地下鉄「桜木町」駅から徒歩5分



神奈川県立歴史博物館年報 平成 28 年度

2018 年 3 月 22 日

編集・発行 〒231-0006

横浜市中区南仲通 5-60

神奈川県立歴史博物館

本書の無断転載を禁ず

ISSN 1346-6127

Kanagawa Kenritsu Rekishi Hakubutsu-kan

Nen-po

*Annual Report of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History*

*(2016.4~2017.3)*

**Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History**

**Naka-ku, Yokohama, Kanagawa, JAPAN**